



Kodak

i5x50 シリーズスキャナー

TWAIN アプリケーション用
スキャンセットアップガイド

目次

TWAINデータソース	1
TWAINデータソースの使用	1
設定方法	2
[設定] ショートカットの変更または作成	3
スキャナーメインウィンドウ	6
イメージ設定ウィンドウ	10
プレビューエリア	12
[一般] タブ	13
[サイズ] タブ	15
[調整] タブ：白黒	18
[調整] タブ：カラー／	18
グレースケール	20
[詳細] タブ	22
[検知] タブ	27
詳細イメージセットアップ	29
[詳細] タブ	29
例1：原稿に応じてカラー／グレースケールまたは白黒イメージの作成	34
例2：書類の複数イメージを作成	36
例3：書類の両面にそれぞれ異なる設定を使用	38
デバイス設定ウィンドウ	40
デバイス - [一般] タブ	41
デバイス - [搬送部] タブ	44
デバイス - [ソート] タブ	47
ソートルールの優先順位	47
ソート - [一般] タブ	48
ソート - [パッチ] タブ	50
ソート - [バーコード] タブ	53
デバイス - [スタッキング] タブ	60
デバイス - [インデックス] タブ	60
デバイス - [プリンタ] タブ	65
デバイス - [重送検知] タブ	70
デバイス - [バッチ] タブ	75
デバイス - [パッチ] タブ	77
インテリジェントな 印字	80
[診断] ウィンドウ	85
診断 - [一般] タブ	86
診断 - [デバッグ] タブ	87
診断 - [ログ] タブ	88
Scan Validation Tool	89
[Scan Validation Tool] の起動	89
Scan Validation Tool ツールバーのボタン	90
付録 A コントロール デュアル スタッキング	91
デバイス - [スタッキング] タブ	91
スタッキングオプションを使用する場合の推奨設定	93

TWAINデータソース

本ガイドでは TWAIN/TWAINDSMデータソースの使用手順やスキャナーの機能について説明します。同機能は、お使いのスキャンアプリケーション（Kodakキャプチャプロソフトウェアなど）のユーザインターフェイスで利用できます。

本ガイドでは、デフォルトの TWAIN データソースインターフェイスについて説明します。ご使用のアプリケーションで、目的に合わせて TWAIN データソースのユーザインターフェイスを変更することができます。アプリケーションプロバイダが TWAIN データソースのインターフェイスをカスタマイズしている場合は、このガイドで説明しているデフォルト画面とは異なる場合があります。

TWAINデータソースの使用

Kodal5x50スキャナーは、さまざまな電子イメージを提供します。お使いのスキャンアプリケーションと連携動作する、TWAINデータソースを使用してイメージが取得できます。TWAINデータソースはスキャンアプリケーションにスキャナーをリンクさせるスキャンシステムの一部です。

TWAINデータソースを使用すると、メインウィンドウに設定のショートカットが一覧表示されます。それぞれの [設定のショートカット] は特定のイメージとデバイス設定のグループです。[設定のショートカット] には、さまざまな原稿に対応する、一連の出力設定が定義されています。いずれの [設定のショートカット] も希望に満たない場合は、カスタマイズした設定のショートカットを作成できます。たとえば、「請求書」という名前の設定ショートカットを作成し、請求書をスキャンする場合は [設定のショートカット] を選択するだけでスキャンできます。詳細については、「[設定]ショートカットの変更または作成」ページの 3を参照してください。

注： ISISドライバを使用している場合は、『ISISドライバのスキャンセットアップガイド』(A-61849) で詳細を参照してください。

スキャンアプリケーションがない場合は、Scan Validation Tool を使用して TWAIN データソースにアクセスし、スキャナーでスキャンできます。Scan Validation Tool は診断補助として提供されていますが、大容量スキャンアプリケーションには適さない場合があります。Scan Validation Tool の使用方法の詳細は、「Scan Validation Tool」ページの 89に記載されています。

設定方法

最終的な目的は、できるだけ簡単にスキャン処理を実行することにあります。スキャナーメインウィンドウから [設定のショートカット] を選択し、[OK]/[スキャン] を選択するだけで実行できます。

このスキャナーでは既にいくつかの [設定のショートカット] が定義されています。ほとんどの場合、これらのショートカットで必要なすべての作業を実行できます。別の設定が必要な場合は、独自のショートカットを作成する必要があります。作成したショートカットは [設定のショートカット] のリストに追加され、以降のスキャンに使用できます。

設定するオプションの大半は、以下の2つのウィンドウにあります。

- **イメージ 設定** : スキャナーメインウィンドウの [設定] ボタンをクリックすると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。このウィンドウの [一般]、[サイズ]、[調整]、[詳細]、[検知] タブを使って、イメージ処理パラメータを設定できます。また、[デバイス] ボタンをクリックしてデバイス設定を行ったり、[詳細イメージセットアップ] アイコンをクリックして詳細設定ができます。
- **デバイス設定** : [デバイス] ボタンは、イメージ設定ウィンドウにあります。[デバイス] を選択すると、[一般]、[搬送部]、[インデックス]、[バッチ]、[重送検知]、[パッチ] タブが表示されます。その他のタブ (ソート、スタッキング、印刷など) は、インストールされているアクセサリによって表示される場合があります。デバイス設定ウィンドウから、[診断] にアクセスすることもできます。

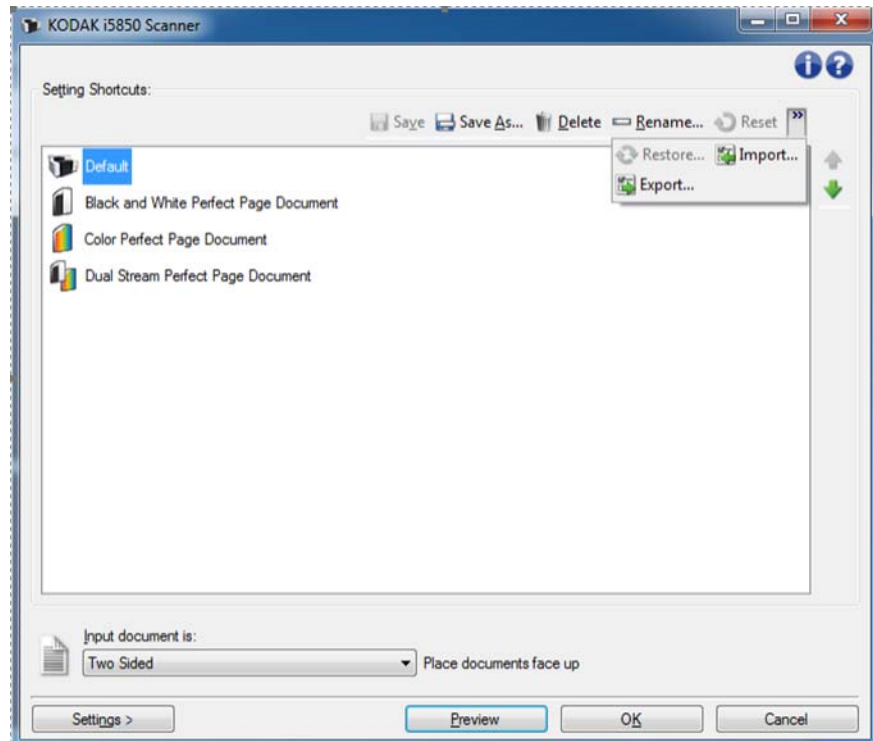
以降の手順は、ショートカットの設定方法について説明しています。スキャナーウィンドウとタブの各機能とオプションの詳細な説明は、「スキャナーメインウィンドウ」 ページの 6を参照してください。

注 : 設定のショートカットの設定が、スキャンアプリケーションの設定に優先することがあります。このような場合、選択したショートカットがスキャナーメインウィンドウに表示され、その隣に、<変更済み>という文字が表示されます。設定のショートカットを使用せず、まず固有の設定をスキャナーにダウンロードしてから、TWAINデータソースにアクセスするアプリケーションで、このような状況が発生します。

[OK]をクリックしてスキャンを開始すると、設定の変更を保存するかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。設定のショートカットを使わないアプリケーションを利用する場合は、この質問に対して [いいえ] を選択してから、スキャンを行ってください。

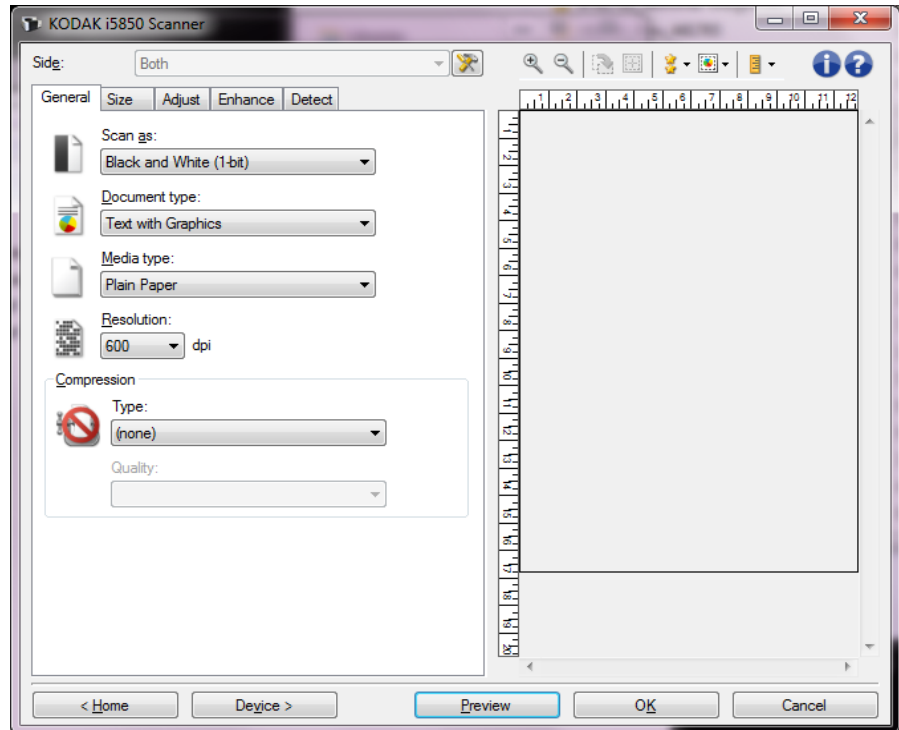
[設定] ショートカット の変更または作成

スキャナーメインウィンドウから、以下の作業を行います。



1. [設定のショートカット] リストから、あらかじめ定義されている設定のショートカットを選択します。目的のイメージ出力に最適な [設定のショートカット] を選択することを推奨します。
2. [入力ドキュメントのタイプ] ドロップダウンリストから、原稿の表面、裏面、または両面のいずれかを選択します。

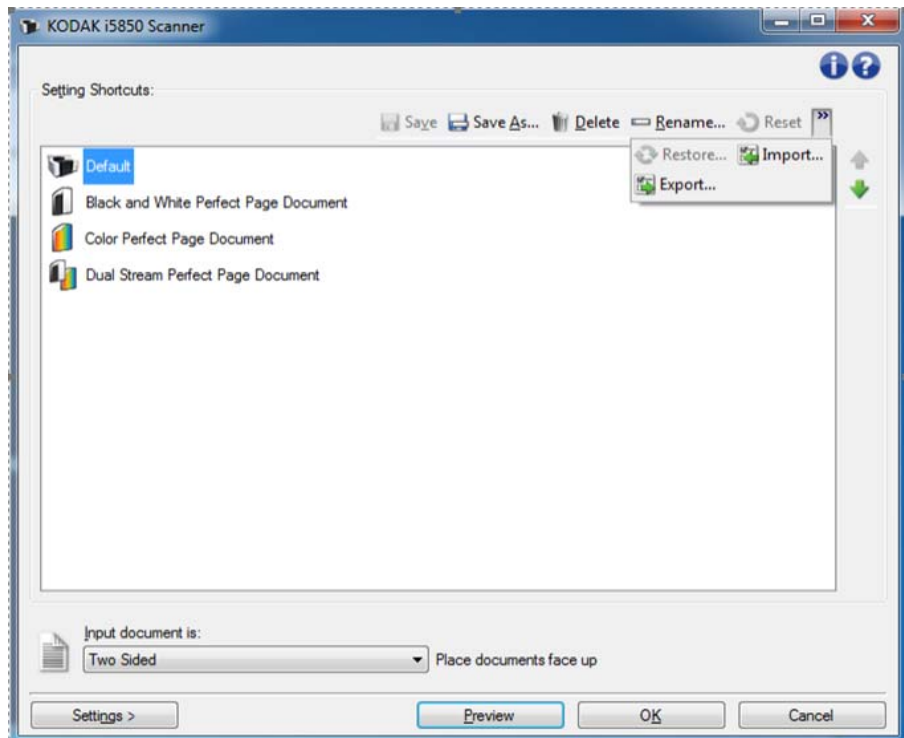
3. スキャナーメインウィンドウで **[設定]** を選択します。イメージ設定ウィンドウの **[一般]** タブが表示されます。



4. [一般] タブで適切なオプションを選択します。これらのオプションについては、「[一般]タブ」ページの 13で詳しく説明しています。
注： 必要な場合は、他のタブで各設定を確認し、変更します。
5. スキャナーの入力エレベータに原稿を1枚セットします。
6. 選択したオプションによってどのようにイメージがスキャンされるかを確認するには、**[プレビュー]** をクリックします。
注： 表示されたイメージの品質に満足できない場合は、別のショートカットを利用して設定を変更するか、イメージ設定ウィンドウの他のタブで設定内容を更に調整します。
7. イメージ設定ウィンドウの **[デバイス]** を選択して目的のデバイス設定を選択します。これらの設定については、「デバイス設定ウィンドウ」ページの 40で詳しく説明しています。
8. 各タブで、スキャナーに実行させる適切なオプションを選択します。
9. **[ホーム]** をクリックしてスキャナーメインウィンドウに戻ります。
10. **[名前を付けて保存]** を選択して [名前を付けて保存] ウィンドウを表示し、新しい名前でこの設定ショートカットを保存します。または、**[保存]** を選択して、変更した設定ショートカットを同じ名前の下に保存できます。

スキャナーメインウィンドウ

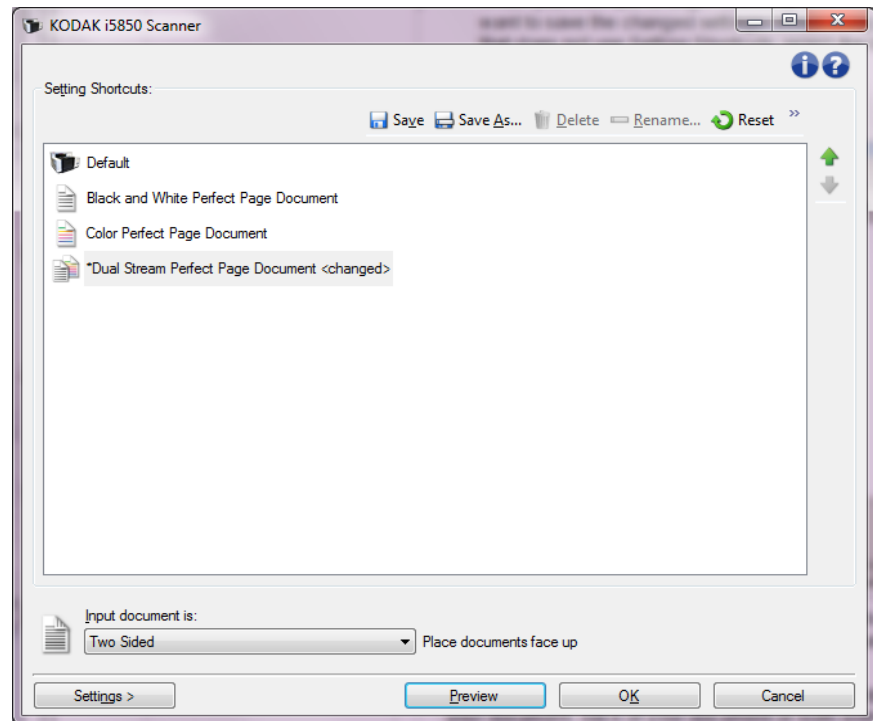
スキャナーメインウィンドウはスキャナーのユーザインターフェイスのホームウィンドウです。[設定のショートカット]、[OK]/[スキャン]の順に選択するだけでスキャンできます。



[設定のショートカット] — 現在定義されている設定のショートカットが一覧表示されます。以下のショートカットが用意されています。

- **デフォルト** — スキャナーのデフォルト設定
- **白黒パーフェクトページドキュメント** — イメージ処理を適用して、白黒イメージの外観を向上します
- **カラーパーフェクトページドキュメント** — イメージ処理を適用して、カラーイメージの外観を向上します
- **デュアルストリームパーフェクトページドキュメント** — イメージ処理を適用して、各スキャンページのカラーと白黒の両方のイメージを出力します

注： [設定のショートカット] を変更してその変更を保存していない場合、[設定のショートカット] に <変更済み> という文字が付加されます。













入カドキュメントのタイプ—ドキュメントのどちらの面のイメージを出力するかを選択できます。

- 両面：原稿の両面をスキャンします。
- 片面 - 表：原稿の表面をスキャンします。
- 片面 - 裏：原稿の裏面をスキャンします。

注： 入力エレベータにスキャンする原稿の表面を上にしてセットしてください。

スキャナーメインウィンドウのアイコン：

	保存 — 選択した [設定のショートカット] に対して行った変更を保存します。
	名前を付けて保存 — [名前を付けて保存] ウィンドウが表示され、現在の設定を新しい [設定のショートカット] として保存します。
	削除 — 選択した [設定のショートカット] を削除します。この場合、確認を求めるメッセージが表示されます。これはユーザーが作成したショートカットにのみ使用できます。
	名前の変更 — [設定のショートカット] の名前を変更します。これはユーザーが作成したショートカットにのみ使用できます。
	リセット — 選択した [設定のショートカット] への保存していない変更を元に戻すことができます。
	復元 — [復元] ウィンドウを表示して、予め用意されたショートカットに対して行った変更を元に戻すことができます。これは、1つ以上の付属のショートカットが変更または削除されている場合にのみ利用できます。
	インポート — 別の [設定のショートカット] のセットをインポートして、現在の全てのショートカットを置換します。このオプションを選択すると、OSの [ファイルを開く] ウィンドウが表示され、インポートするショートカットセットのファイルを選択できます。
	エクスポート — 現在のすべての設定のショートカットをショートカットセットにエクスポートします。このオプションを選択すると、OSの [名前を付けて保存] ウィンドウが表示され、ショートカットセットのファイル名を指定できます。
	上に移動 — 選択した設定のショートカットを、リスト中の1つ上の場所に移動します。
	下に移動 — 選択した設定のショートカットを、リスト中の1つ下の場所に移動します。

注：

- **削除、名前の変更、復元、インポート、エクスポート**は、選択した [設定のショートカット] が変更中の場合には使用できません。
- 再度移動しない限り、移動先の場所にそのショートカットが表示されます。
- 別のPCに設定のショートカットを転送する場合：転送したいショートカットがあるPCから、**[エクスポート]**を選択し、別のPCから**[インポート]**を選択します。

設定 — [イメージ設定] ウィンドウで、選択した [設定のショートカット] を変更することができます。このウィンドウから、デバイス設定および診断ウィンドウにアクセスできます。

プレビュー — スキャンを開始して、イメージ設定ウィンドウのプレビューエリアにスキャンされたイメージが表示されます。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づいたサンプルです。

OK/スキャン—このオプションを選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

注： このボタンが **[OK]** の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションに対して引き続き有効です。

キャンセル — スキャナーメインウィンドウを閉じて、変更を破棄します。

情報アイコン



バージョン情報：スキャナーのバージョンと著作権情報を表示します。



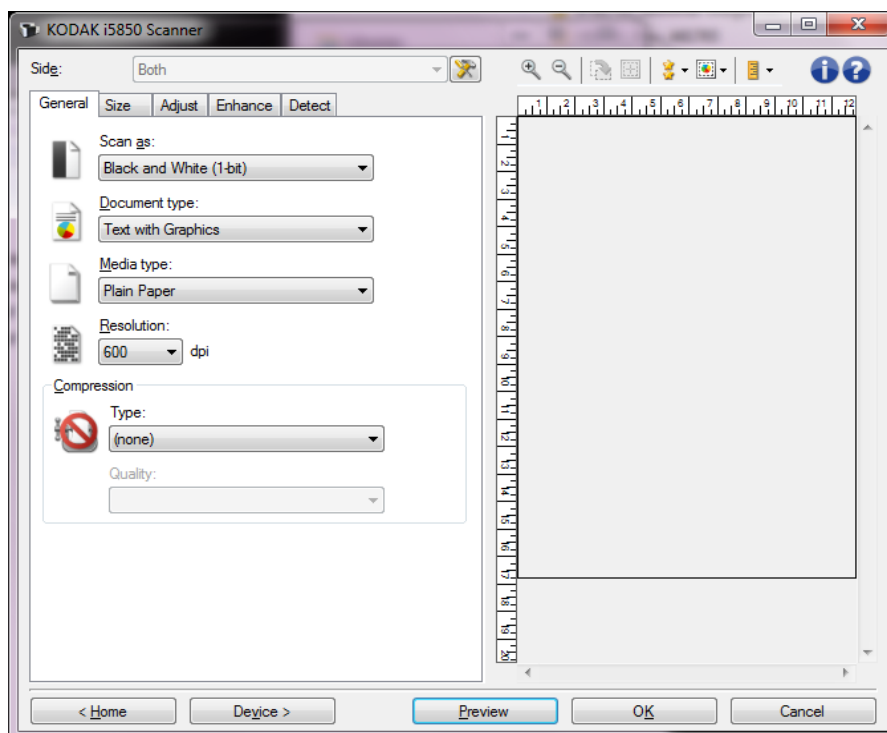
ヘルプ：現在表示されているウィンドウのヘルプ情報を表示します。

イメージ設定ウィンドウ

このウィンドウから、利用可能なタブを使用してイメージ処理オプションを定義できます。イメージ設定に使用される値は、選択された設定のショートカットに保存されます。[イメージ設定] ウィンドウにはデフォルトで一般、サイズ、調整（カラー/グレースケールと白黒）、詳細、検知の各タブがあります。

ここでは、（Scan Validation Toolで表示される¹）TWAINのデフォルトインターフェイスについて説明します。ホストアプリケーションは一部のタブを非表示にしたり、表示されるオプションを制限したりすることで、インターフェイスを変更することができます。

読取り面-設定する読取り面とイメージを選択できます（例：表面、裏面、両面：カラー（24ビット）など）。すべてのイメージ設定は、選択されたイメージに適用されます。










注： [読取り面] オプションは、詳細設定が [詳細] タブで選択された場合のみ利用できます。



イメージの詳細設定： [詳細] タブを表示します。

1.Scan Validation Tool の開始および使用方法の説明については、「Scan Validation Tool」ページの 89 を参照してください。

イメージ設定ウィンドウ用のツールバーボタン

	<p>ズームイン：プレビューエリアに現在表示されているイメージを拡大します。</p>
	<p>ズームアウト：プレビューエリアに現在表示されているイメージを縮小します。</p>
	<p>アウトラインを回転：アウトラインを90度回転します。 注：このオプションは、回転されたアウトラインがスキャナーの最大幅までに適合する場合のみ使用できます。</p>
	<p>アウトラインを中央に配置：アウトラインがスキャナーの最大幅の中央に配置されるように、アウトラインのX原点を調整します。</p>
	<p>プレビューの品質：スキャン画像の表示品質を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 標準：イメージを低解像度で表示します。 • 高：実際のイメージにもっとも近い品質で表示します。このオプションを選択した場合、[プレビュー] ウィンドウに表示されるイメージは、最終的に出力されるイメージに近いものになります。 <p>注：原稿の内容に応じて、イメージが実際のように表示されるよう、拡大表示する必要がある場合があります。</p>
	<p>プレビューの自動更新：表示されるイメージの更新方法を選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オン]：自動的に設定変更の結果を反映して表示されます。通常、原稿を再スキャンする必要はありません。再スキャンが必要な場合は、原稿をもう一度挿入するようメッセージが表示されます。 • [オフ]：再度プレビュースキャンを実行するまで表示されるイメージは更新されません。
	<p>単位：スキャナーの測定値の単位を選択します。これには、プレビューウィンドウとサイズ関連オプションが含まれます。[単位] オプションは、[インチ]、[センチメートル]、[ピクセル]です。</p>

プレビューエリア

プレビューエリアに表示されるイメージは、現在のショートカット設定に基づくサンプルです。プレビュースキヤンの実行後に、このエリアにイメージが表示されます。

アウトライン — [原稿：マニュアル指定] または [イメージ：ドキュメントの一部] を [サイズ] タブから選択すると、現在の [アウトライン] 選択項目が表示されます。アウトラインの位置がプレビューイメージと合っていない場合は、マウスを使用してアウトラインのサイズと位置を調整できます。マウスのカーソルをアウトラインの回りで動かすとカーソルが変化し、マウスの左ボタンを押し続けるとアウトラインを変更できます。

- **移動**：カーソルをアウトライン内に置くと、アウトラインの位置を調整できます。
- **角**：グラフィックの四隅の1つにカーソルを置くと、2つの辺を同時に調整できます。



- **辺**：グラフィックの四辺の1つにカーソルを置くと、その辺を調整できます。



- **回転**：回転のグラフィックの上にマウスカーソルを置くと、アウトラインの角度を調整できます。



ホーム - スキャナーメインウィンドウに戻ります。

デバイス — [デバイス設定] ウィンドウを表示します。

プレビュー - スキャンを開始して、プレビューエリアにイメージを表示します。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づいたサンプルです。

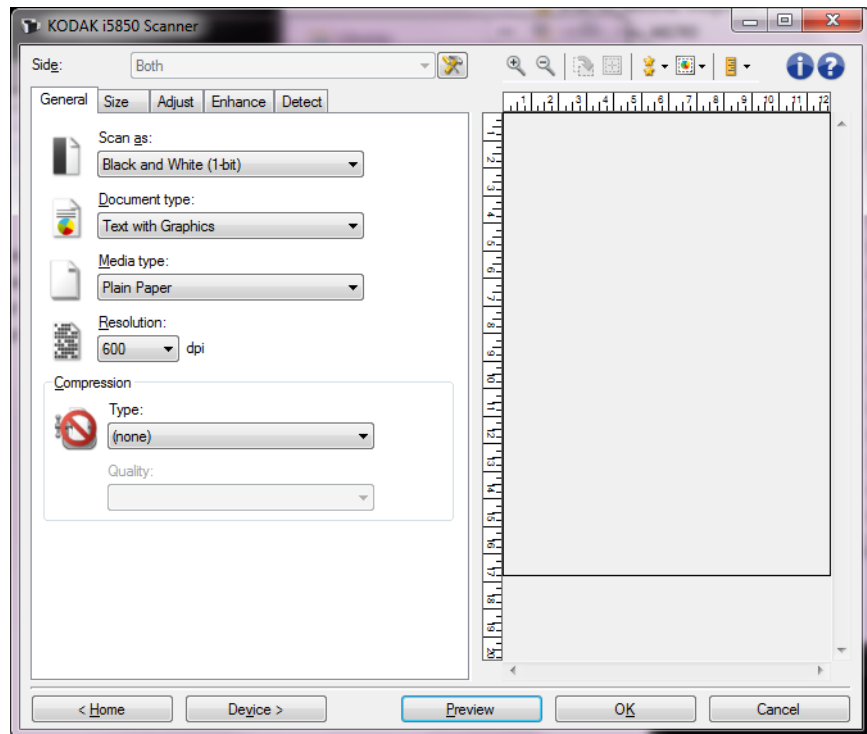
OK/スキャン—このオプションを選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。

注： このボタンが **[OK]** の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションに対して引き続き有効です。

キャンセル — 変更内容を保存せずに、スキャナーメインウィンドウを閉じます。

[一般] タブ

[一般] タブには一般的に使用されるイメージオプションが含まれています。ほとんどの場合、他のタブのオプションを変更する必要はありません。



スキャン形式 - イメージのフォーマットを選択できます。

- カラー (24 bit) : カラーイメージを生成します。
- グレースケール (8ビット) : グレースケールイメージを生成します。
- 白黒 (1ビット) : 白黒イメージを生成します。

注 : [スキャン方法] オプションは、[読取り面あたりのイメージ数 : 1] が[詳細] タブで選択されている場合にのみ使用できます。

ドキュメントのタイプ - ドキュメントの内容のタイプを選択します。

- 文字と図形 : 文書、グラフィック（棒グラフ、円グラフなど）、線画などが混在している原稿の場合に選択します。
- テキスト : 文字原稿の場合に選択します。
- 写真付きテキスト : 文字と写真が混在している原稿の場合に選択します。
- 写真 : 写真が主体の場合に選択します。

書類のタイプ - スキャンする用紙の素材や重量に基づいてタイプを選択します。オプションは、普通紙、薄紙、光沢紙、カードストック、雑誌です。

解像度 - 解像度 (dpi) を選択します。ここで指定した値によってイメージ品質が決まります。また、スキャン時間やイメージサイズにも影響します。オプションは、100、150、200、240、250、300、400、500、600dpiに設定できます。

圧縮 - イメージのサイズを縮小できます。

• **タイプ** :

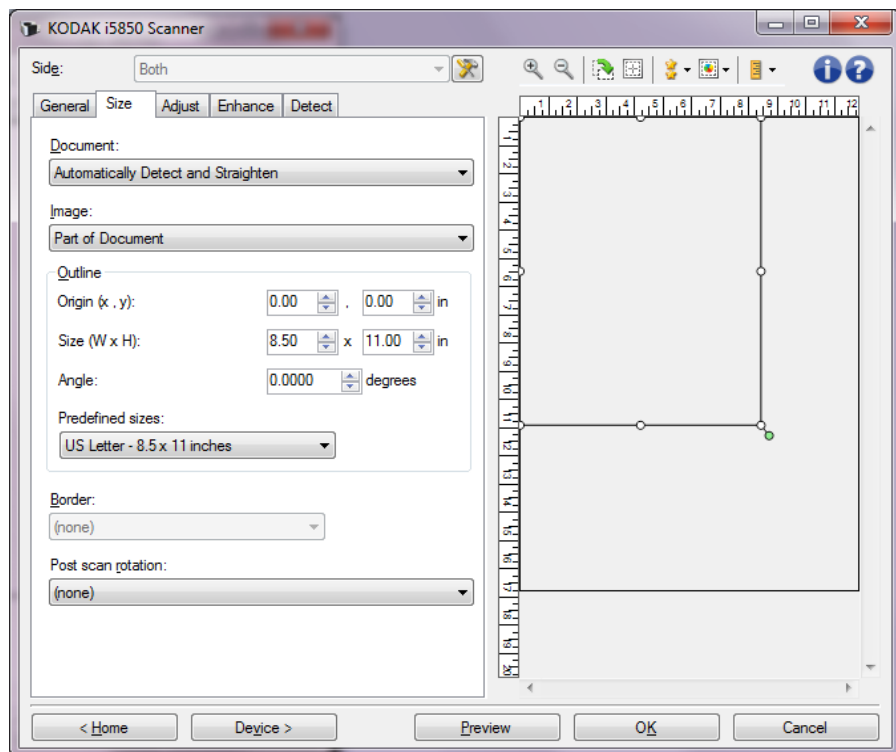
- (なし) : 圧縮しません。サイズの大きなイメージが生成されます。
- **グループ4** : 白黒イメージを圧縮するCCITT標準を使用します。通常は、TIFFファイルと組み合わせて利用されます。
- **JPEG** : JPEG技術を使用してカラー/グレースケールイメージを圧縮します。

• **品質**—JPEG圧縮を選択した場合に、いずれかの品質オプションを選択します。

- **ドラフト** : 圧縮率を最大にして最小サイズのイメージを生成します。
- **標準** : 標準的な圧縮率ですが、満足いく品質のイメージが生成されます。
- **高** : 一部圧縮され、良い品質のイメージが生成されます。
- **最高** : 小さい圧縮率で良い品質のイメージが生成されます。
- **高品質** : 最小の圧縮率で最大サイズのイメージが生成されます。

注 : このオプションはプレビューイメージには適用されません。

[サイズ] タブ



原稿 - スキャナーで搬送中の原稿を検知する方法を選択します。

- **自動検知/傾き修正** : 各原稿を（サイズに関係なく）自動的に検知し、斜めに搬送された原稿の傾きを補整します。
- **自動検知** : 各原稿を（サイズに関係なく）自動的に検知します。原稿が斜めに搬送されても、補正されません。
- **マニュアル指定** : [アウトライン] オプションで指定する領域に基づきイメージが出力されます。同一サイズの原稿を含むスキャンジョブに対してのみこのオプションを使用してください。

イメージ - ドキュメントのどの部分をイメージの作成に使用するかを選択します。

- **ドキュメント全体**：[原稿：自動検知／傾き補正]、[原稿：自動検知]、または[原稿：マニュアル選択] を選択すると、原稿全体を出力します。
- **原稿の一部**：[原稿：自動検知／傾き修正] を選択すると、[アウトライン] オプションで指定する原稿の一部を捕捉します。

アウトライン — イメージの作成に使用する位置とサイズを選択します。プレビューエリアにアウトラインが表示されます。

- **原点 (x, y)** :
 - [原稿：自動検知／傾き修正] を選択すると、(x) は原稿の左端からの距離、(y) は原稿の上端からの距離になります。
 - [原稿：マニュアル指定] を選択すると、(x) はスキャナーの搬送路の左端からの距離、(y) はスキャナーで検知された原稿の先端からの距離になります。
- **サイズ (幅 x 高さ)** : [原稿：自動検知/傾き補正] または [原稿：マニュアル指定] を選択すると、これがイメージの幅と高さになります。

注： アウトラインがスキャンされた原稿の長さを超える場合、イメージは指定された長さよりも短くなる場合があります。

- **角度**：アウトラインの角度を選択できます。
- **設定サイズ**：一般的に使用される用紙サイズのリストが表示されます。このリストから項目を選択すると、自動的にアウトラインのサイズがその用紙のサイズに設定されます。**アウトラインサイズがいずれのサイズとも一致しない場合、[カスタム] が表示されます。**

注： マウスを使用してプレビューエリアに表示されるアウトラインを調整することもできます。

外枠- イメージ端の処理を選択できます。

- (なし)
- **追加**：イメージの4辺に約 0.25cm までの黒枠が追加されます。

注： このオプションは、[原稿：自動サイズ検知/傾き補正]、[ドキュメント：自動検知]、または[原稿：マニュアル指定]で使用できます。

- **削除**：外枠を削除して、原稿内側のイメージを生成します。外枠は原稿の端の振れにより生じます。たとえば、原稿が完全な四角形でない場合や歪んで搬送された場合などがあります。

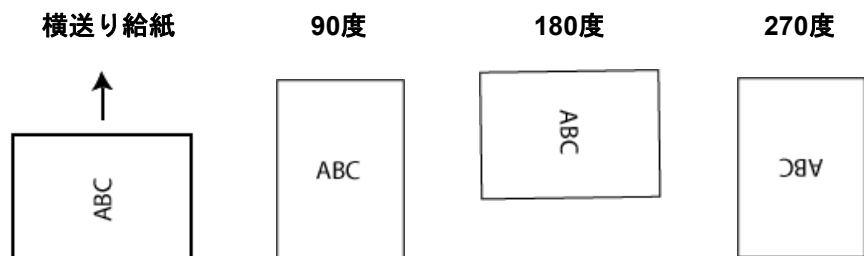
注：

- このオプションで外枠の大部分が削除できなかった場合、若干の文書情報が失われる可能性があります。
- このオプションは **[原稿：[自動サイズ検知／傾き補正]** および **[イメージ：原稿全体]** がどちらも選択されている場合のみ使用できます。

スキャン後に回転 - スキャン後にイメージに適用される回転角度を選択できます。

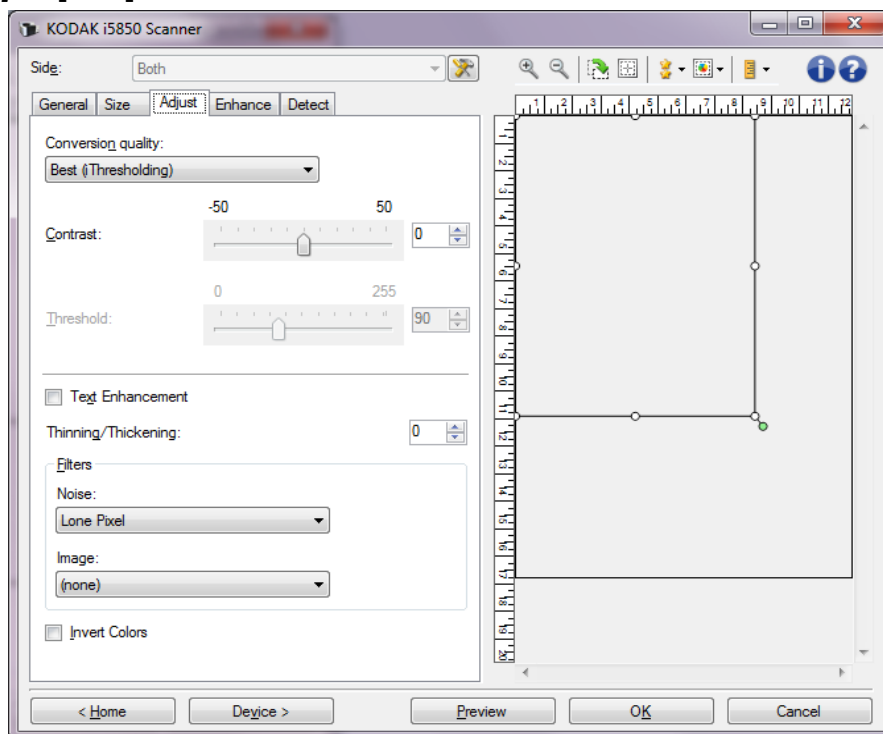
- (なし)
- **自動** — 各原稿を分析して、原稿が送信された方法を判断し、イメージを適正な方向に回転します。
- **自動 - デフォルト 90 度**：スキャナーが各原稿の文字方向を分析して、イメージを適正な方向に回転します。原稿が給紙された方向を特定できない場合、イメージを 90 度回転します。
- **自動 - デフォルト 180 度** スキャナーが各ドキュメントを分析して、ドキュメントが送信された方法を判断し、イメージを適正な方向に回転します。原稿が給紙された方向を特定できない場合、イメージを 180 度回転します。
- **自動 - デフォルト 270 度** スキャナーが各ドキュメントを分析して、ドキュメントが送信された方法を判断し、イメージを適正な方向に回転します。原稿が給紙された方向を特定できない場合、イメージを 270 度回転します。
- **90、180、270 度** — 回転する角度を指定します。

以下の例は、これらの設定が横方向にスキャンされた原稿にどのように影響するかを表します。



[調整] タブ：白黒

[調整] タブで利用できるオプションは、[一般] タブの [スキャン形式] の選択項目により異なります。以下のオプションは、[スキャン形式] で [白黒] を選択した場合に基づきます。



変換品質—これらの設定は、白黒イメージを生成するために使用する、グレースケール原稿の解析方法に影響します。

- **最高 - Intelligent QC**：最高解析に加え、Intelligent QC（品質管理）も実行されます。設定が困難な原稿のイメージがグレースケールで生成され、ご使用のアプリケーションソフトウェアで画質を最終的に決定することができます。

注： このオプションは、Kodakキャプチャプロソフトウェアでのみ利用可能です。詳細については、ソフトウェアの説明書を参照してください。

- **最高(iThresholding)**:原稿ごとに解析して、最高品質のイメージを生成します。単一の設定では画質が異なる原稿（文字のかすれ、暗い背景、カラーの背景など）を混在スキャンすることができます。
- **通常 (ATP)**：目的の画質を生成するための最適な設定を選択できます。このオプションは単一の設定で原稿をスキャンする際に最適です。また、[最高] 選択時に目標とする画質の [コントラスト] 設定が見つからない場合など、異なる設定の原稿をスキャンする場合にもこのオプションを使用できます。
- **ドラフト (固定)**：ピクセルが白か黒かを判断するために使用するグレースケールのしきい値を選択します。このオプションは、コントラストの高い原稿に最適です。

コントラスト - イメージを鮮明にまたはソフトにします。この設定値を小さくすると、イメージがやわらかくなり、イメージ中のノイズが除去されます。この設定値を大きくすると、イメージがより鮮明になり、薄いイメージがわかりやすくなります。これらのオプションの範囲は、[-50]から[50]です。デフォルト値は0です。

注： [変換時の品質：最高] と [変換時の品質：通常]の場合のみ使用できます。

スレッシュホールド - ピクセルを黒または白と認識するレベルを設定します（1ビット/ピクセル）。この設定値を小さくすると、イメージが薄くなり、背景ノイズを抑えることができます。この設定値を大きくすると、イメージが濃くなります。また、薄いイメージを取り込みやすくなります。このオプションには、0～255の値を指定することができます。デフォルトは90です。

注： これは、[変換時の品質：標準] および [変換の品質：ドラフト]の場合には使用できません。

文字強調 - 文字が見やすくなるようにスキャナーを設定できます。原稿がほとんど文字で、文字がつながっていない、またはスムーズではない場合にこのオプションをオンにします。このオプションは、i5x50スキャナーでのみ利用可能です。

注： [罫線調整 細/太] が有効の場合、小さいフォントには反映されない、または効果が落ちる場合があります。

罫線調整 細/太 - ピクセルを細くまたは太くします。この設定値を小さくするとピクセルを細く/小さくします。この設定値を大きくするとピクセルを太く/大きくします。デフォルト値は0で、[罫線調整 細/太] はオフです。

フィルター

• ノイズ

- (なし)
- **LorPixel (孤立点除去)** : 白ピクセルで完全に囲まれている単一の黒ピクセルを白へ変換するか、黒ピクセルで完全に囲まれている単一の白ピクセルを黒へ変換することにより、ランダムノイズを減らします。
- **マジョリティールール**:各ピクセルをその周辺全域のデータに基づき設定します。ピクセルは周辺のピクセルの大部分が白の場合白になり、黒の場合は黒になります。
- **背景** : イメージの背景エリア（例：非テキストエリア）を確認して分析し、画素にばらつきのあるランダムノイズを軽減します。

• イメージ

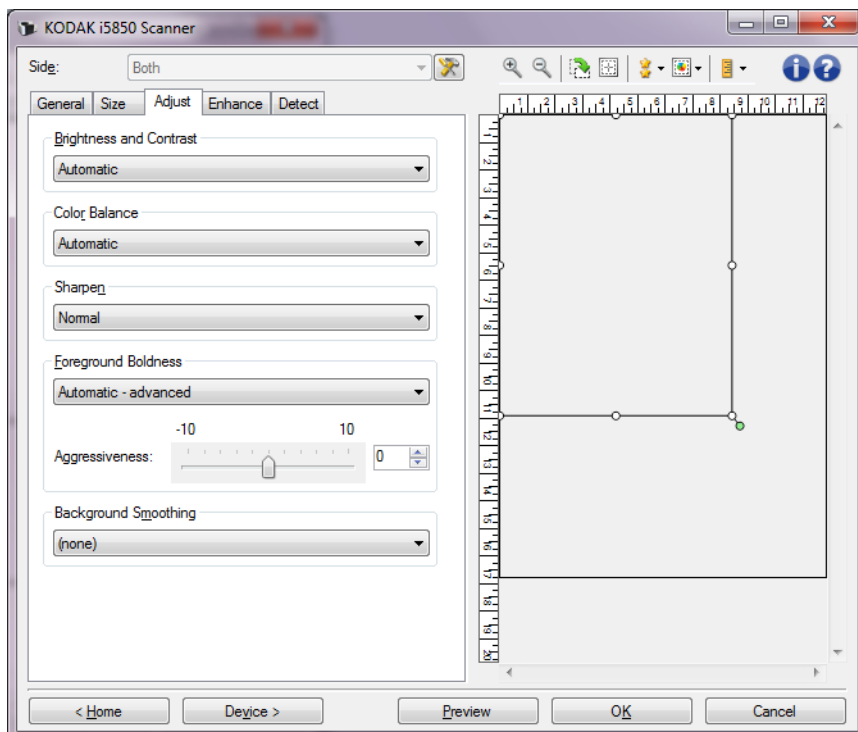
- (なし)
- **ハーフトーン除去** : ハーフトーンスクリーンを使ったドットマトリックステキストやイメージ（新聞の写真など）の見栄えを良くします。

反転 — 黒ピクセルがイメージ内に保存される方法を選択できます。デフォルトでは、黒ピクセルは黒として、白ピクセルは白として保存されます。黒ピクセルを白として、白ピクセルを黒として保存する場合は、このオプションを有効にします。

【調整】 タブ：カラー／グレースケール

【調整】 タブで利用できるオプションは、【一般】 タブの [スキャン形式] の選択項目によって異なります。以下のオプションは、[スキャン形式] で [カラー] または [グレースケール] を選択した場合です。

注： ほとんどのオプションには、追加設定があります。これらの設定は、オプションが選択された場合のみ表示されます。設定が画面に収まりきれない場合、すべての設定にアクセスできるようにスクロールバーが表示されます。



明度とコントラスト

- (なし)
- **自動**：各イメージを自動的に調整します。
- **手動**：すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。
 - **明度** - カラー/グレースケールイメージ中の白の量を変更します。値の範囲は、[-50] から [50] です。
 - **コントラスト** — 大きくすると、暗いエリアをより暗く、明るいエリアをより明るくします。値の範囲は、-50 ~ 50 です。

カラーバランス

- (なし)
- **自動**：各原稿の白い背景を純白に調整します。このオプションを使用すると、用紙ごとの厚さやブランドの違いによる白の差異を補うことができます。写真への使用はお勧めしません。
- **自動 - 詳細**：自動オプションの詳細を調整したい上級者向けです。
 - **強度** - 差異の度合いを調整できます。値を大きくすることで、古くなって黄ばんだ原稿に対応できます。値の範囲は、[-2] から [2]です。
- **手動**：すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。
 - **赤** - カラーイメージ中の赤の量を調整します。値の範囲は、[-50] から [50]です。
 - **青** - カラーイメージ中の青の量を調整します。値の範囲は、[-50] から [50]です。
 - **緑** - カラーイメージ中の緑の量を調整します。値の範囲は、[-50] から [50]です。

注： カラーバランスはグレースケールイメージでは無効です。

シャープネス - イメージ内の境界線をより目立たせます。

- (なし)
- **標準**
- **高**
- **最高**

前景強調—文書やフォームの前景（文字、行など）を強調する場合、このオプションを使用します。

- (なし)
- **自動**：文字や線がすべて太くなります。
- **自動 - 詳細自動オプション**の詳細を設定したい場合に使用します。
 - **強度** - 強弱を調整して前景を調整します。値の範囲は、[-10] から [10]です。

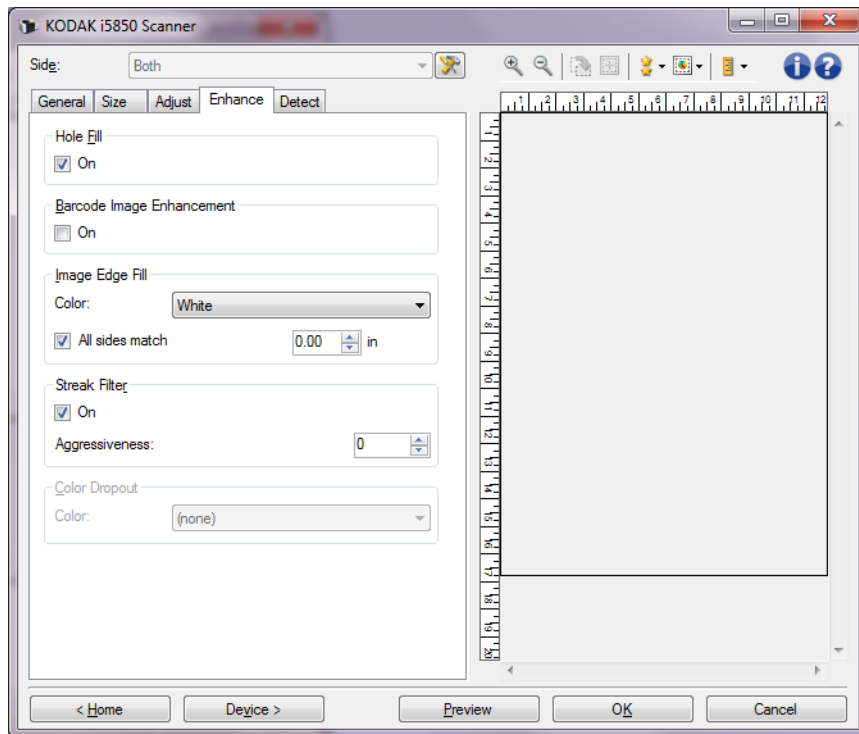
背景のスモーキング—背景色のある原稿やフォームをスキャンする場合にこのオプションを使用すると、背景色を均一にします。このオプションを利用すると、イメージ品質を向上し、ファイルサイズを軽減できます。

- (なし)
- **自動**：背景色を3色までスモーキングします。
- **自動 - 詳細自動オプション**の詳細を設定したい場合に使用します。
 - **強度** - 強弱を調整して背景色を決定します。値の範囲は、[-10] から [10]です。

[詳細] タブ

[詳細] タブのオプションは、[一般] タブの [スキャン形式] の選択項目により異なります。

注：ほとんどのオプションには、追加設定があります。これらの設定は、オプションが選択された場合のみ表示されます。設定が画面に収まりきれない場合、すべての設定にアクセスできるようにスクロールバーが表示されます。



パンチ穴除去 - 原稿の端の周囲にある穴を埋めることができます。埋められる穴のタイプは、丸、長方形、不定形（例、二重穴が開いている、またはバインダーから原稿を取り外した際にできた多少の裂け目など）です。**オンにするとパンチ穴除去機能が有効になります。**

バーコードイメージエンハンスメント - アプリケーションでのバーコードの読取り処理を最適化するようにスキャナーを設定します。**[オン]**にするとバーコードの最適化が有効になります。

イメージの端を埋める — 最終的に出力される電子イメージの端の領域を、選択された色で埋めます。

- **[カラー]** :
 - (なし)
 - **自動** : イメージの端が周囲の色で自動で埋められます。
 - **自動 - 破れを含める** : イメージ端埋めに加え、イメージの端の破れも補足されます。
 - **白**
 - **黒**
- **フレーム設定** : このオプションをオンにすると、4辺が等しく埋められます。このオプションは **[黒]** または **[白]** でのみ利用できます。
- **上** : 上端を埋める量を決定します。
- **左/右** : 左のオプションは、左端を埋める量を、右のオプションは右端を埋める量を設定します。
- **下** : 下端を埋める量を設定します。

注 :

- **[上]**、**[左/右]**、**[下]** の各オプションは、**[フレーム設定]** が有効になっている場合は使用できません。
- **イメージ端埋め** を使用する場合は、大きな値を入力しないよう注意してください。値が大きすぎると、イメージデータが塗りつぶされる場合があります。

このオプションはプレビューイメージには適用されません。

縦縞フィルタ - イメージから縦縞をフィルタするようにスキャナーを設定できます。縦縞とは、元の原稿には存在しないにもかかわらず、イメージに現れることがある線のことです。縦縞は、ドキュメント上の汚れ、泥、塵、または擦り切れた端) が原因で発生するか、スキャナーの推奨の清掃手順に従わないために発生する場合があります。

- **[ON]** : 縦縞フィルタ機能を使用します。
- **強度** : 縦縞フィルタの強弱を調整します。値の範囲は、-2~2です。デフォルト値は0です。

カラードロップアウト — フォームの背景を消去するために使用します。背景が消去されると入力されたデータのみがイメージとして保存されます（フォームの罫線やボックスを消去します）。白黒スキャン時に、スキャナーがイメージの生成のために解析するグレースケールイメージが、設定に影響を受けます。

- **[カラー]**：ドロップアウトする色を選択します。
 - **(なし)**
 - **複数**：濃い色合い（例、黒または濃い青インク）以外の色をドロップアウトします。この機能はスキャンした各イメージのカラー分析を行い、最大5色までドロップアウトします。1600万色以上から色を自動選択します。**[強度]** スライダーを使用して、カラーを調整します。ドロップアウトする色を選択する必要はありません。はグレースケール出力で使用できます。
 - **主色**：メインの色をドロップアウトします。様々な色がドロップアウトされるため、フォームがすべて同じ色の場合でも、このオプションを使用します。またこのオプションは、単一のバッチで各種フォームを混在させることができるので、それぞれが1つのフォームの色をもつ複数のフォームである場合に最適です。
 - **赤**：赤色をドロップアウトします。
 - **緑**：緑色をドロップアウトします。
 - **青**：青色をドロップアウトします。
 - **オレンジ色**
 - **オレンジと赤色**
- **強度**：ドロップアウトする色の強度を調整できます。値の範囲は、**[-10]** から **[10]**です。デフォルト値は 0です。このオプションは、**[カラー]** が **[マルチ]**または**[主色]** に設定されている場合に使用できません。
- **ドロップされていない画像を含める**：ドロップアウトイメージと同時に、スキャナーはドロップアウトされていないイメージを同時に出力します（アプリケーションは2つの別のイメージを受け取ることとなります）。

注： すべての **[カラー ドロップアウト]** オプションは、**[スキャン形式]** で **[白黒]** または **[グレースケール]** が選択されている場合に利用できます。

以下の赤、緑、青のPantone値は、ドロップアウト結果が良好になります。

この値は、標準のPantone Matching System® Colors ガイド（コーティングなし、175本/画面）を使用して確立しています。使用しているドキュメントの背景が明るい白でない場合は、結果が異なる場合があります。iThresholding を推奨します。iThresholding でカラードロップアウトの処理結果に満足が得られない場合は、ATF変換の品質設定により2値化をさらに制御することができます。

以下の表に、赤、緑、青のドロップアウトオプションで最適な色のリストを示します。

赤のドロップアウト

144U	150U	151U	1485U	1495U	1505U	????021 U	156U
157U	158U	1555U	1565U	1575U	1585U	162U	163U
164U	165U	1625U	1635U	1645U	1655U	169U	170U
171U	172U	176U	177U	178U	??????? U	179U	1765U
1775U	1785U	1788U	1767U	1777U	1787U	? 032U	182U
183U	184U	185U	186U	189U	190U	191U	192U
1895U	1905U	1915U	1925U	196U	197U	198U	199U
200U	203U	204U	205U	206U	210U	211U	212U
213U	217U	218U	219U	????U	223U	224U	225U
226U	230U	231U	232U	?????U	236U	237U	238U
239U	240U	2365U	2375U	2385U	2395U	2405U	243U
244U	245U	246U	247U	250U	251U	252U	?U
253U	256U	257U	2562U	2572U	2582U	2563U	2573U
2567U	263U	264U	2635U	2645U	236U	2365U	2375U
243U	244U	245U	250U	251U	256U	257U	2562U
2572U	2582U	2563U	2567U	263U	264U	2635U	2645U
1375U							

緑のドロップアウト

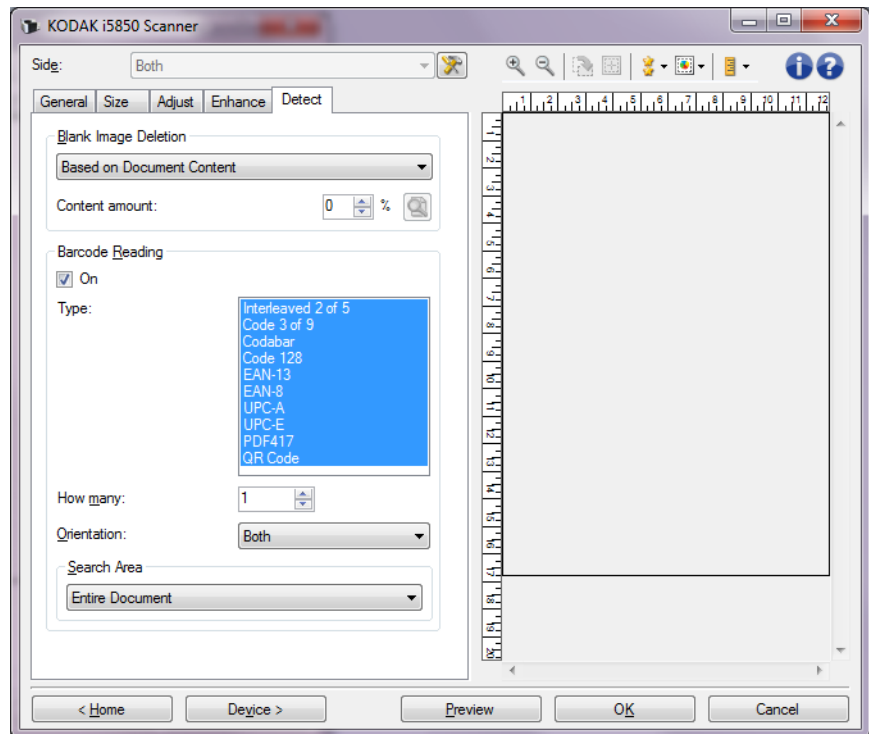
106U	107U	108U	109U	113U	114U	115U	120U
121U	122U	1205U	1215U	127U	134U	135U	1345U
148U	317U	3245U	331U	332U	333U	337U	3375U
3385U	3395U	344U	345U	351U	352U	353U	358U
359U	360U	365U	366U	367U	368U	372U	373U
374U	375U	376U	379U	380U	381U	382U	386U
387U	388U	389U	390U	393U	394U	395U	396U
397U	3935U	3945U	3955U	3965U	317U	3294U	

青のドロップアウト


317U	3245U	236U	2365U	2375U	243U	244U	245U
250U	251U	256U	257U	2562U	2572U	2582U	2563U
2567U	263U	264U	2635U	2645U	236U	2365U	2375U
243U	244U	245U	250U	251U	256U	257U	2562U
2572U	2582U	2563U	2567U	263U	264U	265U	266U
2635U	2645U	2655U	270U	271U	272U	2705U	2715U
2725U	2706U	2716U	2726U	2707U	2717U	2727U	2708U
2718U	2728U	277U	278U	279U	283U	284U	285U
290U	291U	292U	293U	2905U	2915U	2925U	2935U
297U	298U	299U	300U	2975U	2985U	2995U	3005U
304U	305U	306U	プロセス ブルー U	310U	311U	312U	313U
3105U	3115U	3125U	317U	318U	319U	324U	3242U
3252U	3245U						

[検知] タブ

[検知] タブには、以下のオプションがあります。



白紙イメージの削除 — スキャンアプリケーションに白紙のイメージが取り込まれないように設定できます。

- **(なし)** : すべてのイメージがスキャンアプリケーションに送信されます。
- **文字量基準** : イメージ内の原稿内容に基づきイメージが白紙であるかどうか判断されます。
 - **文字量** : スキャナーが白紙であると判断する最大文字量を選択できます。情報量がこの値以上のイメージは白紙でないと判断され、スキャンアプリケーションへ送信されます。値の範囲は、0~100%です。
 - **文字量の学習モード**にはこのアイコンを使用します。学習モードでは、割合フィールドディスプレイにプレビューイメージの文字量が入力されます。 
- 一般的な白紙原稿（レターヘッド付きの白紙原稿など）があれば、内容量の設定（必要に応じてプレビュースキャンの実行、このボタンのクリック、内容サイズの調整など）を行う際に参考になります。

注： このオプションはプレビューイメージがある場合のみ使用できます。

- **ファイル容量基準**：イメージはスキャンアプリケーションへ送信される（他のすべての設定の適用後）イメージのサイズに応じて白紙と判断されます。

- **ファイル容量**：スキャナーが白紙でないと判断するイメージの最小サイズを選択できます。サイズがこの値以下のイメージは白紙と判断され、スキャンアプリケーションへ送信されません。値は1～1000KB

（1KBは1024バイト）の範囲です。

バーコード読取り — バーコードのイメージを検索して情報をスキャンアプリケーションに戻すようにスキャナーを設定します。 **[ON]** にチェックを入れてバーコード読取りをオンにします。

- **タイプ**：検索するバーコードのタイプを1つまたは複数選択します。

- Codabar
- Code 128
- Code 3 of 9
- EAN -13
- EAN-8
- Interleaved 2 of 5
- UPC-A
- UPC-E
- PDF417
- QR コード

- **数**：検索するバーコードの数を選択します。

- **方向**：検索するバーコードの方向を選択します。選択内容は以下のとおりです。 **水平**、**垂直**、または**両方**。

注： これは最終イメージに影響します（クロッピングおよび回転の適用後）。

- **検索エリア**：イメージを検索する範囲を選択します。

- **ドキュメント全体**

- **原稿の一部**

- **原点 (x,y)**：(x) はイメージの左端からの距離、(y) はイメージの上端からの距離になります。

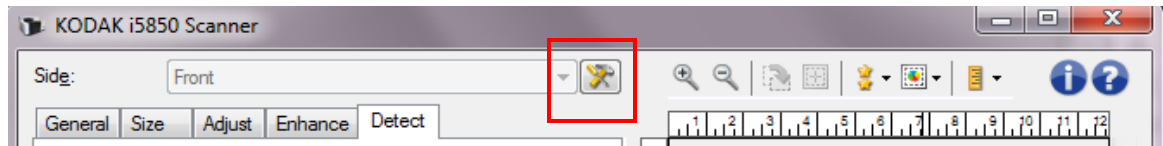
- **サイズ (幅 x 高さ)**：検索エリアの幅と高さを設定します。

注： これらは最終イメージに影響します（クロッピングおよび回転の適用後）。

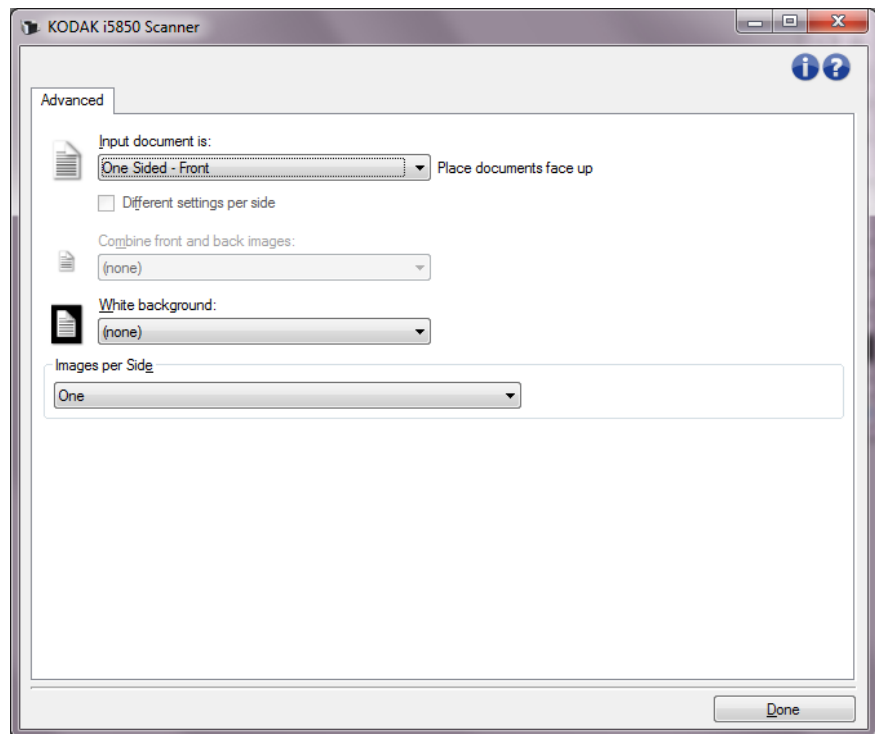
詳細イメージセットアップ

[詳細] タブ

[イメージの詳細設定] アイコンは、イメージ設定ウィンドウの上部にある、[読取り面] ドロップダウンリストの隣にあります。

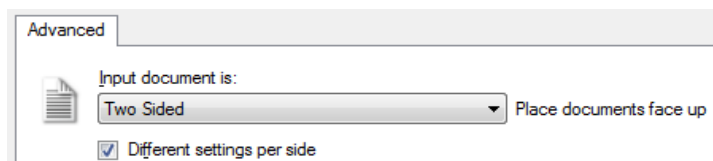


[詳細イメージセットアップ] アイコンを選択すると、[詳細] タブが表示されます。

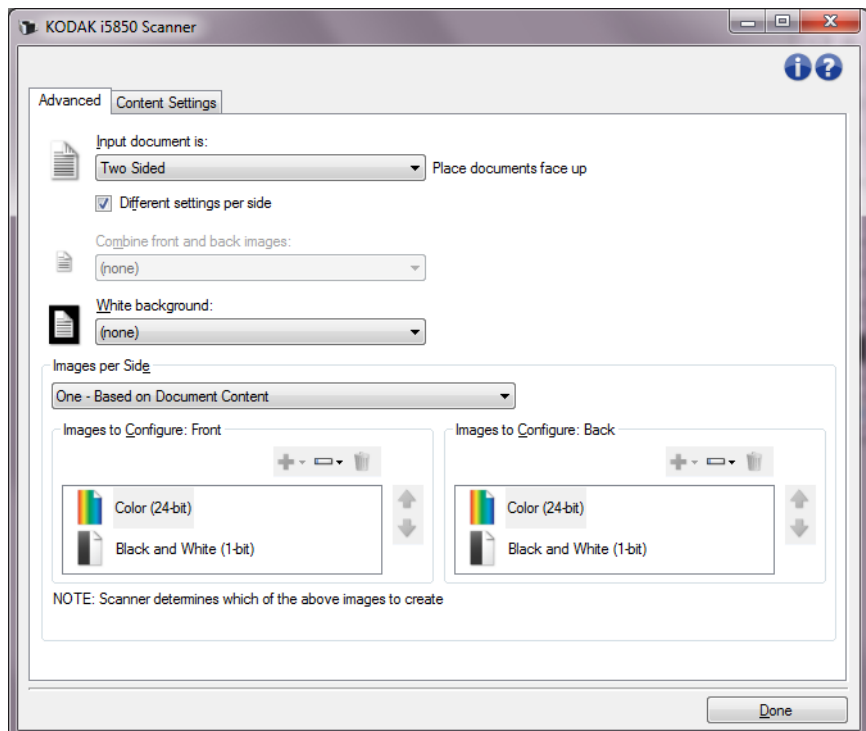


入カドキュメントのタイプ—設定する面に応じて、[両面]、[片面 - 表]、または [片面 - 裏] を選択します。

読取り面ごとに設定を変える—デフォルトでは、選択した設定内容が両面のイメージに適用されます。スキャン対象原稿のそれぞれの面に異なるイメージ処理設定を適用する場合に、このオプションを選択します。たとえば表面をカラー、裏面を白黒にしたい場合は、まず[入カドキュメントのタイプ] ドロップダウンリストから [両面] オプションを選択し、次に [読み取り面ごとに設定を変える] のチェックボックスを選択します。



この操作を行うと、[イメージ設定] ウィンドウにある [読取り面] オプションが有効になり、読取り面ごとに異なる設定を選択することができます。[読取り面ごとに設定を変える] を有効にしているため、最初の選択内容はスキャン対象原稿の表面のみ適用されます。表面に関するオプションを選択し終わったら、[読取り面] オプションから裏面を選択し、裏面に適用するオプションを設定していきます。



表面 / 裏面画像の結合 - 両面の各イメージを 1つにしたイメージを作成する場合に使用します。このオプションを有効にすると、原稿の表面と裏面を1つのイメージに結合します。オプションは以下のとおりです。

- [表面を上] : イメージ内で表面を裏面の上に配置します。
- [表面を下] : イメージ内で表面を裏面の下に配置します。
- [表面を左] : イメージ内で表面を裏面の左に配置します。
- [表面を右] : 裏面のイメージが表面のイメージの左に配置されます。

注 :

- このオプションは両面スキャナーモデルのみ使用できます。
- このオプションが使用できるのは、[入カドキュメントのタイプ] を [両面] に設定し、[読取り面ごとに設定を変更] を選択せず、[読取り面あたりのイメージ数] を [1] に設定し、ドキュメントフィーダからスキャンを実行する場合に限られます。このオプションはプレビューイメージには適用されません。

[ホワイトバックグラウンド] — 原稿の一部が欠けている場合、その部分の背景を黒の代わりに白で表示します。

- (なし) : 表面と裏面に黒バックグラウンドを使用します。
- 両面: 表面と裏面にホワイトバックグラウンドを使用します。

以下は、ホワイトバックグラウンドが役立つ場合の例です。

- 長方形以外のドキュメントをスキャンするときに、最終イメージでは、ドキュメントの外側のエリアを黒ではなく白にする必要がある場合。
- 片面印刷で軽量または薄い紙をスキャンするときに、ドキュメントにブラックバックグラウンドがにじんで最終イメージに表示されないようにする必要がある場合。

読取り面あたりのイメージ数 — イメージ処理する選択項目に基づいて、読取り面あたりに作成するイメージの数を示します。

- 1 : 1つのイメージが作成されます。
- 1 - 色量基準 : ドキュメントがカラー/グレースケールまたは白黒のいずれかを自動的に検知します。
- 1 - トグルパッチに依存 : トグルパッチを印刷したドキュメントから、スキャナーでカラー/グレースケールと白黒に切替えます。
- マルチ : 複数イメージが作成されます。

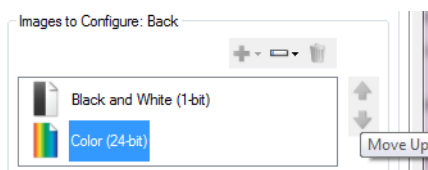
注 : **[読取り面あたりのイメージ数]** オプションから [1 - 自動カラー検知] を選択すると、[原稿内容の設定] タブが表示されず。

設定するイメージ — 設定する電子イメージを示します。




注 : **[読取り面あたりのイメージ数]** オプションから [1] 以外の項目を選択している場合にのみ、このオプションを使用できます。詳細オプションの設定方法は、次のセクションを参照してください。

- “例1 : 書類の色量を基にカラー/グレースケールと白黒スキャンを切替え”
- “例2 : 書類の各面に対して複数イメージを作成”
- “例3 : 書類の両面にそれぞれ異なる設定を使用”

利用可能な場合は、スキャナーからスキャンアプリケーションにイメージを送る順番は、上下矢印で変更します。



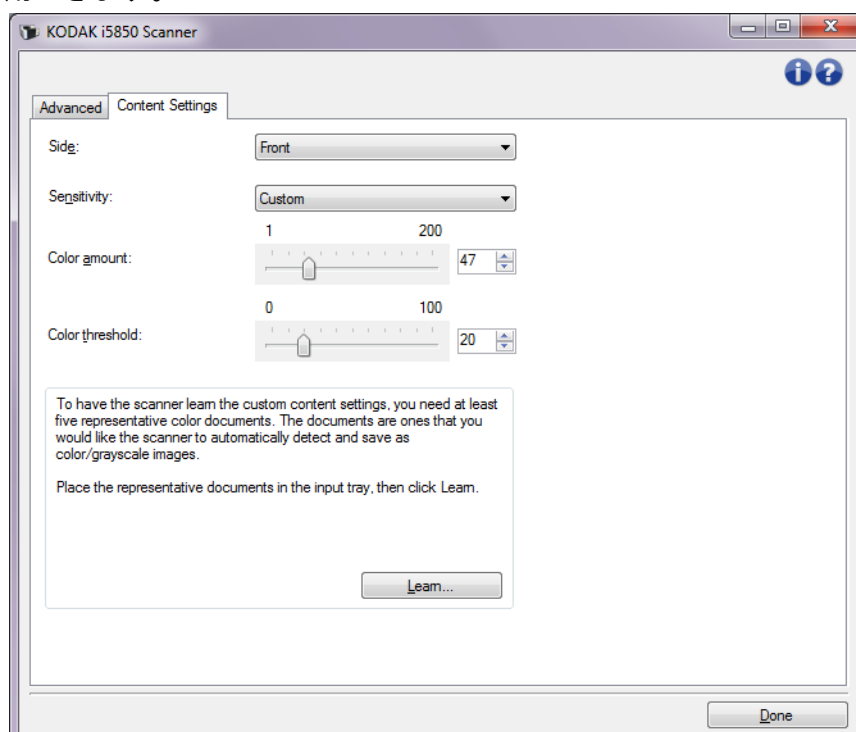
[ツールバー] ボタン :

	追加 : 設定リストの一番下にイメージを追加します。
	変更 : 現在選択されているイメージの種類を変更します。
	削除 : 選択したイメージの種類を削除します。

完了 - [イメージ設定] ウィンドウに戻ります。

[原稿内容の設定] タブ

[原稿内容の設定] タブのオプションは、片面または両面スキャンに使用できます。



読取り面 — [感度] の設定を適用する面を指定します。このオプションは、[詳細] タブで [読取り面ごとに設定を変える] が選択されている場合のみ使用できます。

感度

- **低** : カラー/グレースケールイメージとして保存する際に、色の量が微量な原稿の場合に選択します。黒い文字と小さなロゴが主体の原稿や、ハイライトされた文字や写真の色が少ない原稿をスキャンする場合に適します。
- **中** : イメージをカラー/グレースケールイメージとして保存する際に、[低]オプションよりも色の割合が多い原稿の場合に選択します。
- **高** : イメージをカラー/グレースケールイメージとして保存する際に、[中]オプションよりも色の割合が多い原稿の場合に選択します。中～大サイズのカラー写真などを多用している原稿に適します。中間色の写真を正しくスキャンするには、[カラーしきい値] や [色量] の値の調整が必要になる場合があります。

- **カスタム**：マニュアルで [色量] や [カラーズレッシュヨルド] の値を調整できます。

注： [感度] の値を設定する場合は、まず [中] オプションを選択してから、通常のスキャン作業でテストしてみることをお勧めします。白黒と比較して原稿の大半がカラー/グレースケールとして返された場合は、[高]に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。白黒と比較してカラー/グレースケールとして返された原稿が少なすぎる場合は、[低]に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。どのオプションでも望んでいた結果とならない場合は、[カスタム] を選択して [色量] や [カラーしきい値] を手動で調整してください。[カスタム] を選択した場合、[自動設定] モードを使ってスキャナーに原稿を分析させ、推奨の設定値を算出できます。

色量 — 原稿をカラー/グレースケールで保存する際に、原稿中に最低限必要なカラーの量です。[色量] の値を増やすと、必要となるカラーピクセルの量も増加します。有効な値は1～200です。

カラーズレッシュヨルド — 色量の算出時に特定の色量を決定するカラーズレッシュヨルドや彩度（水色と紺色の対比など）。値を増やすと、必要となる彩度が高くなります。有効な値は0～100です。

自動設定 — スキャンしたサンプルのカラー原稿に基づいて設定値を算出します。[自動設定] を選択する前に、入力エレベータに 5枚以上のカラー原稿をセットしてください。これらの原稿をスキャン、分析して推奨される [色量] を決定します。

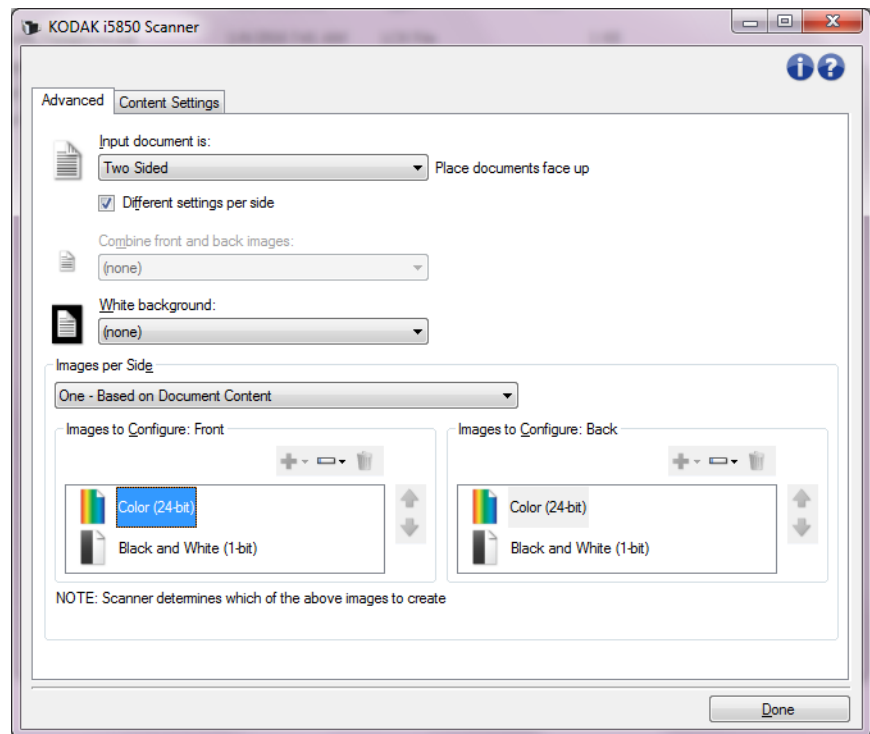
注： 計算に応じて [色量] と [カラーズレッシュヨルド] の値が自動的に調整されます。算出された値を使っても期待通りの結果にならない場合は、[カラーズレッシュヨルド] の値をマニュアルで調整してください。

**例1：原稿に応じてカラー／グ
レースケールまたは白黒イ
メージの作成**

この例では、両面に情報のカラーと白黒原稿が混在するスキャンセッションを設定します。また、スキャンで原稿がカラーか白黒かを判断し、それに基づきカラーまたは白黒イメージが出力します。

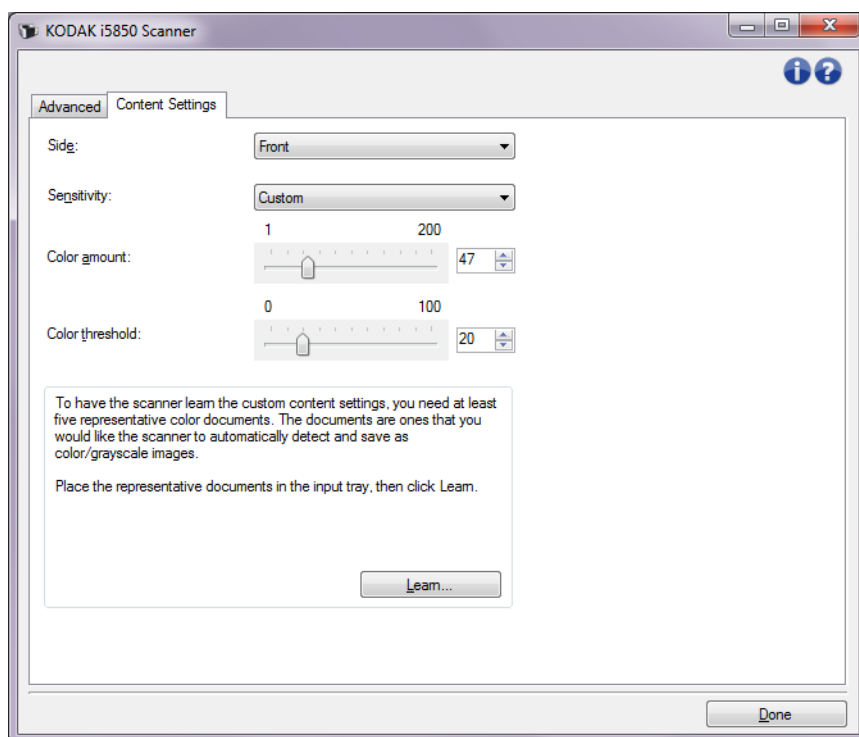
1. スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力にもっとも近い内容の**[設定のショートカット]**を選択します。
2. **[設定]**を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
3. イメージ設定ウィンドウの**[詳細 イメージセットアップ]**アイコンを選択すると、**[詳細]**タブが表示されます。
4. **[入カドキュメントのタイプ]**から**[両面]**を選択します。
5. **[読取り面あたりのイメージ数：1-色量基準]**を選択します。

注： **[詳細]** タブに**[設定するイメージ]** エリアが表示され、**[カラー]**、**[白黒]** イメージ項目が 選択できます。**[原稿内容の設定]** タブも表示されます。



6. カラーイメージではなくグレースケールイメージを取得する場合は、次の処理を行います。
 - **[カラー (24ビット)]**を選択します。
 - **[変更]**を選択してオプションのリストを表示します。
 - **[グレースケール]**を選択します。

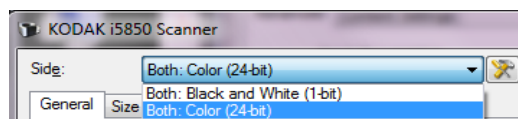
7. [原稿内容の設定] タブに移動します。



8. [感度] オプションを選択します。

9. [完了] をクリックすると、イメージ設定ウィンドウに戻ります。

注： [読取り面] オプションに、[両面：カラー（24ビット）]、および [両面：白黒（1ビット）] の2つの項目が表示されます。



10. [読取り面：] で [両面：カラー（24ビット）] を選択します。

注： イメージ設定ウィンドウのその他のタブと、カラーイメージ設定の設定項目を調整します。

11. [読取り面：] で [両面：白黒（1ビット）] では利用できません。

注： イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、白黒イメージ設定の設定項目を調整します。

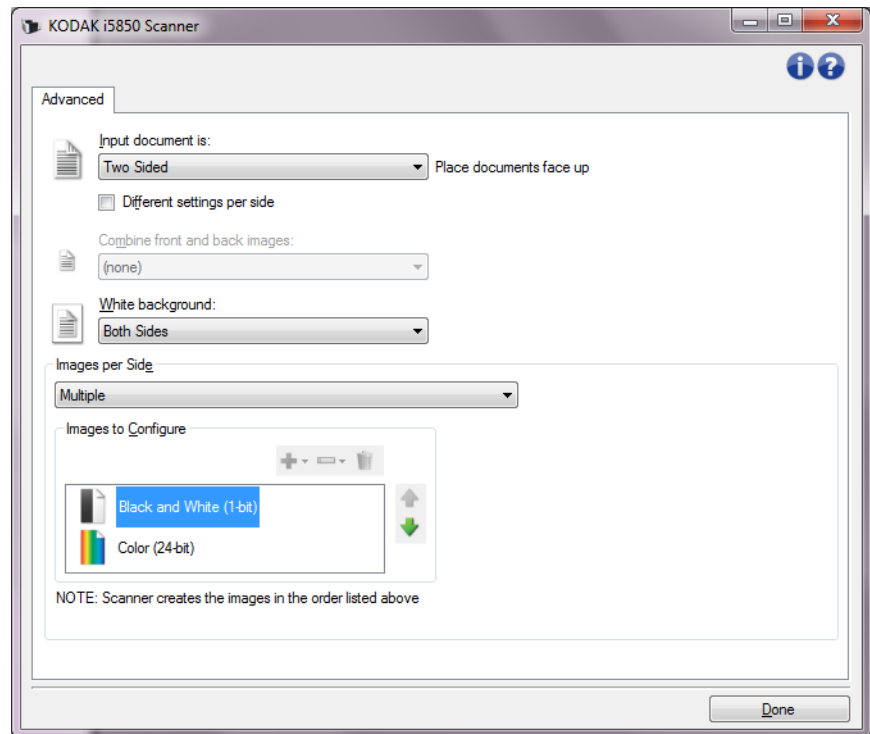
12. 設定が完了したら、[ホーム] を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、[保存] を選択してショートカットへの設定内容を保存します。

例2：書類の複数イメージを作成

この例では、両面原稿のスキャンを想定し、原稿の各面に対してカラーと白黒イメージの両方を出力します。

1. スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力にもっとも近い内容の**[設定のショートカット]**を選択します。
2. **[設定]**を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
3. イメージ設定ウィンドウの **[詳細 イメージセットアップ]** アイコンを選択すると、**[詳細]** タブが表示されます。
4. **[入カドキュメントのタイプ]** から**[両面]**を選択します。
5. **[読取り面あたりのイメージ数：[マルチ]**を選択します。

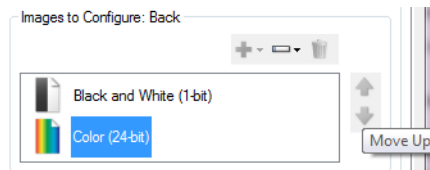
注： **[詳細]** タブに**[設定するイメージ]** エリアが表示され、**[カラー]**、**[白黒]** イメージ項目が選択できます。



6. カラーイメージではなくグレースケールイメージを取得する場合は、次の処理を行います。
 - **[カラー (24ビット)]**を選択します。
 - **[変更]**を選択してオプションのリストを表示します。
 - **[グレースケール]**を選択します。

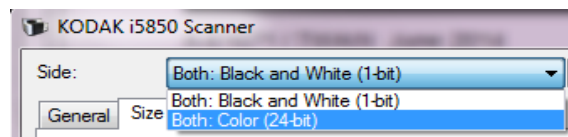
7. デフォルトでは、スキャナーはまずカラー/グレースケールイメージを出力してスキャンアプリケーションに送り、次に白黒イメージをスキャンアプリケーションに送ります。白黒イメージを先に送信したい場合、次の手順に従います。

- [カラー (24ビット)] を選択します。
- [上に移動] を選択して、白黒イメージをリストの上にセットします。



8. [完了] をクリックすると、イメージ設定ウィンドウに戻ります。

注： [読取り面] オプションに、[両面：カラー (24ビット)]、および [両面：白黒 (1ビット)] の2つの項目が表示されます。



9. [読取り面：] で[両面：カラー (24ビット)] を選択します。

注： イメージ設定ウィンドウのその他のタブと、カラーイメージ設定の設定項目を調整します。

10. [読取り面：] で[両面：白黒 (1ビット)] では利用できません。

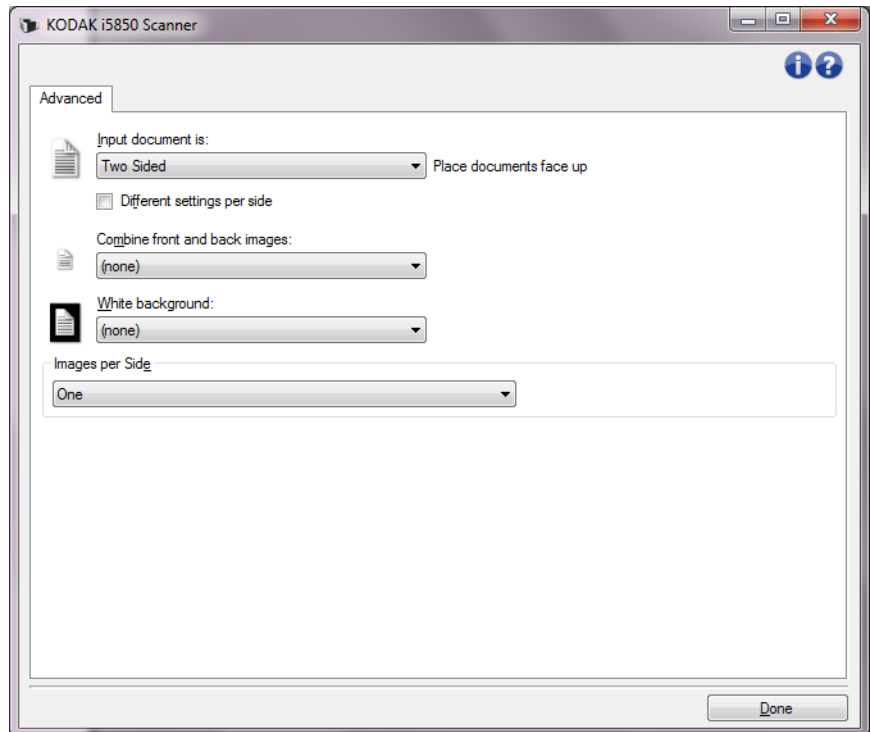
注： イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、白黒イメージ設定の設定項目を調整します。

11. 設定が完了したら、[ホーム] を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、[保存] を選択してショートカットへの設定内容を保存します。

例3：書類の両面にそれぞれ異なる設定を使用

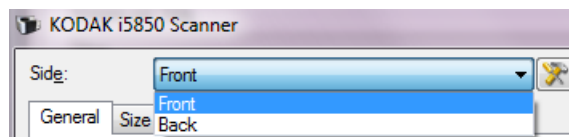
この例では、表面カラー、裏面白黒で原稿をスキャンする設定を行います。

1. [詳細] タブを開いていない場合、次の手順で設定します。
 - スキャナーメインウィンドウから、目的のイメージ出力にもっとも近い内容の[設定のショートカット]を選択します。
 - [設定]を選択すると、イメージ設定ウィンドウが表示されます。
 - イメージ設定ウィンドウの [詳細 イメージセットアップ] アイコンを選択すると、[詳細] タブが表示されます。
2. [入カドキュメントのタイプ] から[両面] を選択します。
3. [読取り面ごとに設定を変更] オプションを選択します。
4. [読取り面あたりのイメージ数：[1] を選択します。



5. [完了] をクリックすると、イメージ設定ウィンドウに戻ります。

注： [読取り面] オプションに、[表面] と [裏面] の2つの項目が表示されます。



6. [読取り面] から[表面] を選択します。

7. [一般] タブの [スキャン形式] オプションで、[カラー (24ビット)] を選択します。

注： イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、表面の設定項目を調整します。

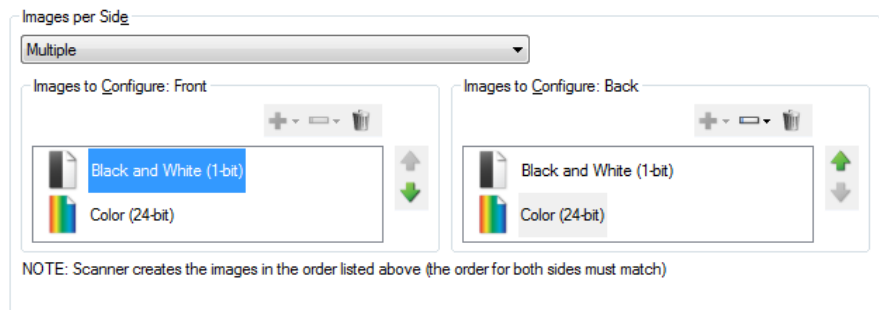
8. [読取り面] から[裏面] を選択します。

9. [一般] タブの [スキャン形式] オプションで、[白黒 (1 bit)] を選択します。

注： イメージ設定ウィンドウのその他のタブについても、裏面の設定項目を調整します。

10. 設定が完了したら、[ホーム] を選択してスキャナーメインウィンドウに戻り、[保存] を選択してショートカットへの設定内容を保存します。

注： 手順4で [読取り面あたりのイメージ数：1] 以外のオプションを選択している場合にのみ、2つの [設定するイメージ] オプショングループを使用できます。その場合は、ドキュメントの表裏各面のイメージを個別にセットアップすることができます。

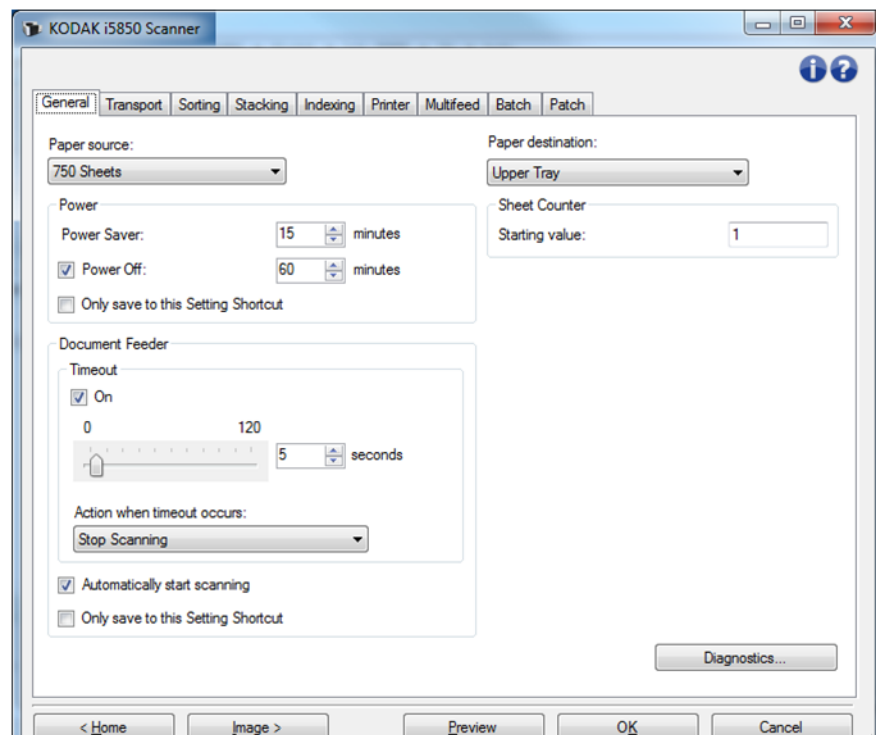


デバイス設定ウィンドウ

利用可能なタブを使用して、スキャナー固有のオプションや診断機能をすべてこのウィンドウから設定できます。デバイス設定に使用される値は、選択された [設定のショートカット] に保存されます。[デバイス設定] ウィンドウには [一般]、[搬送部]、[インデクシング]、[重送検知]、[バッチ]、および [パッチ] タブがデフォルトで表示されます。

注： 他のタブはインストールしたアクセサリ（ソート、スタッキング、印刷など）に基づき表示される場合があります。

ここでは、Scan Validation Tool¹で提示される TWAIN のデフォルトインタフェースについて説明します。ホストアプリケーションは一部のタブを非表示にしたり、表示されるオプションを制限したりすることで、インタフェースを変更することができます。



ホーム - スキャナーメインウィンドウに戻ります。

イメージ — [イメージ設定] ウィンドウを表示します。

プレビュー — スキャンを開始して、イメージ設定ウィンドウのプレビューエリアにスキャンされたイメージが表示されます。表示されたイメージは、現在のショートカット設定に基づいたサンプルです。

OK/スキャン—このオプションを選択すると、保存されていない変更を保存するようメッセージが表示されます。このボタンが [OK] の場合、保存されていない変更は現在のスキャンセッションに対して引き続き有効です。

キャンセル — 変更内容を保存せずに、スキャナーメインウィンドウを閉じます。

1.Scan Validation Tool の開始および使用方法の説明については、「Scan Validation Tool」ページの 89 を参照してください。

情報アイコン



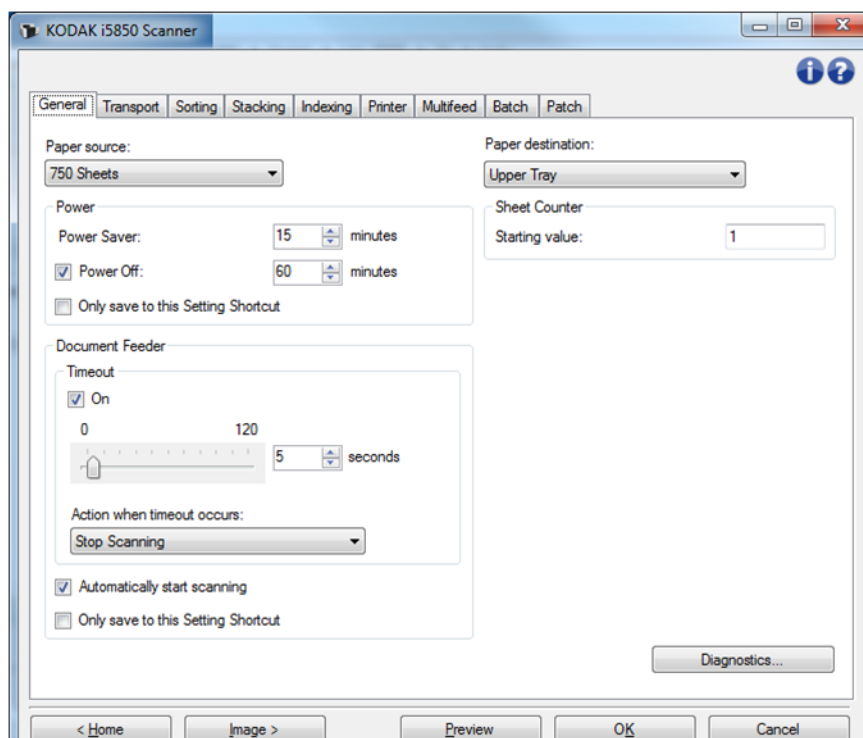
バージョン情報 : スキャナーのバージョンと著作権情報を表示します。



ヘルプ : 現在表示されているウィンドウのヘルプ情報を表示します。

デバイス - [一般] タブ

[一般] タブを使用して、スキャナー固有のオプションを設定したり、スキャナー診断にアクセスできます。



スキャン方法

- **自動** : まず入力エレベータに原稿があるか確認します。入力エレベータに原稿がない場合、スキャナーはフラットベッドからスキャンします。
- **自動 - 100枚** : まず、入力エレベータに用紙があるかどうか確認し、入力エレベータにドキュメントがない場合、フラットベッドからスキャンします。このオプションは、入力エレベータから 25~100枚の用紙をスキャンする場合に最適です。
- **自動 - 250枚** : まず、入力エレベータに用紙があるかどうか確認し、入力エレベータにドキュメントがない場合、フラットベッドからスキャンします。このオプションは、入力エレベータから 100~250枚の用紙をスキャンする場合に最適です。
- **自動 - 500枚** : まず、入力エレベータに用紙があるかどうか確認し、入力エレベータにドキュメントがない場合、フラットベッドからスキャンします。このオプションは、入力エレベータから 250~500枚の用紙をスキャンする場合に最適です。

- **自動 - 750枚** : まず、入力エレベータに用紙があるかどうか確認し、入力エレベータにドキュメントがない場合、フラットベッドからスキャンします。このオプションは、入力エレベータから500~750枚の用紙をスキャンする場合に最適です。
- **ドキュメントフィーダ**:入力エレベータは一番高い位置にあります。このオプションは、入力エレベータから25枚以内の用紙をスキャンしている場合に最適です。
- **100枚** — 入力エレベータから25~100枚の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **250枚** — 入力エレベータから100~250枚の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **500枚** — 入力エレベータから250~500枚の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **750枚** — 入力エレベータから500~750枚の原稿をスキャンする場合に最適です。
- **フラットベッド**—スキャナーはフラットベッドからスキャンします。

注 : **[自動]** および **[フラットベッド]** オプションは、フラットベッドアクセサリが接続されている場合のみ利用できます。

電源

- **節電モード** - スキャナーが操作していないときに省電力モードに移行するまでの時間を設定できます。
- **電源オフ** — このオプションにチェックすると自動的に電源が切れるまで、スキャナーを節電モードにしておく時間(分)を設定できます。

注 : 電源設定は、すべての **[設定のショートカット]** で共有されます。**[この設定のショートカットにのみ反映]** オプションを有効にしない限り、変更は他のショートカットに反映されます。

ドキュメントフィーダ

- **タイムアウト** : 最後の原稿がフィードされてから、タイムアウトになるまでのスキャナーの待機時間を選択できます。このオプションは、**オフ**にすることもできます。
- **タイムアウト時のアクション** : ドキュメントフィーダがタイムアウトになったときに実行するアクションを指定できます。
 - **スキャンの停止** : スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります(ジョブを終了します)。
 - **スキャン一時停止** : スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します(フィーダを停止します)。スキャナーの **[開始/再開]** ボタンを押すと、スキャンが再開します。スキャナーの **[停止/一時停止]** ボタンを押すか、スキャンアプリケーションからスキャンを終了できます。
 - **スキャンの一時停止 - 用紙待ち** : スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します(フィーダを停止します)。入力エレベータに原稿をセットして、スキャンを再開します。スキャナーの **[停止/一時停止]** ボタンを押すか、ス

キャンアプリケーションからスキャンを終了できます。

自動的にスキャンを開始 — このオプションがチェックされ、フラットベッドからスキャンしない場合、スキャナーは原稿が入力エレベータにセットされるまで最長10秒待機します。また、入力エレベータが空になった場合、用紙が入力エレベータにセットされるとスキャナーは自動的にスキャンを再開します。スキャナーはドキュメントフィーダタイムアウトで指定された時間待機します。

このオプションが無効の場合、スキャナーは一時停止モードになりますが、オペレータコントロールパネルの[開始/再開] ボタンを押すとスキャンを開始できます。

このオプションを無効にすると、オペレータはスキャン開始前に、スキャナーのオペレータコントロールパネルから **[優先処理]** オプションを有効にできます。

注： ドキュメントフィーダ設定は、すべての [設定のショートカット] で共有されます。[この設定のショートカットにのみ反映] オプションを有効にしない限り、変更は他のショートカットに反映されません。

用紙の送り先 — 用紙をソートする時に、送り先をソートされない用紙が送られるデフォルトのトレイを指定します。ソートしない場合は、先端調整のため用紙の送り先に「分厚いページは後部排紙口に送る」、または「原稿を上段トレイに送る」などを使用できます。

- **上段トレイ**：このオプションを選択すると、一番上の出力トレイを使用します。
- **下段トレイ**：このオプションを選択すると、下段/通常の出カトレイを使用します。
- **後部排紙口**：このオプションを選択すると、後部排紙口を使用します。

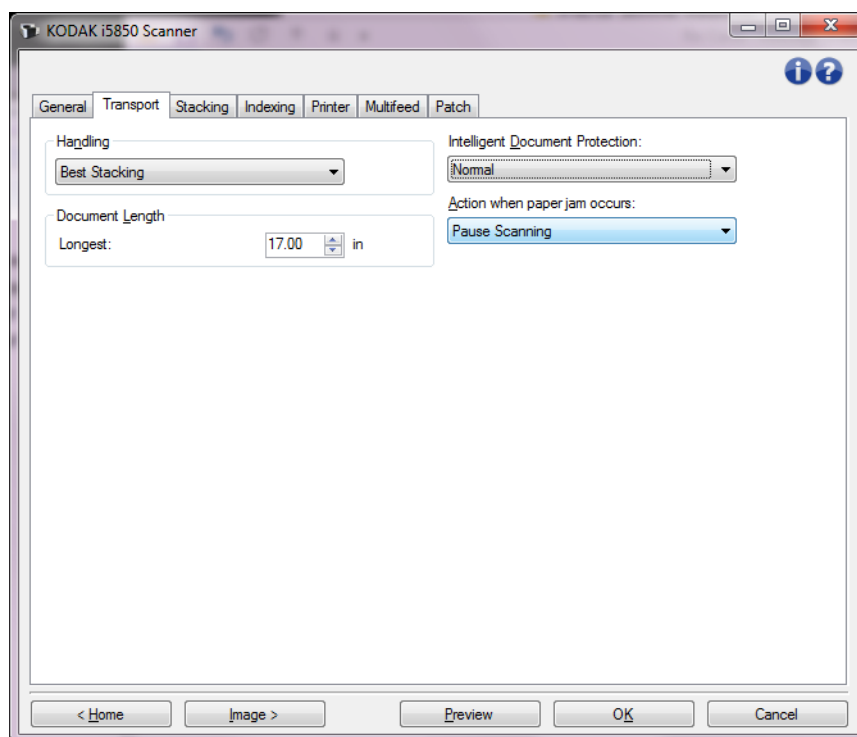
注：

- このオプションは i5650S および i5850S スキャナーでのみ利用可能です。
- このオプションをサポートしているモデルでは、一部の選択肢を利用できない場合があります。
- **後部排紙口**の場合は、スキャナーの後ろに用紙をスキャナーから完全に排紙できるスペースがあることを確認します。スキャナーを壁から離し、必要に応じて後ろの障害物を排除します。

用紙枚数カウンタ - スキャナーに入る次の原稿に割り当てられる番号を入力します。これは、スキャナーで順次カウントされ、イメージヘッダに送られます。

注： 用紙枚数カウンタの値を変更すると、[デバイス - プリンタ] タブの [カウンタ] オプションに影響が及びます。。

診断 - [診断] タブを表示します。



排紙方法-スキャナーの原稿の排紙方法を選択できます。これにより、原稿のフィード、搬送速度、排紙方法に影響が及びます。

注： デュアルスタッキングが有効な場合、[排紙方法] には、[サイズ混在：ベスト] 未満の搬送速度が自動的に設定されます。

- **標準**：追加処理はありません。このオプションは、すべての原稿のサイズがほぼ同じ場合に最適です。
 - 処理速度最高
 - 排紙コントロール無効
 - 原稿間のギャップが小さい
- **サイズ 混在**：サイズが異なる原稿を出カトレイに整えて排紙します。若干サイズが異なる原稿のバッチスキャンに最適です。
 - 処理速度若干低下
 - 排紙コントロール有効状態
 - 原稿間のギャップが小さい

- **サイズ混在**：ベスト：原稿のサイズの幅が大きい場合、このオプションを使用すると、出力トレイにサイズの異なる原稿を整えて排紙します。
 - 処理能力若干低下
 - 排紙コントロール有効状態
 - 原稿間のギャップが大きい
- **薄紙**：出力トレイに排紙される際に特別な配慮が必要な原稿の場合。
 - 処理速度が大幅に低下
 - 排紙コントロール無効状態
 - 原稿間のギャップが小さい
 - 搬送速度が 1/4 に低下
- **厚紙**：カードストックよりも厚い原稿用（0.25 mm）。
 - 処理速度が大幅に低下
 - 排紙コントロール有効状態
 - 原稿間のギャップが小さい
 - 搬送速度が 1/4 に低下
- **薄紙**：20 ポンドのボンド紙よりも薄い原稿用（わら紙など）。
 - 処理速度が大幅に低下
 - 排紙コントロール有効状態
 - 原稿間のギャップが大きい
 - 搬送速度が 1/4 に低下

原稿長

最長 — 原稿セット内で最長の原稿の長さを示す値を選択します。

注：

- この値を変更すると、*イメージサイズ - アウトライン；プリンタ - リードエッジからのオフセット；マルチフィード - 長さによる検知の設定の最大値に影響します。*
- *[スキャン方法]* と *[解像度]* の設定の組み合わせによっては、原稿の長さが制限される場合があります。より柔軟にアプリケーションに対応できるように、スキャナーは、許容値を超える原稿が確認されるまでエラーを生成しません。
- 長尺ドキュメントの場合には、スキャナーの処理速度が低下することがあります。
- この値より長い原稿をスキャンすると、搬送部が停止し（スキャナー内に原稿が残ったまま）、紙詰まりのメッセージが表示されます。
- 最長原稿サイズは常に 2.5 ~ 160 インチ（6.35 cm ~ 457.20 cm）ですが、スキャンの最大長はビット深度（カラー/グレースケール/白黒、スキャン解像度）によって異なります。白黒の 200 dpi は 160 インチ（457.20cm）ですが、カラーの 600dpi はかなり短くなります。ユーザが選択した最大長に達する前にスキャナーの処理能力を越えた場合、スキャナーのオペレータコントロールパネルに紙詰まりと表示され、ホストアプリケーションにイメージは送信されません。

- サイズが混在した大量の原稿をスキャンし、一部の原稿が非常に長い場合、最適な処置はスキャナーのオペレータコントロールパネルから**最大長の許可優先処理**または**最大長検知バッチ優先処理**オプションのいずれかを使用して**最長スキャン**を有効にすることができます。
- デュアルスタッキングが有効な場合、デフォルトでは最長原稿サイズが10インチ/254mmに制限されます。詳細については、『ユーザーズガイド』の第5章「長さ保護の有効化」参照してください。

インテリジェントなドキュメントプロテクション— スキャナーに正しくフィードされていない原稿を、スキャナーがどの程度積極的に設定するかを選択できます。給紙不良は、スキャン時に、原稿が整っていない場合に発生します（ステープルやクリップが付いた原稿など）。

- **(なし)**
- **最小**：給紙不良を必要以上に検知してスキャナー停止の頻度が多い場合、このオプションを選択します。
注： 検知しないと、原稿はさらに損傷する場合があります。
- **標準**：推奨オプションであり、原稿の損傷を最小限にし、スキャナーを必要以上に停止させないでバランスを取ります。
- **最大**：極力原稿の損傷を防ぐ場合、このオプションを選択します。
注： スキャナーが必要以上に停止してしまう場合があります。

紙詰まりが発生した場合の動作— スキャナーが紙詰まりを検知した場合のアクションを選択できます。

- **スキャンの停止**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。搬送部に原稿が残っていないことを確認後、スキャンアプリケーションからスキャンを再開してください。
- **スキャン一時停止**：スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します（フィーダを停止します）。搬送路の原稿を取り除いてから、スキャナーの **[開始/再開]** ボタンを押すと、スキャンを再開できます。スキャナーの **[停止/一時停止]** ボタンを押すか、スキャンアプリケーションからスキャンを終了できます。

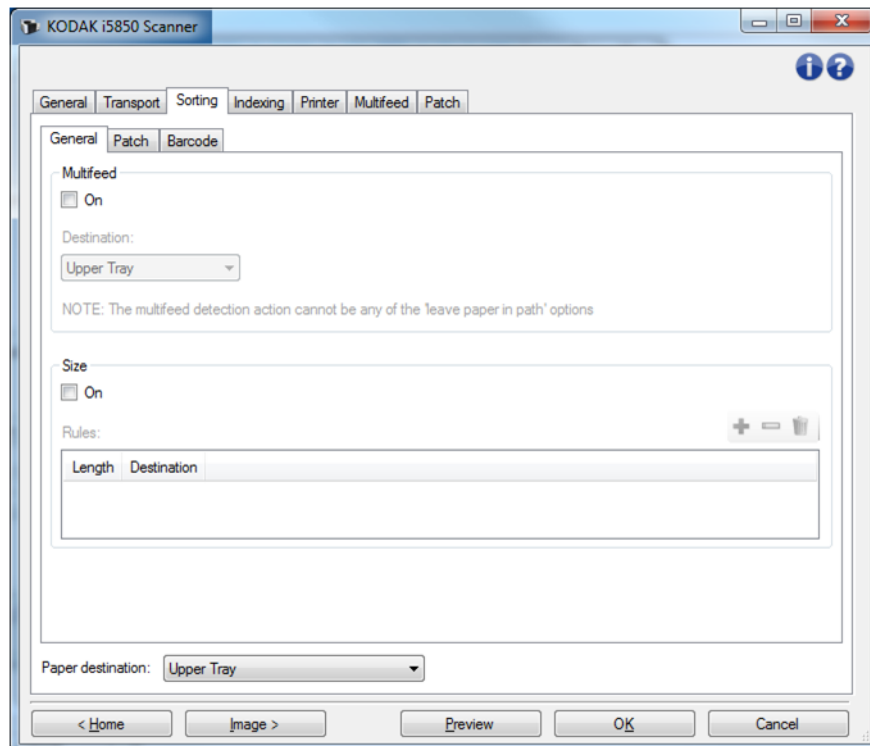
診断 - [診断] タブを表示します。

デバイス - [ソート] タブ

[ソート] タブで、設定基準に基づいて、原稿セット内の用紙を異なる出力先に送るようにオプションを設定できます。

注： [ソート] タブはi5650Sおよびi5850Sスキャナーでのみ利用可能です。

ソートオプションは次のサブタブで分類されます。[一般]、[パッチ]、および [バーコード]



用紙の送り先 — ソートされないすべての用紙が搬送されるデフォルトの出力先を示します。通常、ソートされた用紙の送り先はこの送り先と異なります。この選択は3つすべての [ソート] サブタブで表示されます。いずれかのタブで行った変更は、他のタブでも変更されます。

共通のボタンやオプションについては、「デバイス設定ウィンドウ」ページの 40を参照してください。

ソートルールの優先順位

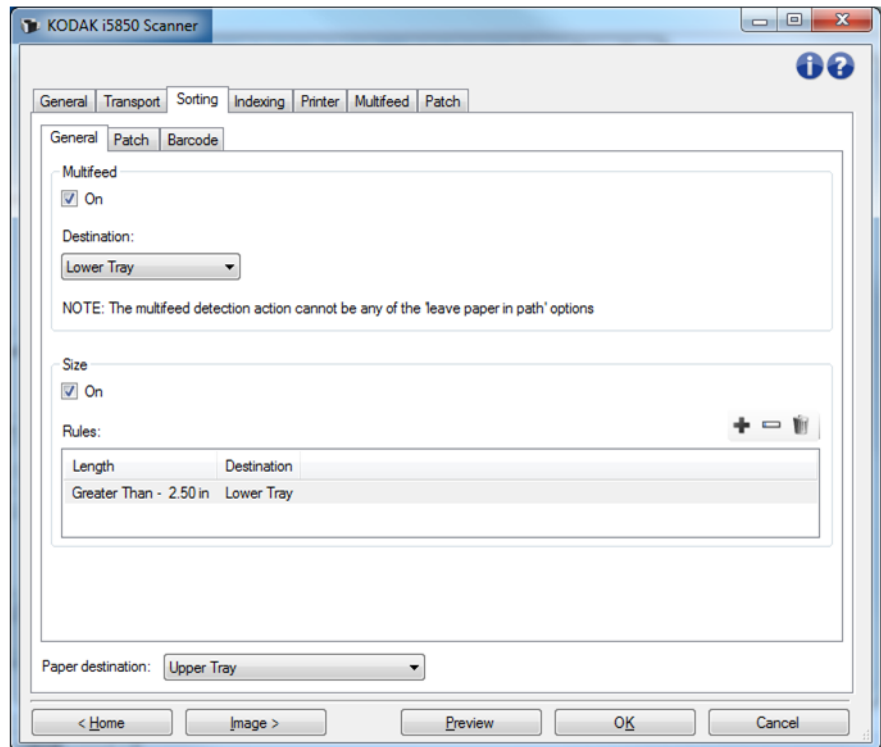
ソートルールには次の優先順位が適用されます。

注： 後部排紙口のOCPオプションは常に最優先です。

1. 重送ソート
2. サイズソート
3. パッチソート
4. バーコードソート

ソート - [一般] タブ

[一般] タブで、重送用紙および/または特殊なサイズ of 用紙をソートするオプションを設定できます。



重送

重送ソートは常に他のソートルールに優先します。

- **オン** — 重送ソートをオンにして、重送オプションを使用可能にします。

注： 重送検知もオンにする必要があります（「デバイス - [重送検知] タブ」ページの 70 を参照）。[検知時の動作] オプションは、用紙をスキャナーに残さないオプションにする必要があります。例えば、[スキャンの一時停止 - 用紙を搬送路に残す] を選択した場合、用紙はスキャナーに残されるため用紙はソートされません。

- **送り先** — 各重送用紙を搬送する出力先を示します。

サイズ

サイズソートルールは、パッチソートとバーコードソートには優先しますが、重送ソートには優先しません。

- **オン** — サイズ別にソートを有効にして、このグループの他のオプションを使用可能にします。
- **ルール** — ルールは2つまで設定できます。表は、各ルールの詳細を示しています。列は[サイズ] ウィンドウからの各選択を示します。

ルール用のボタン：



追加 — 新しいルールを作成できます。[サイズ] ウィンドウが表示されます。

注：このオプションは、許容ルールを最大数まで作成した場合、使用できません。



変更 — 現在選択されているルールを変更できます。[サイズ] ウィンドウが、選択されているルールの現在のオプションと一緒に表示されます。

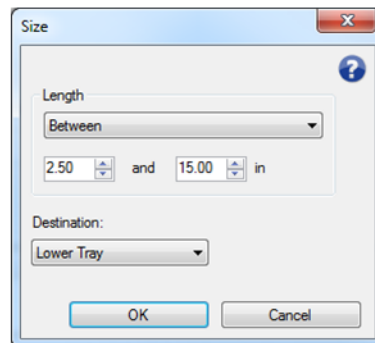


削除 — 現在選択されているルールを削除できます。

注： 共通のボタンやオプションについては、「デバイス設定ウィンドウ」ページの 40を参照してください。

ソート - [サイズ] ウィンドウ

このウィンドウから、1つのサイズルールのオプションを選択できます。



長さ — このルールを適用する必要がある用紙の長さを選択できます。

- (なし)
- **未満**：この長さより短い用紙は決められた送り先に送られます。
- **以上**：この長さより長い用紙は決められた送り先に送られます。
- **範囲内**：長さが選択範囲内の用紙は決められた送り先に送られます。


注：

- 長さオプションは1回だけ使用可能です。オプションが別のルールで使用されている場合は、使用できません。
- 設定可能な長さの値は、送り先の選択によって変わる場合があります。
- 前面トレイの送り先（下段トレイまたは上段トレイ）で**未満**または**範囲内**の長さが指定されている場合、ページサイズを38cmより短くする必要があります。
- 後部排紙口に**未満**または**範囲内**の長さが指定されている場合、ページサイズを15cmより短くする必要があります。
- スキャン中に原稿が斜めに傾いてしまうこともあり得るため、長さには1/2インチ/15 mmを加算して入力してください。

送り先 — このルールが適用される各用紙を搬送する出力先を示します。

OK — 変更を保存してこのウィンドウを閉じます。

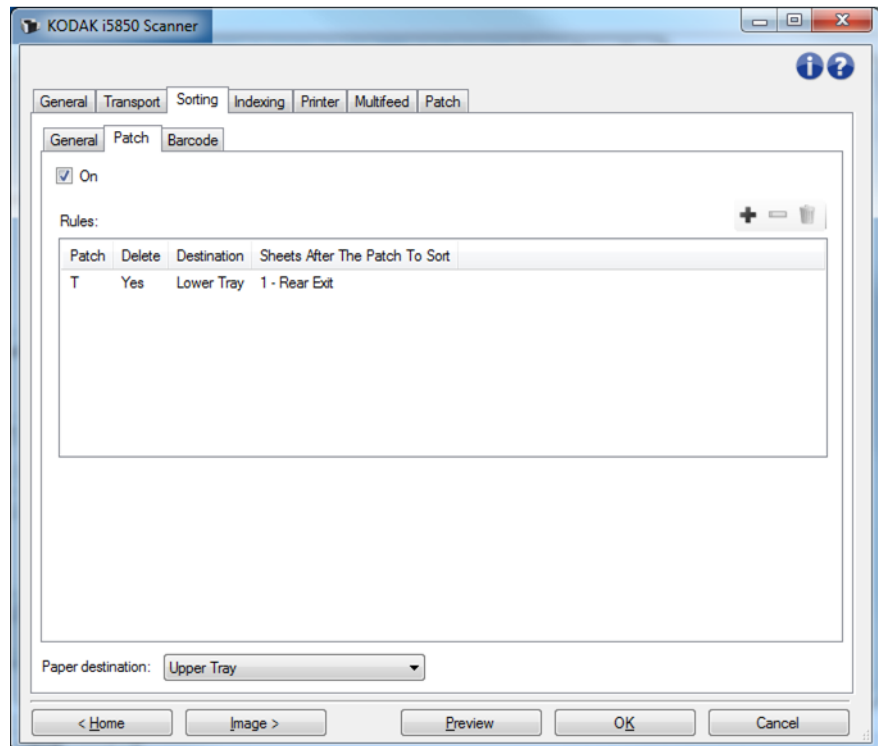
キャンセル — 変更内容を保存せずにこのウィンドウを閉じます。

 ヘルプ：このウィンドウのヘルプ情報を表示します。

ソート - [パッチ] タブ

重送およびサイズソートはパッチソートに優先します。パッチソートはバーコードソートに優先します。

[パッチ] タブでパッチシートとパッチシートの後のシートをソートするオプションを設定できます。



- **オン** — パッチソートをオンにして、パッチソートオプションを使用可能にします。
- **ルール** — ルールは8つまで設定できます。表は、各ルールの詳細を示しています。列は[パッチ] ウィンドウからの各選択を示します。

ルール用のボタン：



追加 — 新しいルールを作成できます。[パッチ] ウィンドウが表示されます。

注：

このオプションは、許容ルールを最大数まで作成した場合、使用できません。



変更 - 現在選択されているルールを変更できます。[パッチ] ウィンドウが、現在選択されているルールのオプションと一緒に表示されます。

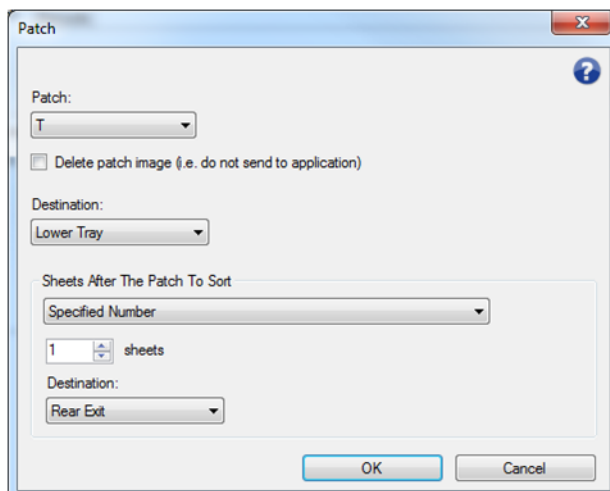


削除 — 現在選択されているルールを削除できます。

注： 共通のボタンやオプションについては、「デバイス設定ウィンドウ」ページの 40を参照してください。

ソート - [パッチ] ウィンドウ

このウィンドウから、1つのパッチルールのオプションをすべて選択できます。



注： パッチは1つのルールでのみ使用できます。パッチタイプが別のルールで使用されている場合は、使用できません。

パッチ — このルールを適用するために認識する必要のあるパッチを選択できます。

• **T、1、2、3、4、トグル、6、10、11、12、13、14、15**

• **すべて**：残りのすべてのパッチ（別のルールで使用されていないすべてのパッチ）を示します。

パッチイメージの削除 — パッチシートのすべてのイメージが破棄されアプリケーションに送信されません。

注：

- 選択した場合は、他のスキャナーオプションが何に設定されていても、イメージは削除されます。**パッチイメージの削除を選択するとホストアプリケーションは原稿セパレーションにパッチを使用できません。**
- 選択しない場合は、他のスキャナーオプションでパッチイメージを削除するかどうか判断します。

送り先 — このルールが適用される各パッチシートの出力先を示します。

パッチシートの後のシートをソート — パッチシートのすぐ後のどの用紙を設定した送り先に送るか選択できます。

- (なし)
- 指定枚数：1 ～ 99までの正確なシート枚数を選択できます。
- **パッチシートの前のすべての用紙**：このルールのパッチが検出された場合、その次の用紙までのすべての用紙が送り先に送られることを示します。

注： ソートする原稿セットに枚数が分からない連続ページがある場合に、このオプションを使用します。この場合、このパッチタイプでパッチシートを2枚取得し、1枚をソートするページの前にセットして、もう1枚をソートするページの後にセットします。

- **パッチシートの後のすべての用紙**：スキャンセッションが終了するまで、パッチシートの後のすべての用紙が送り先に送られることを示します。

注：


- 処理中のソートは終了するまで続きます。そのため、特定枚数の用紙をソートするというルールがあり、その枚数の用紙がソートされる前に2番目のソートルールに一致する場合、2番目のルールは無視されます。
- ソートは次のいずれかのイベントで終了します。
 - スキャン停止
 - スキャンを停止させる重送
 - スキャンを停止させる紙詰まり

送り先：このパッチソートルールが適用される各用紙を搬送する出力先。

注： [パッチシートの後のシートをソート] が (なし) ではない場合のみ、送り先は使用可能です。

OK — 変更を保存してこのウィンドウを閉じます。

キャンセル — 変更内容を保存せずにこのウィンドウを閉じます。

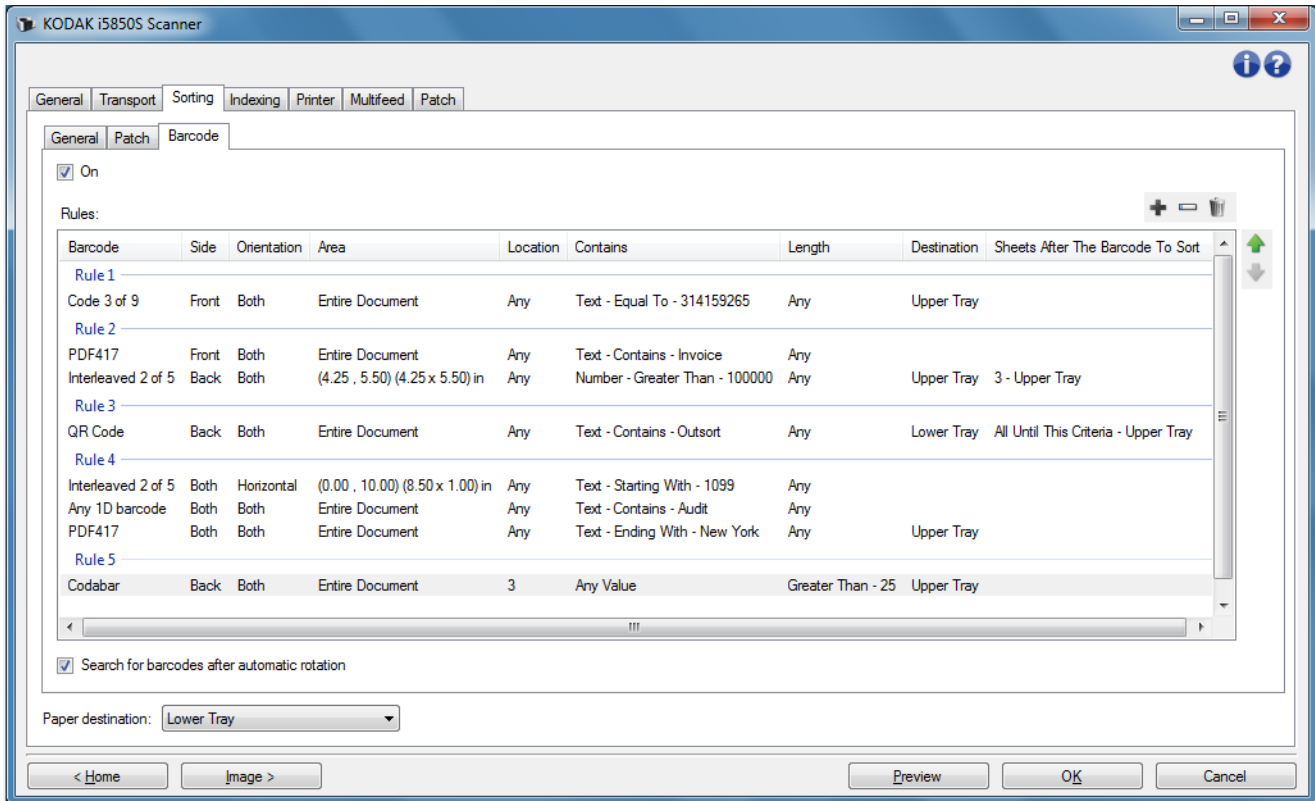
 **ヘルプ**：このウィンドウのヘルプ情報を表示します。

注： パッチソート中にスキャナーを無効にする何かが起こると（スキャナーを停止させてジョブを終了させる重送など）、有効なパッチソートルールが完了したとみなされます。そのルールに基づいて、これ以上は何のアクションも取りません。

ソート - [バーコード] タブ

重送、サイズ、およびパッチソートルールはバーコードソートに優先します。

[バーコード] タブでバーコードシートとバーコードシートの後のページをソートするオプションを設定できます。



- **オン** — バーコードソートをオンにして、バーコードソートオプションを使用可能にします。
- **ルール** — ルールは8つまで設定できます。表は、各ルールの詳細を示しています。列は[バーコード] ウィンドウからの各選択を示します。各ルールには最大で4つの基準を設けることができ、それによりバーコードとバーコードの条件を指定できます。

注：

- ルールの順番は重要です。1枚の用紙が複数のルールに一致している場合、一番目のルールが適用されます。
- 各ルールには複数のバーコード基準が含まれる場合があるため（表に複数の行を入れることが可能）、各ルールはラベル（上のスクリーンショットの「ルール1」のような）によって表内で分類されます。
- いずれかのバーコード基準（いずれかの行）が選択されると、ルールが選択されます。

用紙の送り先 — 仕分け対象外のページのデフォルトの出力トレイです。

ルール用のボタン：



追加 — 新しいルールを作成できます。[バーコード] ウィンドウが表示されます。

注： このオプションは、許容ルールを最大数まで作成した場合、使用できません。



変更 — 現在選択されているルールを変更できます。[バーコード] ウィンドウが、現在選択されているルールのオプションと一緒に表示されます。



削除 — 現在選択されているルールを削除できます。



順位を上げる — 現在選択されているルールを1つ上の順位に上げることができます。



順位を下げる — 現在選択されているルールを1つ下の順位に下げることができます。

注： [削除]、[順位を上げる]、[順位を下げる]は選択した行だけではなく、すべてのルールに適用されます。

自動回転後にバーコードを検索 — スキャナーが、イメージのテキストに向きを合わせるイメージの自動回転後に一致するルールを検索します。この設定は、次のオプションのいずれかを使用する場合のみ、バーコードによる仕分けに影響を与える可能性があります。

- 方向 垂直または水平
- イメージ内の 領域別にバーコードを検索
- 位置に基づいてバーコードを選択（イメージの上下、左右を読み取る）

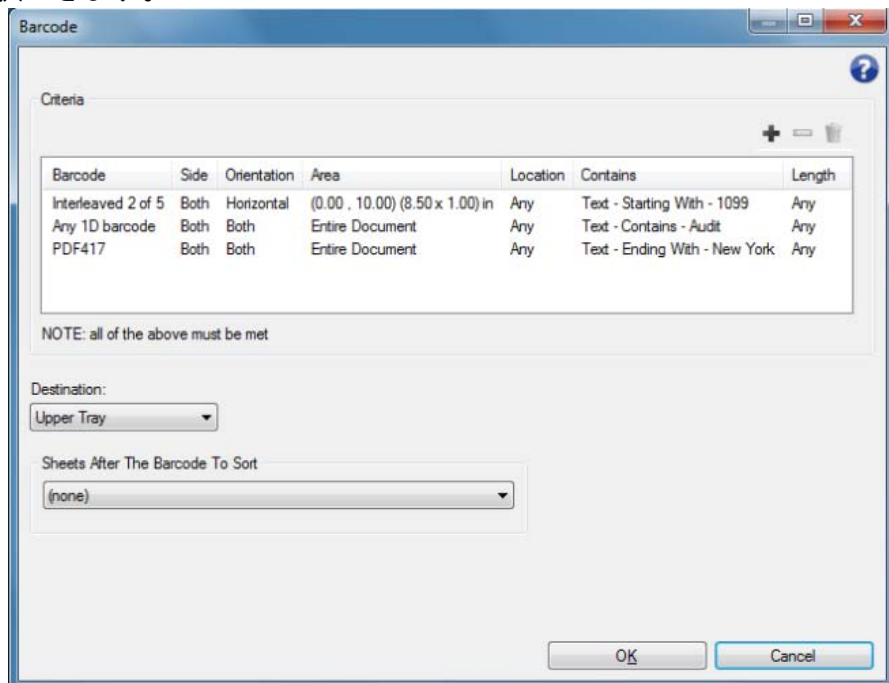
上記のオプションをどれも使用しない場合は、**[自動回転後にバーコードを検索]**にチェックを入れないでください。

注：

- このオプションは、ドキュメントのスキャン速度に影響を与える場合があります。
- 共通のボタンやオプションについては、「デバイス設定ウィンドウ」ページの 40を参照してください。

ソート - [バーコード] ウィンドウ

このウィンドウから、1つのバーコードルールのオプションをすべて選択できます。



基準

バーコードルールには4つまで基準を設けることができます。ルールが適用されるにはすべての基準を満たす必要があります。表は、基準の詳細を示しています。列は[バーコード基準] ウィンドウからの各選択を示しています。

バーコードルール基準用のボタン：



追加 — 新しい基準を作成できます。[バーコード基準] ウィンドウが表示されます。

注：

このオプションは、このルールの許容基準を最大数まで作成した場合、使用できません。



変更 — 現在選択されている基準を変更できます。[バーコード] ウィンドウが、現在選択されている基準のオプションと一緒に表示されます。



削除 — 現在選択されている基準を削除できます。

送り先 — このルールに一致する各バーコードシートを搬送する出力先を示します。

バーコードシートの後のシートをソート — ルールに一致するバーコードシートのすぐ後のどの用紙を設定した送り先に送るか選択できます。

• (なし)

• **指定枚数** : 1 ~ 99までの正確なシート枚数を選択できます。

• **基準に一致する用紙までのすべての用紙** : このルールのバーコード基準に一致する用紙の次の用紙までのすべての用紙が、定義した送り先に送られることを示します。

注 : ソートする原稿セットに枚数が分からない連続ページがある場合に、このオプションを使用します。この場合、このルールと同じ基準のバーコードシートを2枚取得し、1枚をソートするページの前にセットして、もう1枚をソートするページの後にセットします。

• **バーコードシートの後のすべての用紙** : スキャンセッションが終了するまで、バーコードシートの後のすべての用紙が設定した送り先に送られることを示します。

注 :

• 処理中のソートは終了するまで続きます。そのため、特定枚数の用紙をソートするというルールがあり、その枚数の用紙がソートされる前に2番目のソートルールに一致する場合、2番目のルールは無視されます。

• ソートは次のいずれかのイベントで終了します。

- スキャン停止
- スキャンを停止させる重送
- スキャンを停止させる紙詰まり


送り先 — このバーコードソートルールに一致する各用紙を搬送する出力先です。

注 : [バーコードシートの後のシートをソート] が (なし) ではない場合のみ、送り先は使用可能です。

OK — 変更を保存してこのウィンドウを閉じます。

注 : 1つ以上の基準が設定された場合のみ [OK] を使用できます。

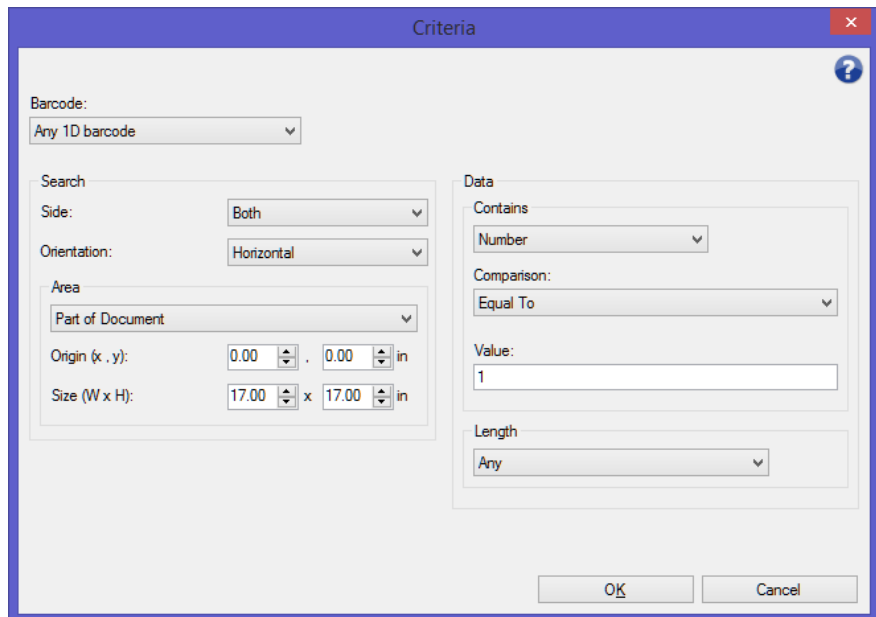
キャンセル — 変更内容を保存せずにこのウィンドウを閉じます。

 **ヘルプ** : このウィンドウのヘルプ情報を表示します。

注 : バーコードソート中にスキャナーを無効にする何かが起こると (スキャナーを停止させてジョブを終了させる重送など)、有効なバーコードソートルールが完了したとみなされます。そのルールに基づいて、これ以上は何のアクションも取りません。

ソート - [バーコード基準] ウィンドウ

このウィンドウから、バーコードルール内の1つの基準のオプションをすべて選択できます。



バーコード — 用紙上で認識されるバーコードのタイプを選択できます。

- **Codabar**
- **Code 128**
- **Code 3 of 9**
- **EAN -13**
- **EAN-8**
- **Interleaved 2 of 5**
- **UPC-A**
- **UPC-E**
- **PDF417**
- **QR コード**
- **すべての1次元バーコード**：用紙上のすべての1次元バーコードが基準を満たすことを示します。(PDF417とQR Codeは2次元)
- **検出無し**：用紙上にバーコードがない場合にソートを実行することを示します。このオプションは、読み取り可能なバーコードが含まれると思っただが含まれていないページのソートに使用できます。

注：

- バーコードソートに使用するには、バーコードに4文字以上含まれている必要があります。4文字より少ない文字でソートする必要がある場合は、www.kodakalaris.com/go/IMsupport のサポートにお問い合わせください。
- バーコードは同じルール内の複数の基準で使用できます。
- バーコードは複数のルールで使用できます。

検索 — 用紙上のどこでソートするバーコードを探すのかを示します。

- **読取り面**：用紙のどちらの面でソートするバーコードを探すのかを選択します。
 - **両面**：用紙の両面で探します。バーコードがどちらの面にあるかは問題ありません。
 - **表面**：用紙の表面のバーコードだけ探します。
 - **裏面**：用紙の裏面のバーコードだけ探します。
- **方向**：バーコードの向きを選択します。選択した向きのバーコードだけが、バーコードソート基準と照合されます。
 - **水平**
 - **垂直**
 - **両方向**
- **エリア**：用紙の検索部分を選択します。
 - **ドキュメント全体**
 - **原稿の一部**
 - **原点 (x, y)**：(x) はイメージの左端からの距離、(y) はイメージの上端からの距離になります。
 - **サイズ (幅 x 高さ)**：搬送路に合わせた検索エリアの幅と高さです。
- **位置**：バーコードが必要な検索エリア内の位置を選択します。バーコードの検索はイメージの左上から右下へと行われます。
 - **すべて**：検索エリア内にあるすべてのバーコードを示します。
 - **1**：検索エリアで1番目のバーコードである必要があります
 - **2**：検索エリアで2番目のバーコードである必要があります
 - **その他**

注：

- バーコードが[すべて]に設定されていない場合、[位置] は使用できません。
- エリアが[原稿の一部]に設定されている場合、[位置] は使用できません。
- 用紙に複数のバーコードがあり、特定のバーコードに基づいて仕分ける場合は、[位置] オプションを使用します。例えば、紙の中心から下に3つのバーコードがあり、真ん中のバーコードに基づいて仕分ける場合は、**2** を選択します。


データ — バーコードデータに何が必要かを示します。

- **内容** — データのタイプを選択します。
 - **すべての値** : データは何でもいいです。このオプションを使用すると、バーコードタイプ (Code 3 of 9 など) で仕分けます。
 - **番号** : バーコードデータを最大9桁の番号で比較できます。数字がない場合は、スペースがあつたとしても比較に失敗する恐れがあります。
 - **比較** : 次から比較方法を選択します。等しい、等しくない、より小さい、より大きい、以下、以上
 - **値** : バーコードデータを比較するための最大9桁の数字を入力します。
 - **文字** : バーコードデータを文字列で比較できます。検索する文字数はバーコードの値の最初の4096文字以内にする必要があります。
 - **比較** : 次から比較方法を選択します。含む、等しい、等しくない、で始まる、で始まらない、で終わる、で終わらない比較では大文字と小文字を区別しないため、「DATA」と「data」は同じです。
 - **値** : バーコードデータを比較するための最大32文字を入力します。
- **長さ** — 1 ~ 99の間で必要なデータ数を選択します (桁数と文字数)。
 - **すべて** : すべての文字数が基準を満たします
 - **等しい**
 - **等しくない**
 - **より小さい**
 - **より大きい**
 - **範囲内**

注 : バーコードが [すべて] に設定されていない場合、データオプションは使用できません。

OK — 変更を保存してこのウィンドウを閉じます。

キャンセル — 変更内容を保存せずにこのウィンドウを閉じます。

 **ヘルプ** : このウィンドウのヘルプ情報を表示します。

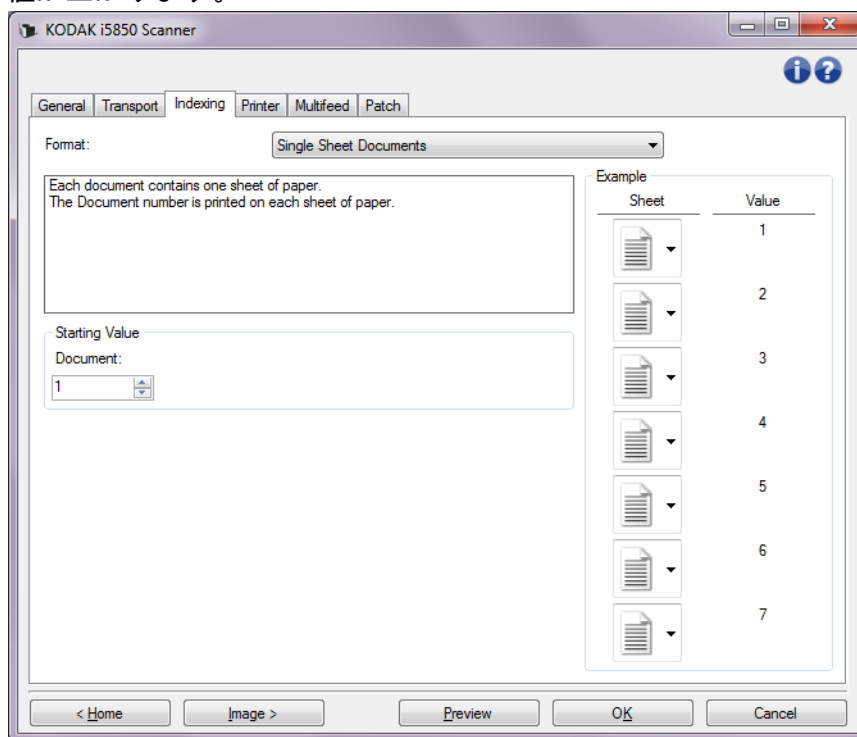
デバイス - [スタッキング] タブ

Kodak Controlled Dual Stacking Accessory をスキャナーに追加して有効にしている場合は、[スタッキング] タブが使用可能です。[スタッキング] タブでは、Kodak Controlled Dual Stacking Accessory 出力トレイの2つのスタックに原稿を仕分けるオプションを設定できます。手順については、「付録 A コントロール デュアル スタッキング」ページの 91 を参照してください。

[スタッキング] タブオプションはi5x50Sスキャナーではサポートされていません。

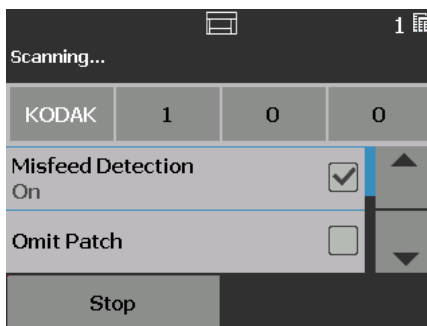
デバイス - [インデックス] タブ

インデックス作成は、ドキュメントの追跡、バッチ管理、イメージ管理に使用されます。このタブでの選択の設定に基づいてインデックスの値が上がります。

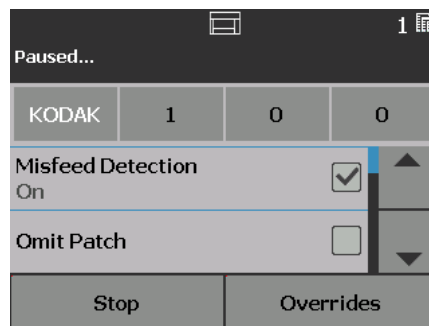


インデックスを [なし] に設定した場合、インデックスカウンタ値はスキャナーのオペレータコントロールパネルに表示されません。

インデックス - 有効



インデックス - 無効



注： オペレータコントロールパネルは、ジョブを開始するまで変更されません。

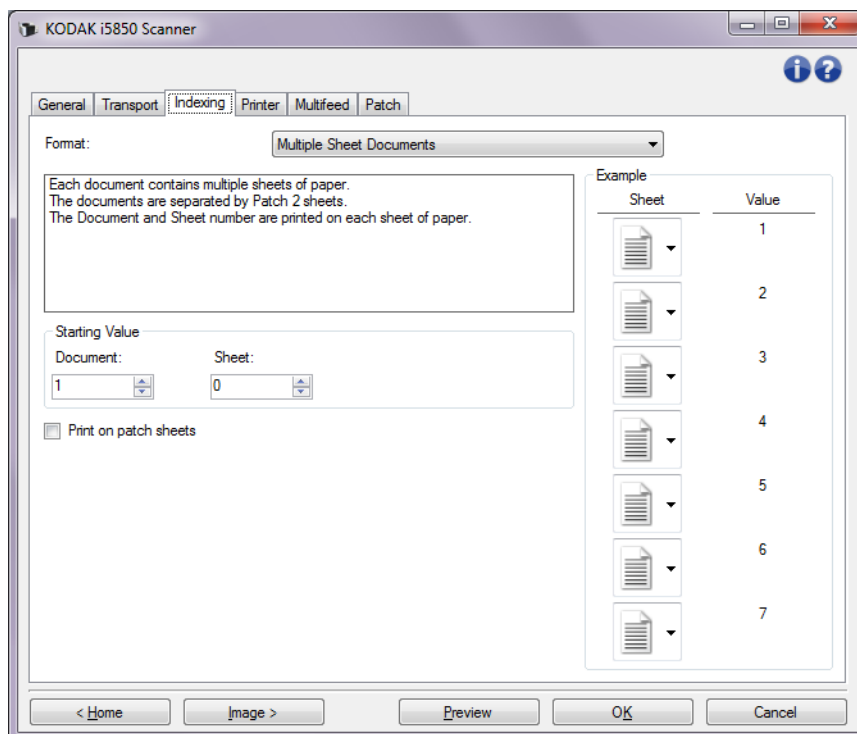
フォーマット

- (なし)
- **シングルシートドキュメント**：ジョブのドキュメント内の原稿が1枚だけの場合に使用します。スキャナーはスキャンされる原稿ごとに、ドキュメント番号をカウントします。**i5650/i5650S/i5850/i5850Sのみです。**
- **マルチシートドキュメント**：ジョブのドキュメント内の原稿が複数枚あり、各ドキュメント内の原稿を追跡する場合に使用します。スキャナーがパッチ2シートを検出すると、ドキュメント番号がカウントされ、シート番号が0に設定されます。しかし、スキャンされる最初のページがパッチ2シートで、開始シート番号が0の場合、どちらの番号も変更されません。これにより、最初のドキュメントの前にパッチ2シートをセットして、ドキュメント番号に影響しないようにできます。**i5650/i5650S/i5850/i5850Sのみ使用可能です。**
- **DCN/DLN/ベイツナンバー方式**：ジョブのドキュメント内の原稿が複数枚あり、ドキュメントの番号を追跡する場合に使用します。スキャナーがパッチ2シートを検出すると、ドキュメント番号がカウントされます。しかし、スキャンされる最初のページがパッチ2シートで、**新規のジョブ**がチェックされている場合、番号は変更されません。これにより、最初のドキュメントの前にパッチ2シートをセットして、ドキュメント番号に影響しないようにできます。**i5650/i5650S/i5850/i5850Sのみ使用可能です。**
- **イメージアドレス**：イメージアドレスの開始値を設定できます。このタブで設定したイメージアドレスルールに基づき、スキャナーはイメージアドレスをカウントします。**i5850/i5850Sのみ使用可能です。**

注：

- **[イメージアドレス]**が**[インデックス]** タブでフォーマットとして選択されている場合、**[パッチ]** タブのオプションを利用できます。
- (なし) とイメージアドレス以外のオプションの場合、フォーマットを選択するとプリンターテンプレートがドキュメントとシートの値 (利用可能な場合) で自動的に更新されます。プリンタがオンではない場合は、自動的にオンになります。
- 詳細については、「インテリジェントな 印字」 ページの 80を参照してください。

[フォーマット] 選択が [イメージアドレス] ではない場合、以下のオプションが利用できます。



開始値

- **ドキュメント** : ドキュメント番号の開始値を入力します。値の範囲は、[0] から [999,999,999]です。この値は、スキャナーが保持します。電源をオンにすると、スキャナーがこの値を初期化して1にします。
- **シート** : シート番号の開始値を入力します。値の範囲は、[0] から [999,999,999]です。この値は、スキャナーが保持します。電源をオンにすると、スキャナーがこの値を初期化して0にします。

注 : このオプションは、フォーマットがマルチシートドキュメントの場合のみ利用可能です。

- **新規ジョブ** : 次のスキャンが新規のジョブなのか、それとも前のスキャンの続きなのかを示します。この値は、スキャナーが保持します。電源をオンにすると、スキャナーがこの値を初期化してオンにします。

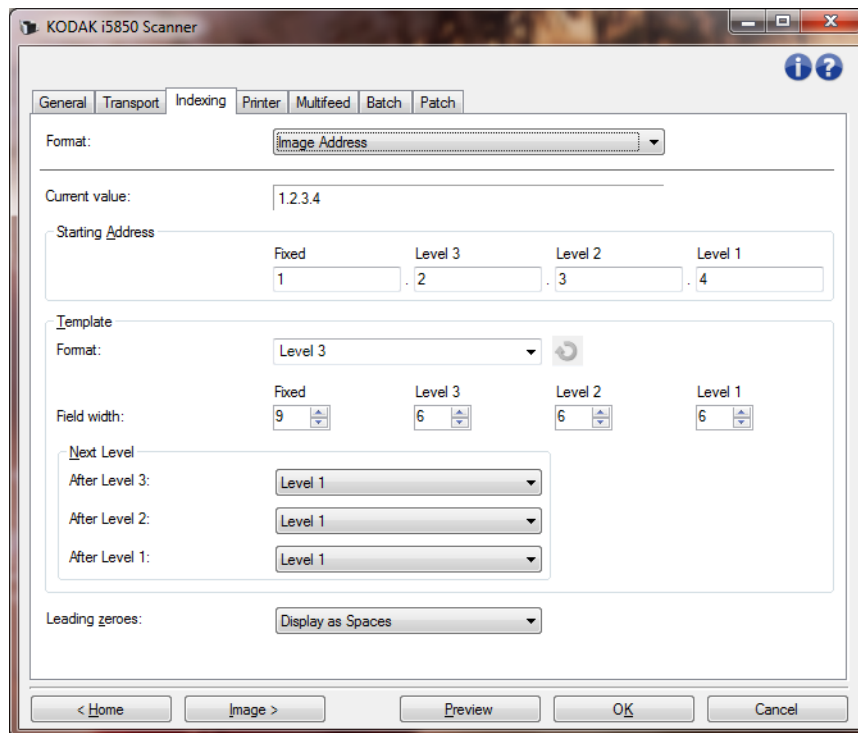
注 : このオプションは、フォーマットがDCN/DLN/ベイツナンバー方式の場合のみ利用可能です。

パッチシートに印字—パッチ2シートにも印字する場合に選択します。

注 : このオプションは、フォーマットリストからシングルシートドキュメントを選択した場合には利用できません。

例 — サンプルジョブと各シートにどのように印字されるかを示します。サンプルのシートをジョブを示すように変更できます。表示されている印字の値は、**開始値**、**パッチシートに印字**、**サンプル内のシートの現在の選択に基づきます**。

[フォーマット] 選択が [イメージアドレス] の場合、以下のオプションが利用できます。



現在の値 — スキャナーの現在のイメージアドレスを表示します。この値はスキャンされた次の原稿に割り当てられる次のイメージアドレスとして使用されます。


注： この値はスキャナーのオペレータコントロールパネルの[情報]画面に表示されます。

開始アドレス — **現在の値**に上書きするイメージの開始アドレスを入力できます。有効なフィールドごとに、入力可能な最大文字数を上限に、値を入力します。有効なフィールドの数、フィールドの種類、フィールドごとに入力可能な文字数は、[テンプレート] 設定の [フォーマット] および [フィールドの桁数]（以下を参照）に基づきます。

テンプレート

- **フォーマット**：イメージアドレスフォーマットを選択できます。下記の例は有効なフィールドを示します。
 - **固定**：固定
 - **レベル 3**：固定.レベル3.レベル2.レベル1
 - **レベル 2**：固定.レベル2.レベル1
 - **レベル 1**：固定.レベル1
 - **Level 3オフセット**：固定.レベル3.レベル2
 - **Level 2オフセット**：固定.レベル2

注：

- [フォーマット] の項目を選択すると、[フィールドの桁数] および [次のレベル] の設定は自動的にそのフォーマットのデフォルトに設定されます。
- [フィールドの幅] または [次のレベル] の設定に変更を加えた場合、フォーマットには <変更済み> というテキストが追加され、名前が斜体で表示されます（*レベル3 <変更済み> など）。
-  リセット：フォーマットへの変更を元に戻すことができます。これは、フォーマットを変更した場合のみ利用できます（例：斜体で <changed> というテキスト付きの場合）。
- フィールド桁数—各フィールド桁数を1-9桁の範囲で設定できます。すべてのフィールドの桁数の合計は27以下でなければなりません。したがって、フィールドの桁数は「9」以下の値に制限されます。
- 次のレベル：次のドキュメントに割り当てられるレベルです。
 - レベル3の後：レベル3のドキュメント以降のドキュメントに割り当てられるレベルを選択できます。
 - レベル2の後：レベル2のドキュメント以降のドキュメントに割り当てられるレベルを選択できます。
 - レベル1の後：レベル1のドキュメント以降のドキュメントに割り当てられるレベルを選択できます。

上記の3つのオプションは、レベル1、レベル2、レベル3です。ただし、有効なオプションはイメージアドレスフォーマットに基づきます。たとえば、[フォーマット] にフィールドと同じレベル3が選択されていない場合、[レベル3] は使用できません。

注： スキャン中、ドキュメントはパッチシートを挿入するか（ [パッチ] タブから有効になります）、スキャナーのオペレータコントロールパネルでフィールドレベルを選択することにより、レベルを割り当てることもできます。詳細については、スキャナーに付属の『ユーザーズ ガイド』を参照してください。

ゼロ付き — 値がフィールド桁数以下の場合、レベルアドレスフィールドのフォーマットを設定できます（例ではフィールド桁数が3、イメージアドレスがA.3.2.1です）。

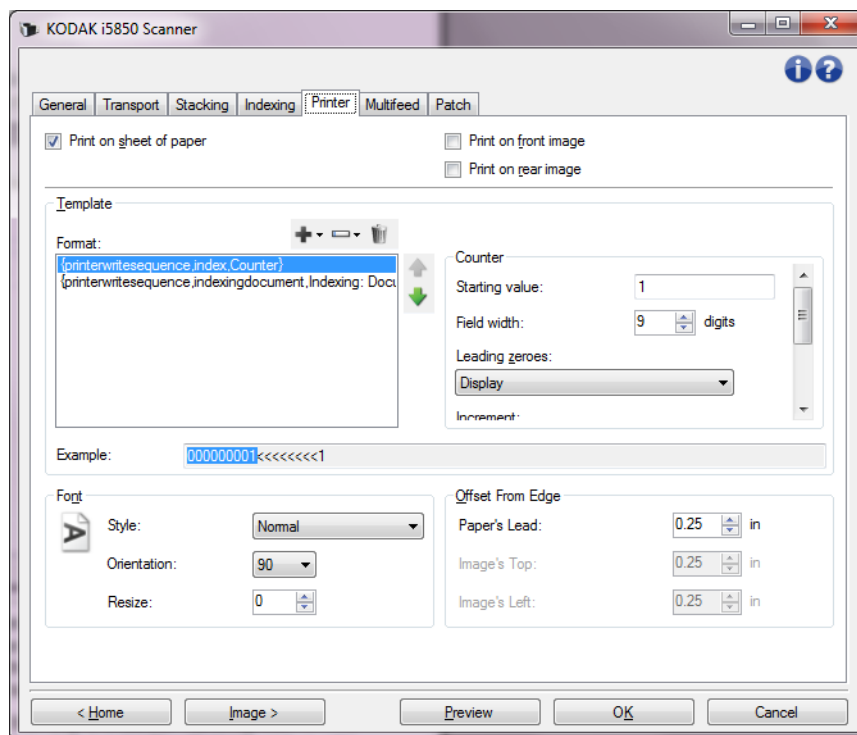
- 表示（例：A.003.002.001）
- 表示しない（例：A.3.2.1）
- スペースとして表示（例：A. 3. 2. 1）

デバイス - [プリンタ] タブ

プリンタには搬送方向に沿って印字できる機能で、英数字、日付、イメージアドレス、時刻、ドキュメントカウンタ（ナンバリング）、固定文字列がサポートされています。印字情報はすべての原稿のイメージヘッダに格納されます。

用紙に印字 — 原稿への印字を有効にします。

注： **用紙に印字オプション**は、オプションのプリンタアクセサリを購入してインストールしている場合のみ表示されます。



表面イメージに印字—表面イメージへのデジタル印字を有効にします。

裏面イメージに印字—裏面イメージへのデジタル印字を有効にします。




注： 印字はスキャナーのオペレータコントロールパネルから優先処理される場合があります。

設定するレベル— 特定の文字列を印字するドキュメントのレベルを選択します。たとえば、3つのレベルイメージアドレスを使用する場合、レベル3の原稿に日付を印字し、レベル2には何も印字せず、レベル1にドキュメント数を印字できます。すべてのレベルで印字内容を同一にする場合、**すべてのレベルが一致**を選択します。

注： このオプションは、[インデックス]タブで[フォーマット]が[イメージアドレス]に設定されている場合のみ使用できます。

テンプレート：フォーマット - 印字文字列を定義できます。印字文字列の最大文字数は40文字です（スペースを含む）。

プリンタテンプレートツールバーのボタン

	追加 ：印字文字列に追加する項目リストを表示します。項目を1つ選択すると、その項目は [フォーマット] リストの最後に表示されます。
	変更 ：[フォーマット] リスト内で現在選択されている項目を、表示されているそのリスト中の項目と変更できます。
	削除 ：現在選択されている項目を [フォーマット] リストから削除できます。

注： 印字文字列を構成する場合、40文字の制限に適合する項目だけを [追加] および [変更] リストから使用できます。

フォーマット項目 — 項目が選択されると、関連オプションがすべて [フォーマット] リストの右側に表示されます。

- **カウンタ**：この値は、スキャンされる原稿ごとに順次カウントされ、イメージヘッダ内に格納されます。
 - **開始値**：スキャンされる次の原稿に対する値を設定できます。
 - 注： この値を変更すると、[デバイス - 一般] タブの [用紙枚数カウンタ] オプションに影響が及びます。
 - **フィールドの桁数**：カウンタの桁数を1～9の範囲で設定できます。たとえば印字文字列が6文字しか残っていない場合は、フィールドも6文字に制限されます。
 - **ゼロ付き**：値がフィールドの桁数以下の場合、カウンタのフォーマットを設定できます（例ではフィールドの桁数が3、カウンタ値が4です）。
 - 表示：「004」
 - 表示しない：「4」
 - スペースとして表示：「 4」
 - **増分**：カウントアップするタイミングを設定できます。
 - すべての用紙
 - パッチタイプ T
 - パッチタイプ 1
 - パッチタイプ 2
 - パッチタイプ 3
 - パッチタイプ 6
 - **リセット**：カウンタをリセットするタイミングを設定できます。
 - ゼロ
 - パッチタイプ T
 - パッチタイプ 1
 - パッチタイプ 2
 - パッチタイプ 3
 - パッチタイプ 6
 - **値をリセット**：カウンタをリセットする場合の値を選択できます。

注： 詳細については、「インテリジェントな印字」ページの 80を参照してください。

- 日付

- フォーマット :

- MMDDYYYY
 - MMDDYY
 - DDMMYYYY
 - DDMMYY
 - YYYYMMDD
 - YYMMDD
 - DDD (Julian)
 - YYYYDDD (ユリウス暦)
 - YYDDD (ユリウス暦)

- 区切り記号 : (例はYYYYMMDDの場合です)

- (なし)

- スラッシュ : 2010/08/24

- ハイフン : 2010-08-24

- ピリオド : 2010.08.24

- スペース : 2010 08 24

- 指定の日付 : スキャナーの現在の日付を使用しない場合は、特定の日付を選択できます。

- 時刻

- フォーマット :

- HHmm
 - HHmmss
 - HHmmss.xx
 - hhmm
 - hhmmss
 - hhmmss.xx
 - hhmm tt
 - hhmmss tt
 - hhmmss.xx tt

- 注 : **HH** は00時から23時の24時間です。**hh** は01時から12時の12時間です。**mm** は00分から59分です。**ss** は00秒から59秒です。**xx** は00から99のカウンタです。**tt** は **AM** または **PM** です。

- 指定の時刻 : スキャナーの現在の時刻を使用しない場合は、特定の時刻を選択できます。

- スペース : スペースを追加します。

- インデックス:ドキュメントおよびインデックス:シート : このオプションは [インデックス] タブの [フォーマット] 設定に従って利用できます。

- 注 : これらのオプションは自動的にテンプレートに追加されません。オプションを削除することはできませんが、テンプレート内で移動することが可能です。

- ・ **イメージアドレス**： **固定**および**イメージアドレス**：[レベル]：これらは [インデックス] タブで定義されます。現在定義されているレベルのみ使用できます。

注： このオプションは、[インデックス]タブで[フォーマット]が[イメージアドレス]に設定されている場合のみ使用できます。

- **メッセージ**:印字文字列に固定文字列を指定できます。（スペースを含めて）最大 40文字まで指定できます。

注： 日本語を正しく表示するには、Microsoft Global IME for Japanese - with Language Pack, English Language Version をインストールしてMSゴシックをフォントに設定する必要があります。お使いのオペレーティングシステム用の正しいバージョンは <http://www.microsoft.com> で検索してください。

例 — 印字文字列がどのように表示されるか例を表示します。[フォーマット]リストで項目を選択すると、例で該当する部分が強調表示されます。

フォント — 情報を印字する方向を選択できます。

- ・ **スタイル**：使用可能な文字スタイルは以下のとおりです。 **標準**、**太字**、**極太**。

ABC

ABC

ABC

標準：90度回転

太字：90度回転

極太：90度回転

- ・ **方向**：文字を縦方向（原稿の先端から開始）に印字する場合、印字文字列の方向を選択できます。利用できるオプションは次のとおりです。 **0**、**90**、**180**、**270**。

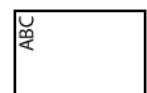
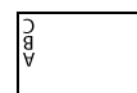
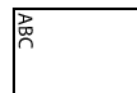
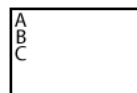
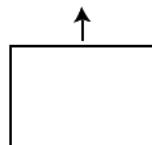
紙送りの方向

0

90

180

270



- ・ **サイズ変更**:フォントの幅を調整できます。デフォルト値は**0**（調整なし）に設定されています。

注： このオプションは、原稿に印字する場合のみ影響します。

印字開始位置 — 値を設定して、原稿の先端から印字を開始する位置を設定します。

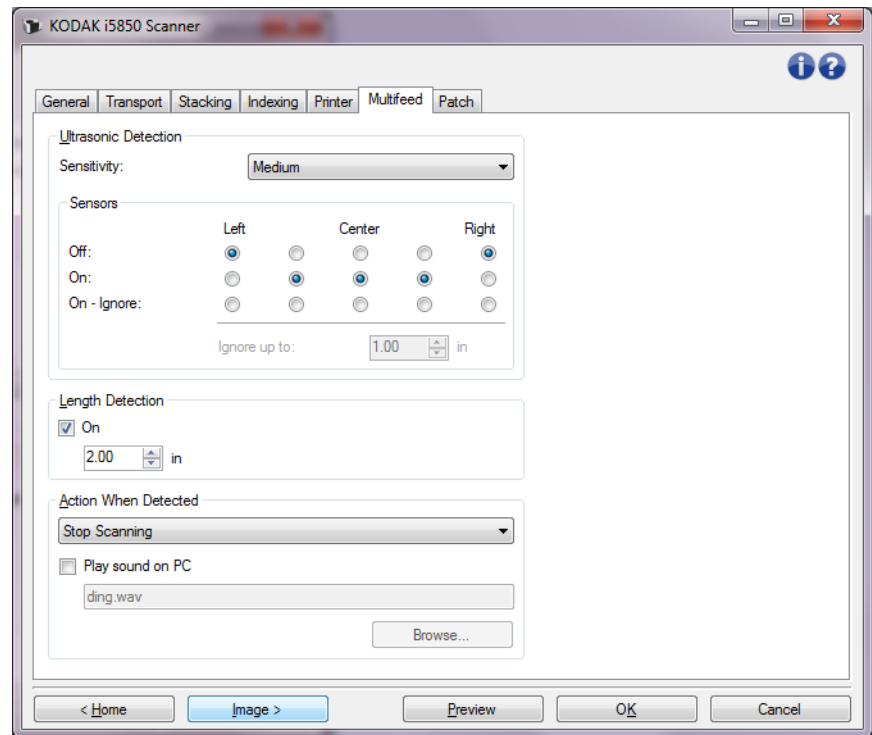
- **用紙の先端**：原稿の先端からの距離の値を選択します。

注：

- 情報がすべて印字されていなくても、印字は原稿の後端から6.3 mm (1/4 インチ) のところで自動的に停止します。
- 水平方向の印字位置は、スキャナー内部のインクカートリッジの位置によって決まります。印字位置の設定についての詳細はユーザーズガイドを参照ください。
- このオプションは、原稿に印字する場合のみ使用できます。
- 印字開始位置も、スキャナーのオペレータコントロールパネルで無効にすることができます。
- **イメージの上端**：画像の上端からの距離の値を選択します。
- **イメージの左端**：画像の左端からの距離の値を選択します。

注： **イメージの上端** および **イメージの左端** オプションは、デジタルでイメージに印字する場合のみ利用できます。

重送検知機能は、原稿が重なった状態で給紙された時点で重送を検知します。重送はステープルで綴じられた原稿、原稿への粘着物、静電気を帯びている原稿が原因で生じます。



超音波検知

感度 — 原稿の重複を検知する度合いを指定します。重送は、原稿とのすきまを検出することにより、識別されます。そのため、厚さの異なる原稿が混在しているような場合でも、重送を検知できます。

- (なし)
- **低**：感度が低い設定で、ラベルが貼られた原稿、紙質の悪い原稿、シワがある原稿を重送として認識する可能性が低くなります。
- **中**：厚さが異なる原稿や、ラベルが貼られた原稿をスキャンする場合に使用します。ラベルの材質にもよりますが、大部分のラベルは重送とは認識されません。
- **高**：最もレベルが高い設定です。この設定は、すべての原稿が75.2g/m²（20 ポンド）以下のポンド紙である場合など、厚さが同じ原稿をスキャンする場合に適しています。

注： 設定の内容に関係なく、「貼付された」メモは重送原稿として検知されます。

センサ—5つのセンサが搬送路の幅をカバーします。重送原稿が正しく検知されるためには、これらのセンサの下を通過しなければなりません。

- **左から右**：5ヶ所から有効にするセンサを選択できます。たとえば、原稿の左側にメモが「貼付」されている場合、左のセンサをオフにできます。
- **無視する上限**：入力した値まで重送を無視します。このオプションは重送検知センサを完全に無効にすることなく重送を許可したい場合に便利です（例：3インチ（約7.6 cm）の付箋）。

注：

- このオプションを使用するには1つ以上のセンサを **[ON-無視]** に設定する必要があります。
- この長さは **[ON-無視]** に設定されているすべてのセンサに適用されます。

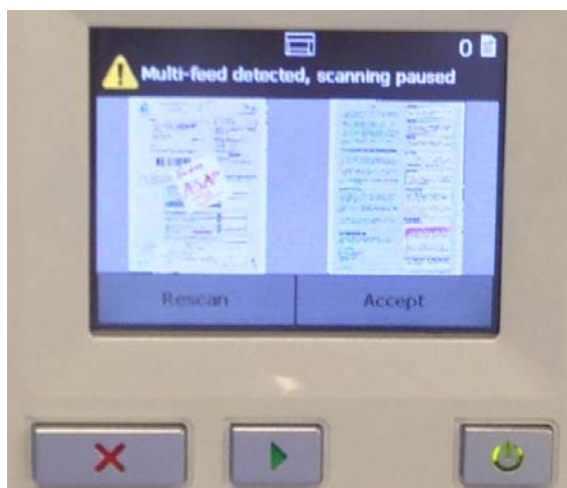
長さによる検知—ジョブ設定で原稿の最大の長さを選択できます。スキャナーがこの値より長い原稿を検知した場合、重送が発生したと判定します。このオプションは**無効**、または長さを設定できます。

検知時の動作—重送検知時のスキャナーの動作を選択します。オプションに関係なく、状態はスキャナーのログに記録されます。

- **スキヤンの停止**：スキヤンを停止し、スキヤンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。重送原稿のイメージは生成されません。搬送部に原稿が残っていないことを確認後、スキヤンアプリケーションからスキヤンを再開してください。
- **スキヤン停止 - イメージ生成**：スキヤンを停止し、スキヤンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。重送書類のイメージが生成されます。搬送部に原稿が残っていないことを確認後、スキヤンアプリケーションからスキヤンを再開してください。
- **スキヤンの停止-用紙を搬送部に残す**：スキヤンを直ちに停止し（搬送路はクリアされません）、スキヤンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。重送原稿のイメージは生成されません。搬送路から原稿を取り除き、スキヤンアプリケーションからスキヤンを再開してください。
- **スキヤンの停止 - 用紙を排紙口に残す**：スキヤンを停止し、重送原稿の最後の部分を搬送口に残し、コントロールをスキヤンアプリケーションに戻します（ジョブを終了します）。重送原稿のイメージは生成されません。搬送路から原稿を取り除き、スキヤンアプリケーションからスキヤンを再開してください。
- **スキヤンの続行**：スキャナーがスキヤンを継続します。重送書類のイメージが生成されます。

- **スキャナー一時停止 - 用紙を搬送部に残す** : スキャンがただちに停止します（搬送路をクリアしようとしませんが、スキャンアプリケーションは、次のイメージの取得を待機します（フィーダを停止します）。重送原稿のイメージは生成されません。スキャンセッションを開始する前に、搬送路からドキュメントをクリアします。スキャナーの**[開始/再開]** ボタンを押すと、スキャンが再開します。スキャナーの**[停止/一時停止]** ボタンを押して、またはスキャンアプリケーションからスキャンを終了できます。スキャナーはユーザーが重送用に設定した音を鳴らします。
- **スキャナー一時停止-イメージ生成** : スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは次のイメージの取得を待機します（フィーダを停止します）。重送書類のイメージが生成されます。スキャナーの**[開始/再開]** ボタンを押すと、スキャンが再開します。スキャナーの**[停止/一時停止]** ボタンを押して、またはスキャンアプリケーションからスキャンを終了できます。

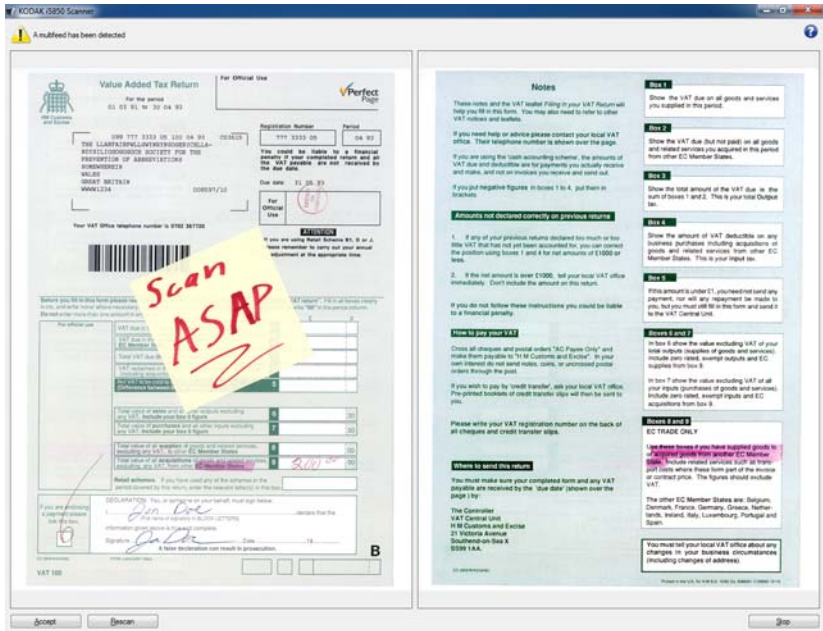
このオプションを使用すれば、スキャンしたページのプレビューイメージを確認し、スキャンしたイメージの承認、またはそのページの再スキャンするかを選択して、重送アラームを作動させたスキャンのイメージを破棄することができます。スキャンしたイメージは承認されるまでホストアプリケーションには送信されません。このオプションにより、すべての重送イベントをスキャナーで処理できます。スキャンアプリケーションでイメージ操作は必要ありません。このオプションより、スキャナの前にいるだけで、無駄な動作を削減し、あまり疲れることはありません。このオプションはスキャナが実行します。スキャンアプリケーションを変更する必要はありません。



プレビューイメージは、TWAINデータソースで選択したイメージ処理設定（90度回転など）に応じて回転します。スキャンアプリケーションがイメージを回転している場合、またはその他のイメージ処理を実行している場合、プレビューイメージにはスキャンイメージ処理が適用されません。

- 両面（表面と裏面）スキャンの場合は、両方のイメージが表示されます。
- 白黒スキャンの場合は、白黒のイメージが表示されます。
- カラー／グレースケールスキャンの場合は、カラー／グレースケールのイメージが表示されます。
- デュアルストリームスキャンの場合は、カラー／グレースケールのイメージが表示されます。
- VRSソフトウェアによる白黒スキャンの場合は、グレースケールのイメージが表示されます。
- **イメージの承認**：イメージを承認する場合は、オペレータコントロールパネルで **[承認]** を選択するか、スキャナーの **[開始/再開]** ボタンを押します。**[承認]** を選択すると、スキャナーのプレビューに表示されたイメージがすぐにスキャンアプリケーションに送信され、スキャンが続行されます。
- **ページの再スキャン**：ページの再スキャンが必要な場合は、出力トレイから一番上の原稿を取り除いて、入力エレベータに戻します（原稿の再セットやその他処理をしてください）。ページを再スキャンする準備が整ったら、オペレータコントロールパネルの **[再スキャン]** を選択します。プレビューイメージは破棄されます。印字が有効でない場合、スキャナーはすぐにスキャンを開始します。印刷が有効になっている場合、スキャナーには **[停止]** 画面が表示され、スキャンされた次のページの **[印字をスキップ]** が選択できます。その後、スキャナーの **[開始/再開]** ボタンを押して、スキャンを続行します。
- **スキャンの一時停止 - 用紙を排紙口に残す**：スキャンは停止し、重送原稿の最後の部分が搬送口に残りますが、スキャンアプリケーションは他のイメージを待機します（フィーダを停止します）。重送原稿のイメージは生成されません。スキャンセッションを開始する前に、搬送路からドキュメントをクリアします。スキャナーの **[開始/再開]** ボタンを押すと、スキャンが再開します。スキャナーの **[停止/一時停止]** ボタンを押すか、スキャンアプリケーションからスキャンを終了できます。

- **対話型の重送リカバリ**：スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは次のイメージの取得を待機します（フィーダを停止します）。重送原稿のイメージがコンピュータに表示されます。これらのイメージを承認または再スキャンして差し替えることもできます。コンピュータで、またはスキャナーのオペレータコントロールパネルを使用して選択できます。イメージをアプリケーションに送信し、**[承認]**を選択してスキャンを再開します。**[再スキャン]**を選択するとイメージが破棄され、スキャンが再開します。**[停止]**を選択するとスキャンが停止します。



注： 重送原稿を入力エレベータにセットしてから、**[再スキャン]** を選択します。

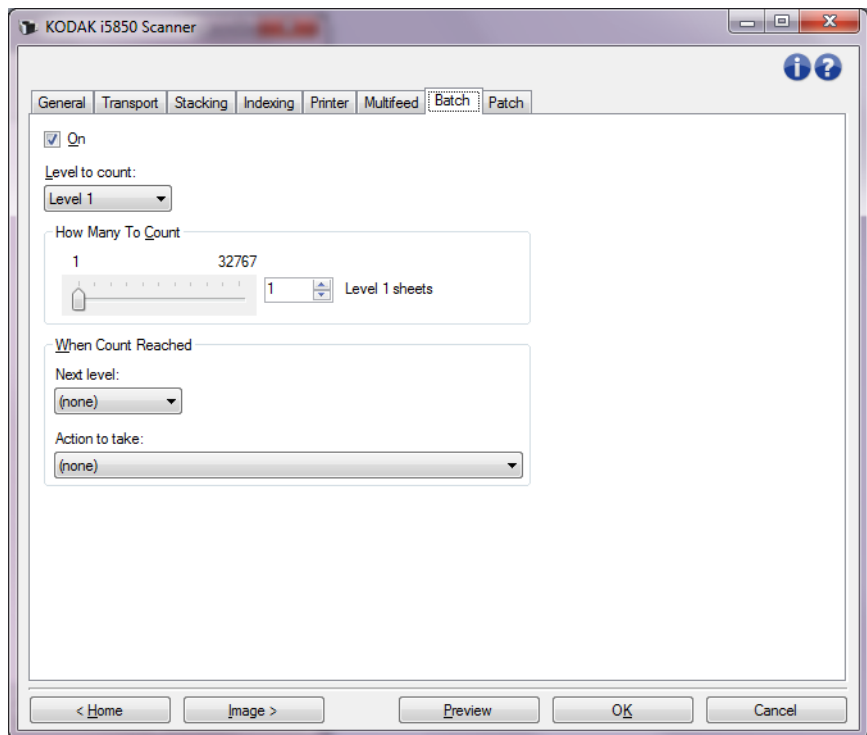
PCの音源を鳴らす — 重送検知時にPCから音を鳴らす場合、このオプションを選択します。**[参照]** ボタンをクリックして、再生する.wavファイルを選択できます。

注： コンピュータの音源は、スキャナーの重送検知時と同時に鳴らない場合があります。

デバイス - [バッチ] タブ

バッチは、ページ／ドキュメント数をカウントする作業です。

注： このタブは、[インデックス]タブで[フォーマット]が[イメージアドレス]に設定されている場合のみ使用できます。



オン—バッチ処理を有効にして、このタブの他のオプションを設定可能にします。

カウントレベル—カウントするレベルを設定します。オプションは、[レベル1]、[レベル2]、[レベル3]です。

注： カウントするレベルは、[インデックス] タブで定義されているイメージアドレスプレート内になければなりません。

カウント数—カウントに到達したら、操作を実行する前にカウントする原稿の枚数を設定します。

指定枚数に達している場合

- 次のレベル：カウントが指定枚数に達した後次のドキュメントへのレベルを定義します。（なし）、[レベル1]、[レベル2]、[レベル3]が選択できます。

注： カウントするレベルは、[インデックス] タブで定義されているイメージアドレスプレート内になければなりません。

実行するアクション：バッチ処理の最後の原稿を処理した後に実行するアクションを定義します。

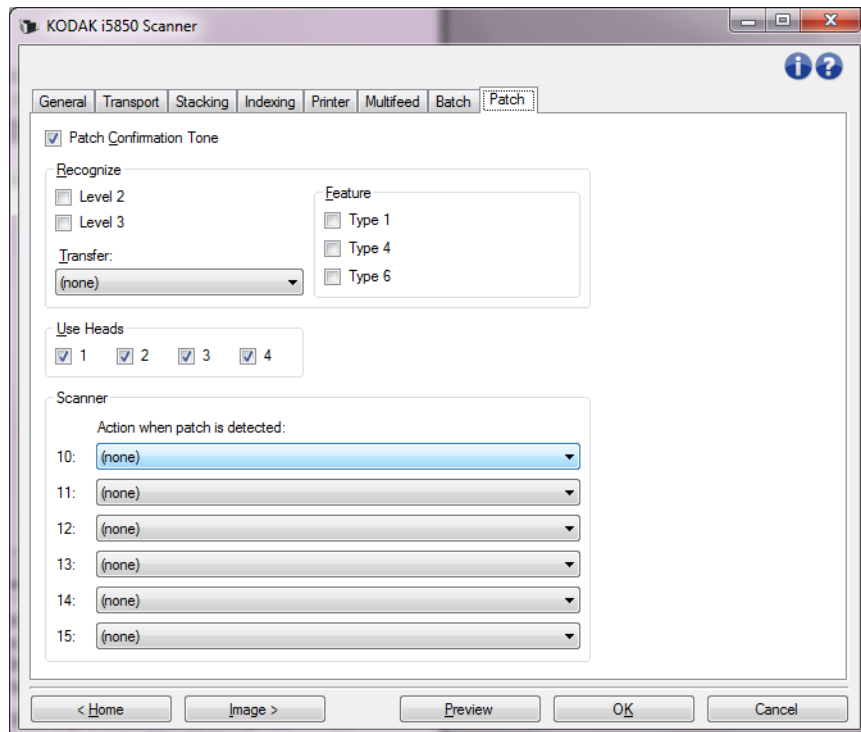
- **スキャン一時停止**：スキャンは停止しますが、スキャンアプリケーションは次のイメージの取得を待機します（フィーダを停止します）。スキャナーのオペレータコントロールパネルの **[再開]** を選択してスキャンを再開できます。スキャナーのオペレータコントロールパネルの **[ジョブの終了]** を選択して、またはスキャンアプリケーションからスキャンを終了できます。
- **スキャンの停止**：スキャンを停止し、スキャンアプリケーションに戻ります（ジョブを終了します）。スキャンアプリケーションからスキャンセッションを再開します。
- **スキャンを続行してカウントを再開**：スキャナがスキャンを続行し、**[カウント数]** をリセットすると新しいバッチが自動的に開始されます。

注： また、スキャナーオペレータコントロールパネルを使用して **[カウント数]** の値が指定枚数に達する前にバッチを終了することもできます。

デバイス - [パッチ] タブ

[パッチ] タブで認識するパッチの種類を選択できます。複数のパッチを1度に選択できます。認識されたパッチの種類は、イメージヘッドに送られます。

パッチリーダーはあらかじめ定義されたパッチコードを自動的に感知し、原稿のレベル変更を制御するために設定できます。詳細については、『ユーザーズガイド』の第6章「パッチの読み取り」を参照してください。



パッチ確認トーン - パッチが認識されたことを通知するために確認トーンを使用できます。デフォルトでは確認トーンは無効です。

認識 — 認識するパッチの種類を選択します。

- **レベル 2** : レベル2 を現在のドキュメント（パッチが付いているドキュメント、またはレベル2 パッチ シートのいずれの場合でも）に割り当てます。
- **レベル 3** : レベル3を現在のドキュメント（パッチが付いているドキュメント、またはレベル3 パッチ シートのいずれの場合でも）に割り当てます。
- **トランスファー** : 次のドキュメントにレベルを割り当てます（トランスファーパッチシートの後）。
 - なし : トランスファーパッチを認識しない場合にこのオプションを選択します。
 - **レベル2として認識**
 - **レベル3として認識**

注 : トランスファーパッチはレベル0として処理されます。

機能

- **パッチタイプ1、4、および6**—これらのパッチタイプは、スキャン後のイメージコントロールのためにスキャンアプリケーションで使用できます。（イメージアドレス管理には使用されません。）たとえば、これらのパッチタイプは、白黒イメージ処理およびカラー/グレースケールイメージ処理間の切り替えなどのワークフロー制御のために使用します。

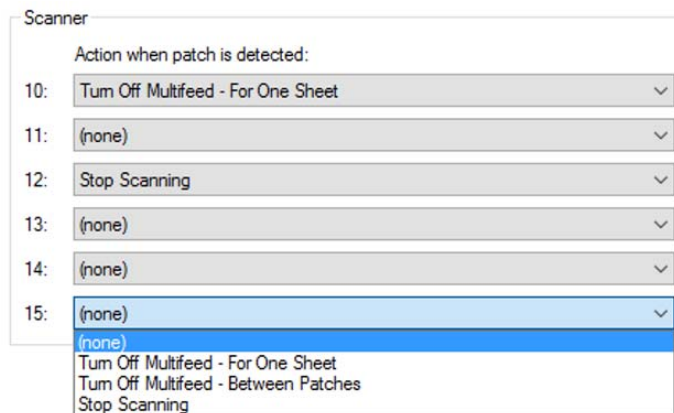
注： このオプションは、[インデックス]タブで[フォーマット]が[イメージアドレス]に設定されている場合のみ使用できます。

ヘッドの使用 — 使用するパッチヘッド/リーダーを選択します。各パッチヘッド/リーダーは個別にオン/オフに設定できます。

注： このオプションは、[インデックス]タブで[フォーマット]が[イメージアドレス]に設定されている場合のみ使用できます。

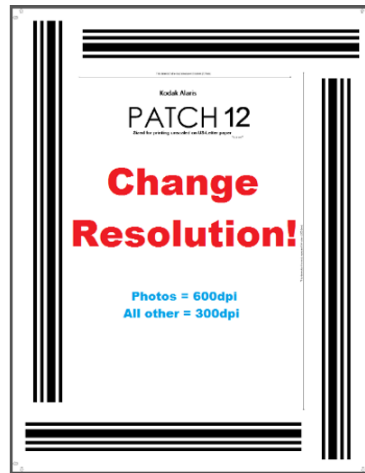
スキャナー — このオプションで一連のスキャナーコントロールパッチを使用できます。このパッチは10～15の番号が付いた新しいパッチパターンで、原稿の準備中に用紙のバッチにパッチページを挿入してスキャナーの機能を自動的に制御するために準備されています。例えば、スキャン原稿以外に封筒のスキャンも必要なジョブがあるとします。封筒をスキャンすると重送が発生してパフォーマンスが低下します。これを避けるため、スキャンアプリケーションの**パッチ検出時のアクション**オプションを使用してスキャナーコントロールパッチの1つを選択し、**重送検知OFF-1枚のみ**オプションを割り当てることができます。例えば、パッチタイプ10を選択した場合、封筒の前にパッチ10シートを挿入してスキャナーでの重送の発生を防ぎます。

[パッチを認識した場合のアクション] からいずれかを選択します。



- **重送検知OFF-1枚のみ**：この機能の作動に使用するパッチに続くページの重送検知を無効にします。
- **重送検知OFF-パッチの間**：パッチ認識後、次に同じパッチを認識するまで重送検知を無効にします。この機能は不要な重送イベントを発生させるパッチタイプ1、4、6原稿がバッチに存在する場合に最適です。

- **スキヤンの停止**：原稿のバッチの特定のポイントでスキヤンを停止します。このオプションは原稿のスキヤンの仕方に変更が必要な場合に使用できます。例えば、ビジネス用原稿を200dpiでスキヤンし、そのバッチ内に高解像度（600dpiのカラーイメージ）でスキヤンする必要がある写真が含まれている場合、バッチの写真の直前および直後に**スキヤンの停止**パッチを挿入してスキヤナーを停止し、解像度を変更できます。また、パッチページに指示を印刷して必要な変更を示すことができます。



注： また、スキヤンアプリケーション（Kodakキャプチャプロソフトウェアなど）は**スキヤンの停止**パッチページにデータを埋め込んで、自動的にスキヤナー設定の変更、スキヤンの再開を行うことで、必要な変更を完全自動化できます。

インテリジェントな 印字

一部のKodak スキャナーはインテリジェントな印字をサポートしており、スキャナーはバッチスキャンした各原稿へ固有のカウンタ値を原稿に印字したり、イメージに付加できます。例えば、原稿のバッチの給紙で、各原稿はページの集合であり、原稿に固有のドキュメントロータ番号の印字が必要な場合、インテリジェントな印字で実行できます。インテリジェントな印字では3つのオプションが利用できます。

1. **パッチカウント** : Kodak i5x50、i5x50Sおよび i5x50V スキャナーのオプションでは、イメージまたはページへのスキャナーカウンタの印字時、原稿のスキャンごと、パッチパターン付きの原稿のスキャン時に限りカウントアップできます。また、パッチタイプを原稿区切りシートに選択し、異なるパッチページを使用してカウンタをリセットできます。パッチのカウントオプション使用時の制限として、パッチパターン付きのページにも印字され、使用するパッチページには垂直方向のパッチバーを使用する必要があります。パッチイメージにはパッチページとして読み込まれたことを示すメタデータは含まれません

重要 : *パッチの使用とインテリジェント印刷、またはインデックスとインテリジェント印刷などの一部の組み合わせを、正しく設定するのは大変です。見かけは正しように印刷を設定することは可能ですが、他の設定が正しくないとイメージヘッダーの情報が印字文字列の情報と一致しません。次の組み合わせを使用する場合、予期せぬ結果を招く恐れがあります。*

- インデックスとパッチカウントの組み合わせは設定が難しいです。印刷ページ枚数とホストソフトウェアのカウンタ値の間のカウンタの同期に問題がある場合、パッチカウントとインデックス用にスキャナーを不注意に設定している場合があります。
- インデックスを使用する場合は、TWAIN 印字フォーマット文字列にカウンタの値を含まない方がいいです。
- パッチカウントを使用する場合は、TWAIN印字フォーマット文字列に次の値を含まない方がいいです。

[インデックス:ドキュメント]

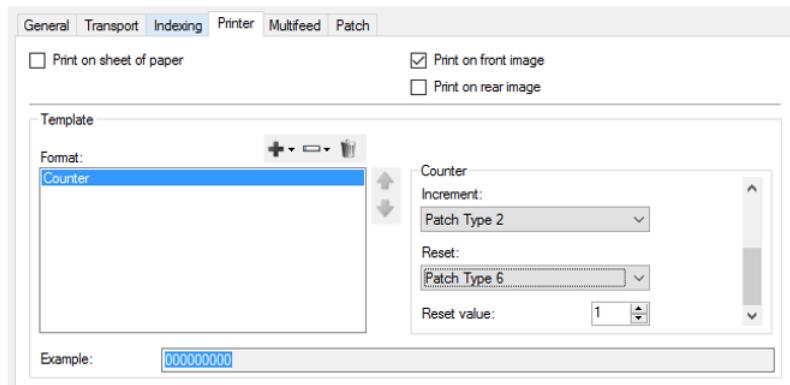
[インデックス:シート]

[イメージアドレス : 固定]

[イメージアドレス : レベル3]

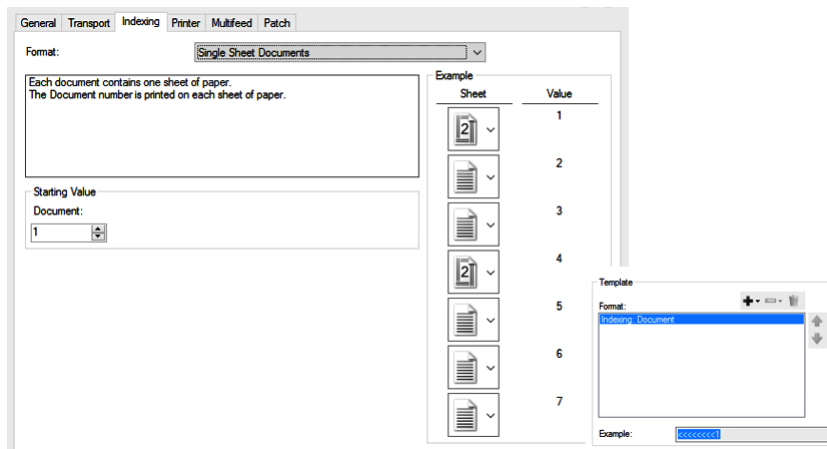
[イメージアドレス : レベル2]

[イメージアドレス : レベル1]

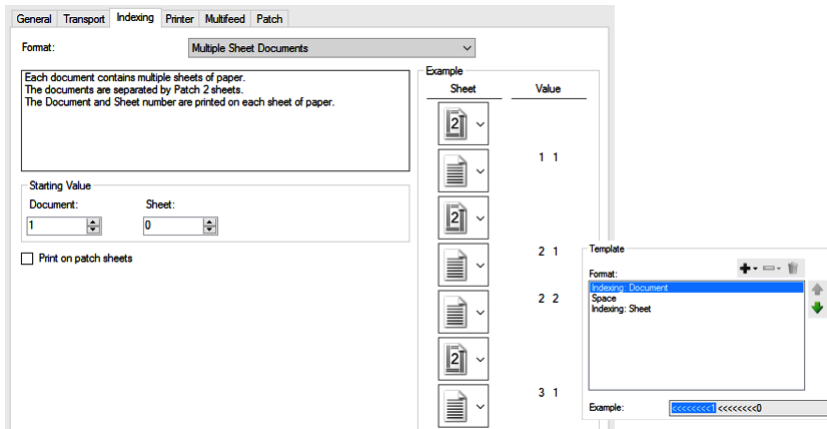


2. **インデックス** : i5650、i5650S、i5850 および i5850S スキャナーにはインデックス機能があります。インデックスにはあらかじめ設定された3つのオプションがあり、原稿またはイメージへの番号の付け方を決定します。インデックスオプションのどれかを選択すると、プリンタ設定は自動的に更新されてインデックスカウンタを含めます。使用できるのは原稿区切り用タイプ2のパッチのみです。また、インデックスではタイプ2のパッチページをスキャン時に印字できません。スキャン時にインテリジェントカウントアップの状態を確認するため、スキャンアプリケーションサンプル画像を利用してインタラクティブに印字サンプルを確認できます。インデックス使用時に、パッチイメージにはパッチページとして読み込まれたことを示すメタデータは含まれません。

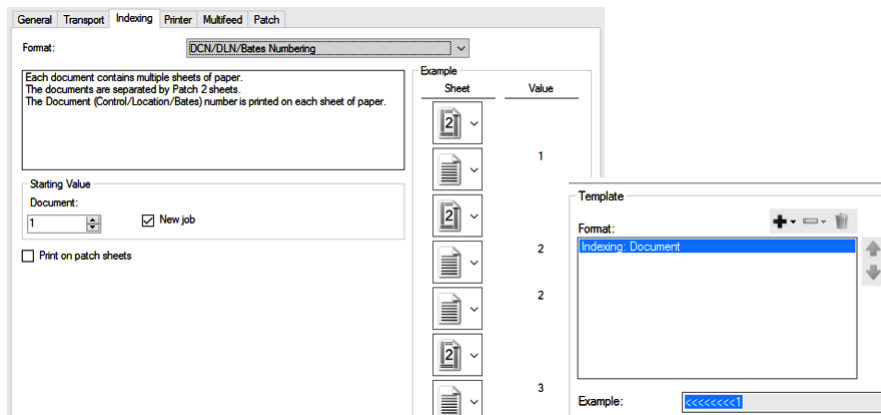
- シングルシートドキュメントはプリンタのページカウンタと同等です。シングルシートドキュメントのインデックスではすべてのページはドキュメントをカウントアップして印字します。印字テンプレートには「インデックス：ドキュメント」カウンタが含まれます。



- マルチシートドキュメントのインデックスではページに2レベルのカウンタが使用できます。タイプ2のパッチのスキャンごとにドキュメントをカウントアップします。各パッチページが認識される毎にシートカウンタは必ず0にリセットされ、そのパッチページに続いて原稿がスキャンされる毎にカウントアップされます。タイプ2のパッチページ上に印字する（または印字しない）よう選択できます。印字テンプレートには「インデックス：ドキュメント」および「インデックス：シート」カウンタがあります。



- **DCN/DLN/ベイツナンバー方式のインデックス**では単一ドキュメントカウンタをDCN（ドキュメントコントロール番号）、DLN（ドキュメントロケータ番号）として使用、あるいはベイツカウンタをページまたはイメージに印字できます。タイプ2のパッチのスキヤン時にのみDCN/DLN/ベイツカウンタがカウントアップします。タイプ2のパッチページ上に印字する（または印字しない）よう選択できます。



3. フルイメージアドレス。i5850、i5850Sスキャナーは最大3レベルのカウンタが使用可能なイメージアドレスオプションがあります。i1860およびi800 スキャナーのイメージアドレス機能に対応したアプリケーションは引き続きKodak i5850/i5850S スキャナーで稼働します。

General Transport Stacking Indexing Printer Multifeed Batch Patch

Format: Image Address

Current value: 1.2.3.4

Starting Address

Fixed	Level 3	Level 2	Level 1
1	2	3	4

Template

Format: Level 3

Field width:

Fixed	Level 3	Level 2	Level 1
9	6	6	6

Next Level: Level 1

After Level 3: Level 1

After Level 2: Level 1

After Level 1: Level 1

Leading zeros: Display as Spaces

Check digit

Template

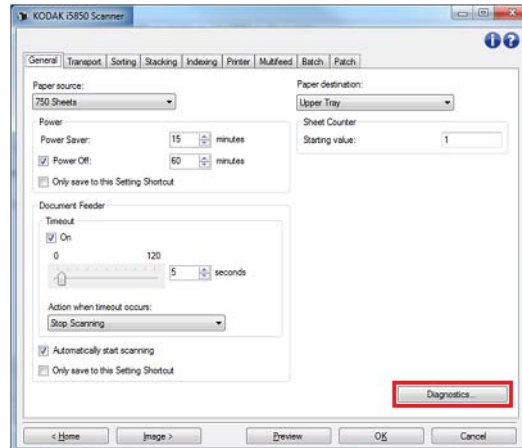
Format:

- Image Address: Fixed
- Image Address: Level 3
- Image Address: Level 2
- Image Address: Level 1

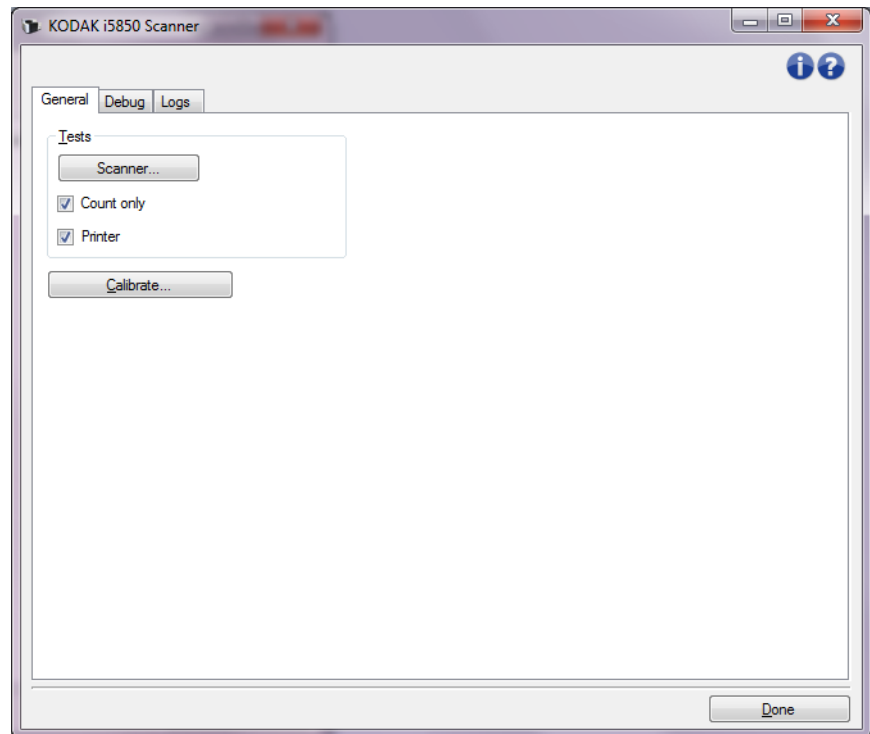
Example: FFFFFFFFF333332222211111

[診断] ウィンドウ

[診断] ウィンドウは、[デバイス設定] ウィンドウの [一般] タブにある [診断] ボタンからアクセスできます。



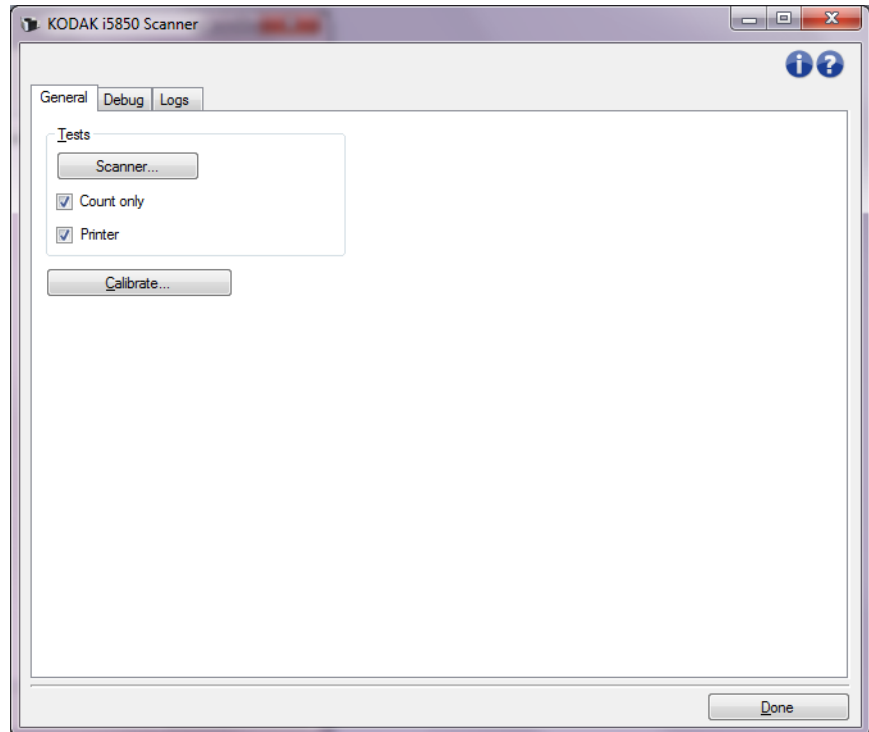
[診断] ウィンドウではスキャナーの診断機能を使用できます。[診断] ウィンドウには、[一般]、[デバッグ]、[ログ]のタブがあります。



完了 — [デバイス設定] ウィンドウに戻ります。

診断 - [一般] タブ

[一般] タブでは、スキャナーのテストや、スキャナーのキャリブレーションを行います。



テスト

- **スキャナー** — このボタンをクリックすると、スキャナー各部が正常に動作しているかどうかを確認するために、一連のテストが行われます。このテストは、電源オン時のセルフテストと似ていますが、さらに広範囲なテストが行われます。
- **カウントオンリー** — スキャンアプリケーションにイメージを送信せずにスキャナーに入る原稿の枚数を数えます。このテストは、オプション有効時のスキャンセッション中に実行します。
- **プリンタ** — 拡張プリンタの機能性（すべてのインクジェットが機能しているかなど）をテストします。このテストは、オプション有効時のスキャンセッション中に実行します。

注： **カウントオンリー**および**プリンタ**テストは、スキャンアプリケーションがスキャナーから切断されると、自動的に終了します。

キャリブレーション - [キャリブレーション] ウィンドウを表示します。このウィンドウから超音波キャリブレーションを実行できます。

注： キャリブレーションは頻繁に行う必要はなく、またお勧めもありません。サポート担当の指示があった場合にのみキャリブレーションを実行します。

スキャナーを移動 — フラットベッドカメラを配送用のロック位置に移動します。

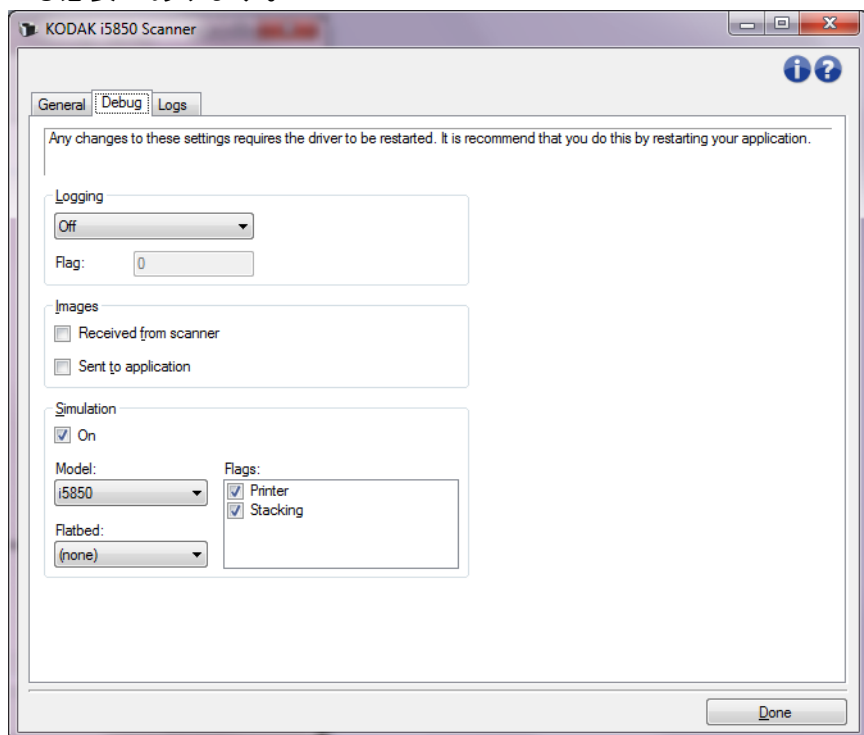
注： このオプションは、デバイスがフラットベッドに設定され、取り付けられているフラットベッドアクセサリにロックスイッチがある場合にのみ利用できます。

診断 - [デバッグ] タブ

[デバッグ] タブでは、スキャナーを使用中に発生した問題を診断するのに役立つオプションを利用可能にできます。このタブは、テクニカルサポートから指示がある場合のみ使用してください。

注：

- このタブにあるすべてのオプションは、現在選択されている設定のショートカットだけでなく、すべての設定のショートカットに適用されます。
- このタブでの変更を有効にするには、アプリケーションを再起動する必要があります。



ログ—スキャナーとスキャンアプリケーションの間で行われた通信を保存します。オプションは、[OFF]、[ON]、[カスタム]が用意されています。

イメージ

- **スキャナーから受信**：コンピュータがスキャナーから受信したイメージを保存します。
- **アプリケーションに送信**：スキャンアプリケーションがスキャナーから受信したイメージを保存します。

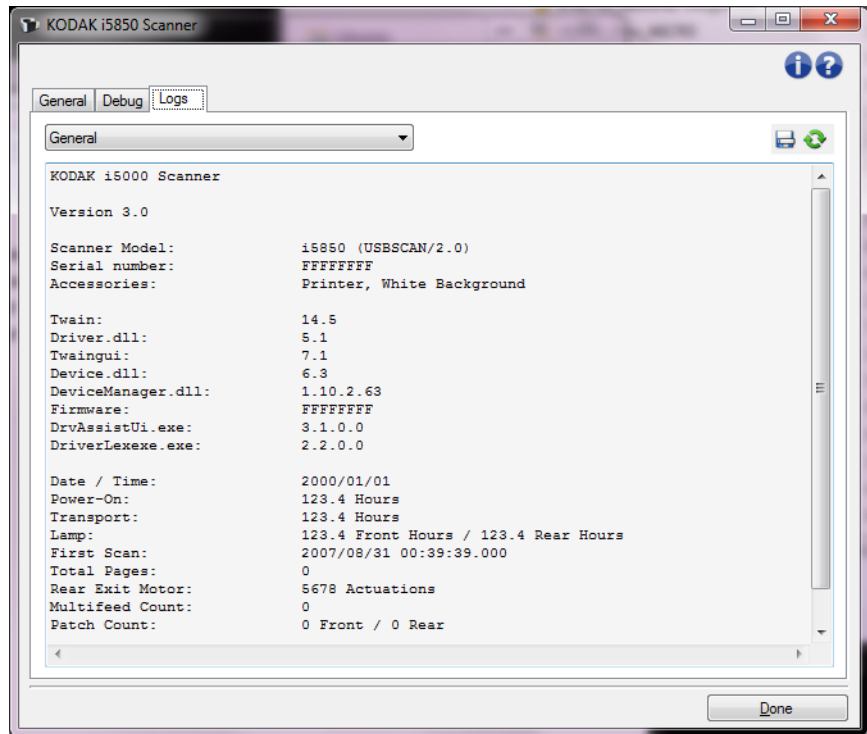
シミュレーション—実際にスキャナーを使用しないでTWAINドライバ/データソースを使用できます。

- **モデル**：シミュレートするスキャナーのモデルを指定できます。
- **フラットベッド**：フラットベッドアクセサリを選択してシミュレーションを実行します。

- **フラグ**：お使いのTWAINドライバ/データソースがこのオプションをサポートしている場合、シミュレートするスキャナーにインストールされているアクセサリのリストが表示されます。

診断 - [ログ] タブ

[ログ] タブでスキャナー情報が表示されます。



ログ

- **一般**：スキャナーのバージョン情報、シリアル番号、インストール済みアクセサリ、メーターなどが表示されます。
- **オペレータ**：スキャナーのログが表示されます。このログはKodak Alarisテクニカルサポートによってのみクリアされます。

[ツールバー] ボタン



名前を付けて保存：テクニカルサポートが閲覧できるようにすべてのログを保存します。選択すると [名前を付けて保存] ウィンドウが表示されます。

- **説明**：ログを保存する問題/理由の簡単な説明を入力します。
- **フォルダ**：ログの保存先です。
- **参照**：OSの [ファイルを開く] ウィンドウが表示され、使用するフォルダを検索できます。
- **デバッグイメージを含む**：生成されたデバッグイメージをログと共に保存します。このオプションはデフォルトで有効になっています。テクニカルサポートから指示された場合のみ無効にしてください。
- **保存**：拡張子.eklogでログファイルを保存します。



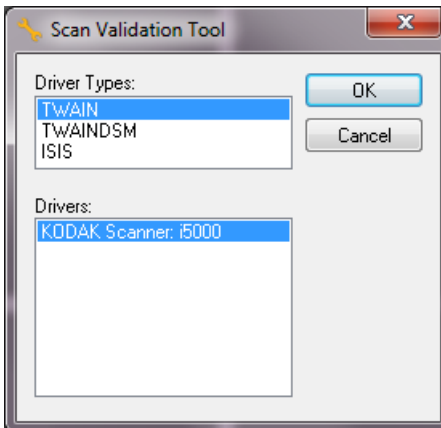
更新：現在表示されているログを更新します。

Scan Validation Tool

もう一つの便利な診断ツールにKodak Alaris Inc.提供の診断アプリケーションであるScan Validation Tool (SVT) があります。SVTユーザーインターフェイスでスキャナーのすべての機能にアクセスできるため、スキャナーが正常に動作しているかどうか効率的にチェックできます。Scan Validation Toolでは、TWAIN/TWAINDSMデータソースまたはISISドライバを使用してスキャナーの機能を検証できます。

[Scan Validation Tool]の起動

1. [スタート]>[プログラム]>[Kodak]>[原稿のイメージング]>[i5x50]>[SVT診断]の順に選択します。

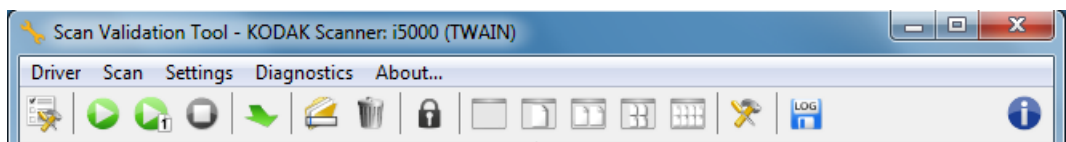


2. [ドライバの種類]に**TWAIN/TWAINDSM**（または**ISIS**）を選択し、[ドライバ]に **Kodak Scanner i5x50 Scanner**を選択します。

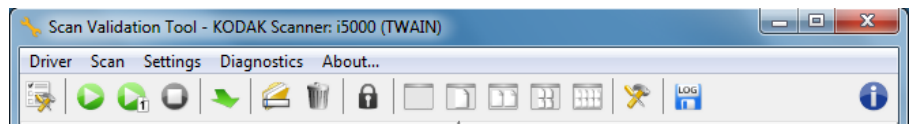
ドライバの種類は次のとおりです：

- **TWAIN** — Windows 提供の twain_32.dll を通じて TWAIN インタフェースを使用します。twain_32.dll がWindows フォルダにある場合のみ、このオプションは使用できます。
- **TWAINDSM** — TWAIN ワーキンググループ 2.x Data Source Manager (DSM) を通じてTWAIN インタフェースを使用します。TWAINDSM.dll が Windows システムフォルダにある場合のみ、このオプションは使用できます。
- **ISIS** — ISIS インタフェースを使用します。PIXDFLTN.DLL が Windows 32ビットシステムフォルダにある場合のみ、このオプションを使用できます。

[Scan Validation Tool] ダイアログボックスが表示されます。



Scan Validation Tool ツール バーのボタン



STV ツールバーのボタンで次の機能を実行できます。



セットアップ — 選択されたドライバ用のユーザインタフェースを表示します。



スキャン開始 — 入力エレベータにある原稿をスキャンします。



1 ページスキャン — 1 ページだけスキャンします。



停止 — スキャンを終了します。



ドライバを変更/開く — 現在開いているドライバを閉じ、[ドライバ選択]ウィンドウを表示します。



保存先 — スキャンしたイメージを保存するディレクトリとファイル名を選択します。このオプションは、[イメージをファイルに保存]を選択した場合のみ利用できます。



削除 — 選択したイメージを削除します。



ライセンスキー — [ライセンスキー]ウィンドウを表示します。



表示モード (画像なし) — イメージビューアウィンドウを閉じます (イメージは表示されません)。



表示モード (1 画像) — 1 回に 1 枚のイメージを表示します。



表示モード (2 画像) — 1 回に 2 枚のイメージを表示します。



表示モード (4 画像) — 1 回に 4 枚のイメージを表示します。



表示モード (8 画像) — 1 回に 8 枚のイメージを表示します。



TWAIN 設定 — [TWAIN 設定]ウィンドウを表示します。



ログの保存 — ログファイルを保存できます。



バージョン情報 — [バージョン情報]ウィンドウを表示します。

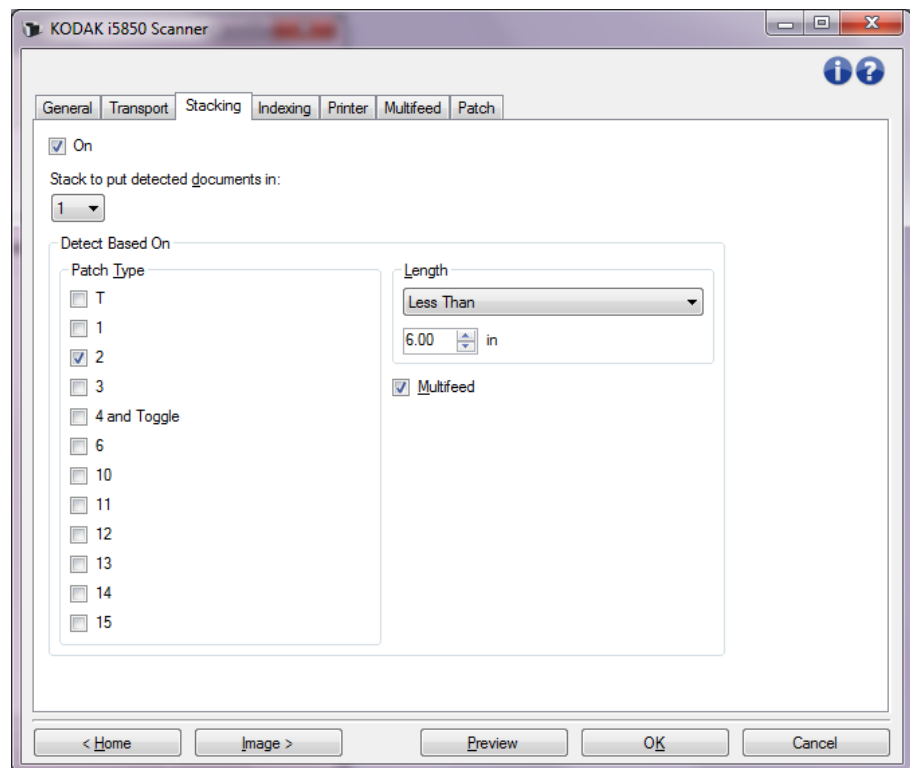
付録 A コントロール デュアル スタッキング

デバイス - [スタッキング] タブ

[スタッキング] タブでは、Kodak Controlled Dual Stacking Accessory 出カトレイの2つのスタックに原稿を仕分けるオプションを設定できます。

注：

- [スタッキング] タブは、スキャナーでKodak Controlled Dual Stacking Accessoryが有効な場合にのみ使用できます。
- [スタッキング] タブオプションはi5x50Sスキャナーではサポートされていません。



オン — スタッキングをオンにして、このタブの他のオプションを使用可能にします。

注： スキャナーのオペレータコントロールパネルからオンまたはオフにすることで、スタッキングは優先処理される場合もあります。

検出された原稿を入れるスタック - どのスタックに検出基準設定に一致する原稿を入れるかを指定します。一致しない原稿はすべて別のスタックに入ります。

注： 原稿の重さや状態により、原稿を最適にスタックできるかどうかに影響する可能性があるため、長さが6インチ/152 mm未満の原稿（請求書など）はスタック#1に、6インチ/152 mm以上の原稿（パッチシートなど）はスタック#2に分類することをお勧めします。

検出基準

- **パッチタイプ** — パッチシートがある場合、どのパッチシートを原稿セットから分類し、そして選択したスタックにセットするかを選択できます。次の任意の組み合わせがオプションになります。T、1、2、3、4、トグル、6、10、11、12、13、14、15。パッチシートはスタック#2に入れることをお勧めします。

スキャナーのオペレータコントロールパネルのデュアルスタッキングオプションでは、パッチシートを使用して原稿をスタック#2またはスタック#1にスキャンする原稿と分類することができます。

注：

- スキャナーはパッチシートのイメージを生成します。
- スキャナーは垂直のパッチのみ認識します。
- パッチシートを硬い紙に印刷すると、より確実にスタッキングできるようになります。
- 詳細については、『ユーザーズガイド』6章の「パッチコードの要件」のセクションを参照してください。

長さ — 原稿の長さに基づいて原稿セットからどの原稿を分類するか選択できます。

- (なし)
- **未満**：この長さ未満の原稿は分類されて選択したスタックにセットされます。比較的短い原稿（請求書など）をスタック1に分類する場合に、このオプションをお勧めします。
- **以上**：この長さ以上の原稿は分類されて選択したスタックにセットされます。比較的長い原稿をスタック2に分類する場合に、このオプションをお勧めします。
- **範囲内**：長さが選択した範囲内の原稿は分類されて選択したスタックにセットされます。

注：

- スキャン中に原稿が斜めに傾いてしまうこともあるので、長さには1/2インチ/13 mmを加算して入力してください。
- 6インチ/152 mm未満の原稿では、短原稿インサートを使用することで、スタック1へのスタッキングをより確実に行うことができます。

重送 — 重送検知された原稿をすべて分類する場合、このオプションを選択します。これをオンにする設定、および重送検知の設定は、[デバイス - 重送] タブで行います。

注：

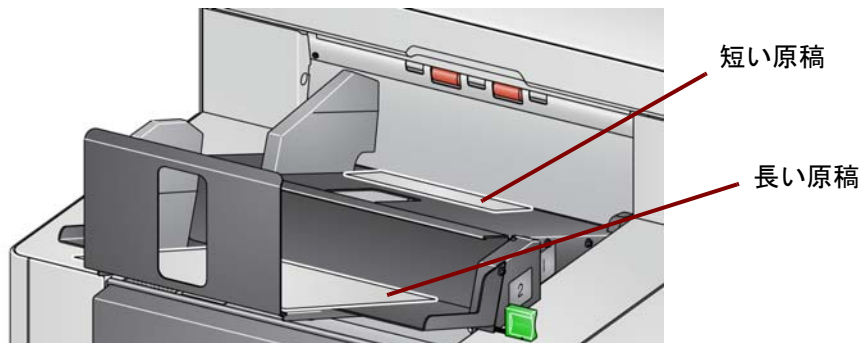
- 比較的厚い原稿を検知し、これらをスタック2に分類することが可能になることで、このオプションにはさらなる機能があります。すべての原稿が同じようなサイズのため、長さを基準とした検知が使用できないような場合、このオプションは良い選択になります。

- このオプションは、重送検知を自動的にオンにしません。「デバイス - [重送検知] タブ」ページの 70を参照してください。

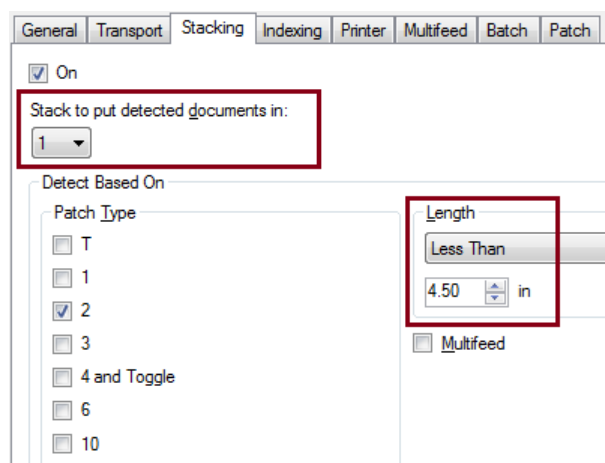
スタッキングオプションを使用する場合の推奨設定

以下に、スタッキングオプションを使用する例を示します。

短い原稿の仕分け



請求書などの短い原稿をその他の原稿と仕分ける場合、スタッキング設定を次のように設定します。



検出された原稿を入れるスタックを

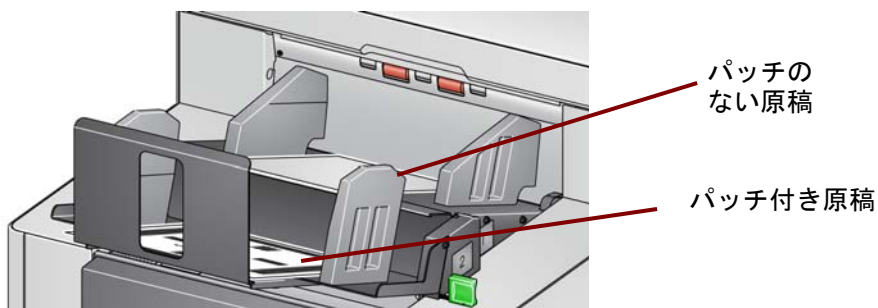
1 (スタック#1)に、

長さオプションを未満に設定して、最も短い原稿に1/2インチを加算した長さを設定します。

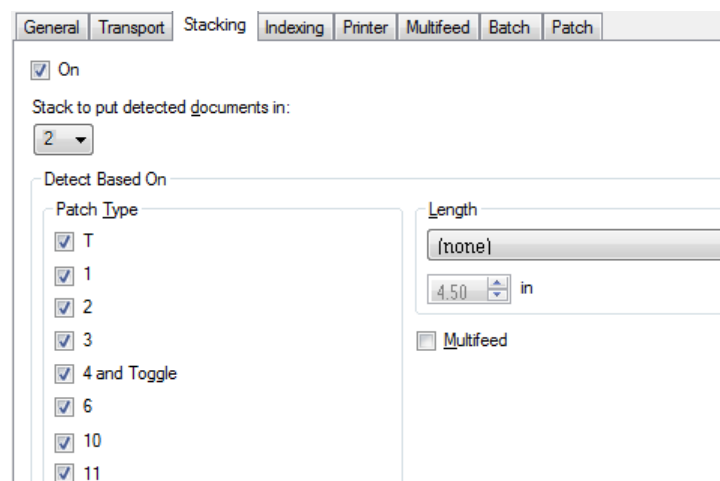
注：

- 短い原稿を給紙中に斜めに傾いてしまうこともあるので、1/2インチを加算する必要があります。
- 比較的短い原稿をスタック #2 にスタッキングしようとしても、スタック#2の位置には届かず、うまくいきません。
- 6 インチ未満の原稿では、短原稿インサートを使用することで、スタック#1へのスタッキングをより確実に行うことができます。

パッチコード付き原稿セパレータの仕分け



パッチコード付き原稿セパレータシート（またはカラートグルパッチシート）をその他の原稿と仕分ける場合、スタッキング設定を次のように設定します。



検出された原稿を入れるスタックを

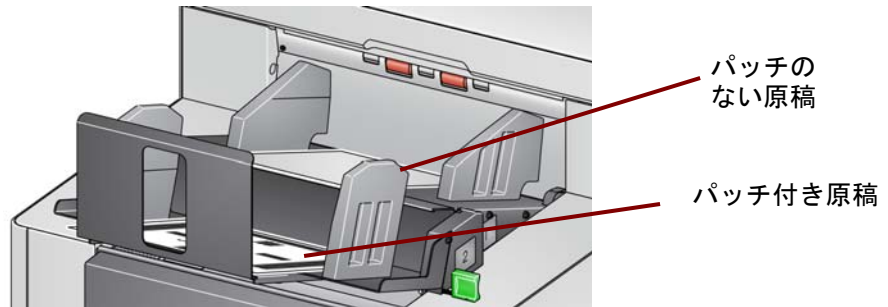
2 (スタック#2)に、

検知基準: のパッチタイプオプションに、1つ以上のパッチタイプを設定し、

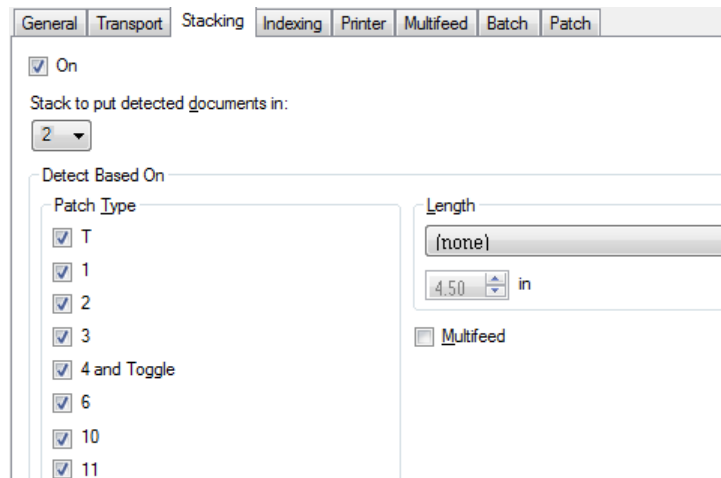
原稿セパレーション用に使用するパッチ付き原稿を挿入します。

パッチ付き原稿は、通常では大量に注文されるか、要求に応じて印刷されます。デュアルスタッキングでは、作業に役立つ硬い紙を検出し、この厚い用紙にパッチ付き原稿を印刷します。これにより、ソートとステッキングがより確実にできるようになります。

選択した原稿の仕分け



選択した原稿 (1万ドルを超える請求書など) を仕分ける場合、スタッキング設定を次のように設定します。



検出された原稿を入れるスタックを

2 (スタック#2)に、

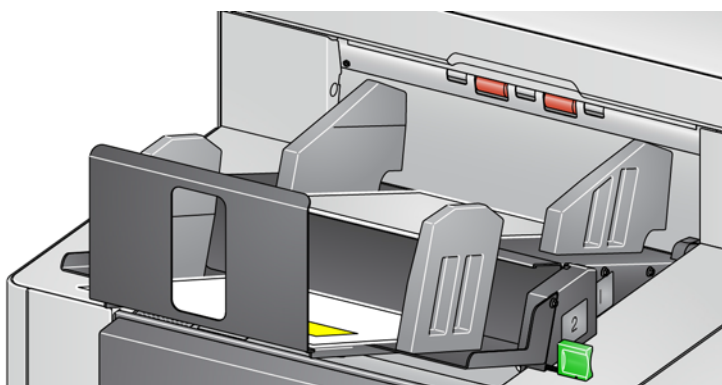
検知基準 : のパッチタイプオプションに、1つ以上のパッチタイプを設定し、

スキャナーのオペレータコントロールパネルにある**デュアルスタッキング**を原稿セパレーションに指定していないパッチタイプに設定します(パッチ6など)。

原稿の準備中に仕分ける原稿の前後にパッチシートを挿入します。

スキャン後、パッチシートと原稿はスタック#2に出力されます。

重送アラーム原稿の仕分け



重送アラームが鳴った原稿を仕分ける場合、スタッキング設定を次のように設定します。

A screenshot of a software interface showing the 'Stacking' settings. The 'On' checkbox is checked. The 'Stack to put detected documents in:' dropdown is set to '2'. Under 'Detect Based On', the 'Patch Type' list has checkboxes for T, 1, 2, 3, 4 and Toggle, 6, 10, and 11, all of which are checked. The 'Length' field is set to '(none)'. The 'Multifeed' checkbox is also checked.

General Transport **Stacking** Indexing Printer Multifeed Batch Patch

On

Stack to put detected documents in:

2

Detect Based On

Patch Type

T

1

2

3

4 and Toggle

6

10

11

Length

(none)

4.50 in

Multifeed

検出された原稿を入れるスタックを

2 (スタック#2)に、

検知基準：を**重送検知**オプションに設定することで、重送検知により例外スタッキングを作動させます。たとえば、スタック#2で重送アラームを作動させる原稿のスタッキングは、比較的厚い原稿を仕分ける方法になり得ます。サイズやパッチではこのような原稿を仕分けられません。

注： **最大長の許可**を優先にしても、管理デュアルスタッキングの長さ保護は無効になりません。



Kodak Alaris Inc.
2400 Mount Read Blvd.
Rochester, NY 14615

© 2016 Kodak Alaris Inc.
All rights reserved.

コダックの商標およびトレード
レスはイーストマンコダック社の
許可を受けて使用しています。